

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成27年5月1日現在)

武庫川女子大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	16
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	19
基礎資料 4	カリキュラムマップ	112
基礎資料 5	語学教育の要素	128
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習のスケジュール	129
基礎資料 7	学生受入状況について	140
基礎資料 8	教員・事務職員数	141
基礎資料 9	専任教員年齢構成	142
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	143
基礎資料11	卒業研究の配属状況	162
基礎資料12	講義室等の数と面積	163
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	166
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	167
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	168

(基礎資料1-1) 学年別授業科目

	1 年 次						
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法	
(択) 「ふつう」を考える社会学 (1)	前期	110	1	13	コ		2
(択) CSビジネスコミュニケーション (1)	前期	40	1	3	コ		2
(択) TOEICリーディング (初級) (1)	前期	40	1	1	コ		1
(択) TOEICリーディング (中級) (1)	前期	40	1	1	コ		1
(択) アウシュビッツ 戦争と女性 (1)	前期	200	1	3	コ		2
(択) 雨月物語に込められた情念	前期	100	1	10	コ		2
(択) 生きがい探しのボランティア論 (1)	前期	100	1	18	コ		2
(択) 遺伝子の不思議 (1)	前期	100	1	7	コ		2
(択) 命を守る生体の機構と科学 (1)	前期	100	1	1	コ		2
(択) 英会話基礎 (3)	前期	30	1	2	コ		2
(択) 英語リーディング (初級) (1)	前期	40	1	1	コ		1
(択) 大阪の地域文化と東アジア (1)	前期	100	1	1	コ		2
(択) 音楽の科学 (1)	前期	100	1	16	コ		2
(択) 会社のしくみ (1)	前期	100	1	5	コ		2
(択) カウンセリングスキル (1)	前期	50	1	6	コ		2
(択) カウンセリングの実際 (1)	前期	55	1	6	コ		2
(択) 合唱表現 I	前期	100	1	3	コ		1
(択) 環境問題の歴史	前期	100	1	13	コ		2
(択) 観光とサービス (1)	前期	100	1	1	コ		2
(択) 韓国文化の理解 (1)	前期	100	1	2	コ		2
(択) 感性の書 (1)	前期	60	1	1	コ		2
(択) 記憶からたどる鳴尾の歴史	前期	50	1	3	コ		2
(択) キャリアプランニングの基礎 (1)	前期	100	1	1	コ		2
(択) 薬と心理学	前期	100	1	53	コ		2
(択) グローバル化とキャリア	前期	100	1	1	コ		2
(択) 健康を支える仕組み (1)	前期	100	1	6	コ		2
(択) 現代家族論 (1)	前期	100	1	5	コ		2
(択) 現代家族論 (2)	前期	100	1	7	コ		2
(択) 現代フランスの音楽事情 (1)	前期	100	1	19	コ		2
(択) 健美・操体法 (1)	前期	50	1	1	コ		1
(択) 広告表現の考え方 (1)	前期	100	1	7	コ		2
(択) 広告表現の考え方 (2)	前期	100	1	9	コ		2
(択) 国際航空とツーリズム (1)	前期	100	1	8	コ		2
(択) ころとからだの心理学 I	前期	100	1	11	コ		2
(択) 子育てと家族関係	前期	100	1	6	コ		2
(択) 子育てと母性の気づき	前期	100	1	1	コ		2
(択) シェイクスピア入門	前期	100	1	1	コ		2
(択) 色彩情報 (1)	前期	100	1	1	コ		2
(択) 実践カウンセリング (1)	前期	55	1	7	コ		2
(択) 実践コミュニケーション (1)	前期	50	1	1	コ		2
(択) 社会福祉とボランティア (1)	前期	100	1	17	コ		2
(択) 障がい者と障害の理解 (1)	前期	100	1	9	コ		2
(択) 障がい者と障害の理解 (2)	前期	100	1	10	コ		2
(択) 生涯福祉論 (1)	前期	100	1	34	コ		2
(択) 消費者生活論 (1)	前期	100	1	11	コ		2
(択) 情報ツールとオフィスワーク (1)	前期	55	1	1	コ		2
(択) 情報と社会 (1)	前期	100	1	15	コ		2
(択) 食生活からの化学入門	前期	100	1	24	コ		2
(択) 書の世界 (1)	前期	60	1	4	コ		2
(択) 心理学入門 (1)	前期	100	1	10	コ		2
(択) 神話・伝説の世界から (1)	前期	100	1	10	コ		2
(択) 神話・伝説の世界から (2)	前期	100	1	7	コ		2
(択) 数的能力の発達過程 (1)	前期	100	1	28	コ		2
(択) 数的能力の発達過程 (2)	前期	100	1	4	コ		2
(択) スポーツ実技 (エアロビクス) (2)	前期	50	1	1	ジ		1
(択) スポーツ実技 (軽スポーツ) (1)	前期	50	1	1	ジ		1
(択) スポーツ実技 (卓球) (2)	前期	50	1	1	ジ		1
(択) スポーツ実技 (バレーボール) (2)	前期	50	1	1	ジ		1
(択) 生活のデザイン (1)	前期	100	1	3	コ		2
(択) 生活の中の美的感動表現 (1)	前期	50	1	1	コ		1
(択) 生活の中の美的感動表現 (2)	前期	50	1	2	コ		1
(択) 生活を科学する (1)	前期	100	1	21	コ		2
(択) 生態学的視覚論	前期	110	1	16	コ		2

教養教育・語学教育	(択) 生態系サービスと生物多様性 (1)	前期	100	1	40	コ	2
	(択) 生命科学と現代社会 (1)	前期	100	1	17	コ	2
	(択) 生命科学入門 (1)	前期	100	1	18	コ	2
	(択) 生命科学の基礎	前期	100	1	13	コ	2
	(択) 世界の大学事情	前期	100	1	11	コ	2
	(択) 世界の中の日本人 (1)	前期	100	1	1	コ	2
	(択) 先端芸術表現 (1)	前期	50	1	7	コ	1
	(択) 大学生生活入門 (1)	前期	150	1	1	コ	2
	(択) 中国語 I (1)	前期	40	1	1	コ	2
	(択) 中国語 I (5)	前期	40	1	2	コ	2
	(択) 聴覚障害者の理解と手話 (2)	前期	55	1	1	コ	2
	(択) 調理と健康 (1)	前期	100	1	7	コ	2
	(択) 調理と健康 (2)	前期	100	1	11	コ	2
	(択) 天文学入門 (1)	前期	100	1	18	コ	2
	(択) 都市形成のあゆみと都市生活	前期	100	1	8	コ	2
	(択) 斜めからみる西洋音楽	前期	100	1	10	コ	2
	(択) 日常生活からの哲学入門 (1)	前期	100	1	10	コ	2
	(択) 日本近代文学の魅力 I (2)	前期	100	1	5	コ	2
	(択) 日本国憲法 (1)	前期	100	1	3	コ	2
	(択) 日本国憲法 (2)	前期	100	1	1	コ	2
	(択) 日本国憲法 (3)	前期	100	1	1	コ	2
	(択) 日本語表現入門 (2)	前期	45	1	8	コ	2
	(択) 日本舞踊に学ぶ着付けと作法 (2)	前期	50	1	13	コ	1
	(択) 日本文学にみる香り (1)	前期	100	1	6	コ	2
	(択) 人間関係の心理学 (1)	前期	100	1	5	コ	2
	(択) 芭蕉をめぐる人々	前期	100	1	9	コ	2
	(択) 微生物がつくる発酵食品の不思議	前期	100	1	24	コ	2
	(択) フランス語 I (1)	前期	40	1	2	コ	2
	(択) フランス語 I A	前期	40	1	1	コ	2
	(択) フランス文学と文化 I	前期	100	1	7	コ	2
	(択) 文化としての暦 (1)	前期	100	1	4	コ	2
	(択) 平安朝文学の世界 (1)	前期	100	1	9	コ	2
	(択) 平安朝文学の世界 (2)	前期	100	1	5	コ	2
	(択) 万葉集四季歌の世界 (1)	前期	100	1	5	コ	2
	(択) 身近な動植物の起源と歴史 (1)	前期	100	1	11	コ	2
	(択) ミュージカル歌唱法 (1)	前期	60	1	1	コ	1
	(択) ミュージカルの実践 (1)	前期	50	1	1	コ	1
	(択) 未来造形 (1)	前期	50	1	5	コ	1
	(択) 論理的思考法 II (1)	前期	60	1	1	コ	2
	(択) 論理的思考法 I (2)	前期	90	1	3	コ	2
	(択) 論理的思考法 I (3)	前期	90	1	1	コ	2
	(択) 論理的思考法 I (4)	前期	90	1	3	コ	2
	(択) 論理的思考法 I (5)	前期	90	1	4	コ	2
	(択) 「心中天網島」の女房「おさん」	後期	100	1	30	コ	2
	(択) 「ふつう」を考える社会学 (2)	後期	110	1	18	コ	2
	(択) CSビジネスコミュニケーション (2)	後期	40	1	12	コ	2
	(択) CSビジネスコミュニケーション (3)	後期	40	1	2	コ	2
	(択) TOEIC (初級)	後期	40	1	4	コ	1
	(択) TOEICリスニング (初級) (3)	後期	40	1	2	コ	1
	(択) TOEICリスニング (初級) (4)	後期	40	1	3	コ	1
	(択) アウシュビッツ 戦争と女性 (2)	後期	200	1	12	コ	2
	(択) 遊びの人類学	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 生きがい探しのボランティア論 (2)	後期	100	1	26	コ	2
	(択) 命を守る生体の機構と科学 (2)	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 英語再入門 (2)	後期	40	1	1	コ	2
	(択) エコロジーと私たちの暮らし	後期	100	1	6	コ	2
	(択) 音楽の科学 (2)	後期	100	1	11	コ	2
	(択) 外国から見た日本社会のしくみ	後期	40	1	2	コ	2
	(択) 会社のしくみ (2)	後期	100	1	12	コ	2
	(択) カウンセリングスキル (2)	後期	50	1	6	コ	2
	(択) カウンセリングの実際 (2)	後期	55	1	8	コ	2
	(択) 科学技術の歩み	後期	100	1	18	コ	2
	(択) 合唱表現 II	後期	100	1	9	コ	1
	(択) 歌舞伎鑑賞入門 (1)	後期	100	1	7	コ	2
	(択) 歌舞伎鑑賞入門 (2)	後期	100	1	6	コ	2
	(択) 観光とサービス (2)	後期	100	1	3	コ	2
	(択) 感性の書 (2)	後期	60	1	4	コ	2
(択) グリム童話の中の女性たち (2)	後期	110	1	13	コ	2	
(択) 健康を支える仕組み (2)	後期	100	1	9	コ	2	

(択) 現代フランスの音楽事情 (2)	後期	100	1	37	コ			2
(択) 広告表現の考え方 (3)	後期	100	1	20	コ			2
(択) 広告表現の考え方 (4)	後期	100	1	20	コ			2
(択) 国際航空とツーリズム (2)	後期	100	1	5	コ			2
(択) こころとからだの心理学Ⅱ	後期	100	1	11	コ			2
(択) 最先端物理学が描く宇宙	後期	100	1	6	コ			2
(択) 差別と暴力のない世界をめざして	後期	100	1	4	コ			2
(択) 視覚認知	後期	100	1	9	コ			2
(択) 実践カウンセリング (2)	後期	55	1	13	コ			2
(択) 社会福祉とボランティア (2)	後期	100	1	5	コ			2
(択) 障がい者と障害の理解 (3)	後期	100	1	16	コ			2
(択) 障がい者と障害の理解 (4)	後期	100	1	16	コ			2
(択) 生涯福祉論 (2)	後期	100	1	8	コ			2
(択) 情報と社会 (2)	後期	100	1	34	コ			2
(択) 女性と子どものヘルスケア	後期	100	1	17	コ			2
(択) 女性のためのライフプランニング (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 書の世界 (2)	後期	60	1	9	コ			2
(択) 人権教育論	後期	100	1	1	コ			2
(択) 心理学入門 (2)	後期	100	1	20	コ			2
(択) 神話・伝説の世界から (3)	後期	100	1	11	コ			2
(択) 神話・伝説の世界から (4)	後期	100	1	17	コ			2
(択) 数的能力の発達過程 (3)	後期	100	1	8	コ			2
(択) 数的能力の発達過程 (4)	後期	100	1	2	コ			2
(択) スポーツ実技 (ジャズダンス) (3)	後期	50	1	1	ジ			1
(択) スポーツ実技 (卓球) (3)	後期	50	1	1	ジ			1
(択) 生活のデザイン (2)	後期	100	1	8	コ			2
(択) 生活の中の美的感動表現 (3)	後期	50	1	6	コ			1
(択) 生活の中の美的感動表現 (4)	後期	50	1	4	コ			1
(択) 生活の中の物理学	後期	100	1	2	コ			2
(択) 生活を科学する (2)	後期	100	1	15	コ			2
(択) 生態系サービスと生物多様性 (3)	後期	100	1	9	コ			2
(択) 生態系サービスと生物多様性 (4)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 生命科学と現代社会 (2)	後期	100	1	8	コ			2
(択) 先端芸術表現 (2)	後期	50	1	6	コ			1
(択) 大学生活入門 (2)	後期	150	1	1	コ			2
(択) 聴覚障害者の理解と手話 (4)	後期	55	1	1	コ			2
(択) 調理と健康 (3)	後期	100	1	4	コ			2
(択) 天文学入門 (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 日常生活からの哲学入門 (2)	後期	100	1	9	コ			2
(択) 日本近代文学の魅力Ⅱ (1)	後期	100	1	9	コ			2
(択) 日本近代文学の魅力Ⅱ (2)	後期	100	1	9	コ			2
(択) 日本国憲法 (5)	後期	100	1	35	コ			2
(択) 日本国憲法 (6)	後期	100	1	2	コ			2
(択) 日本の画像文化論 (2)	後期	100	1	17	コ			2
(択) 日本舞踊に学ぶ着付けと作法 (3)	後期	50	1	3	コ			1
(択) 日本舞踊に学ぶ着付けと作法 (4)	後期	50	1	2	コ			1
(択) 日本文学にみる香り (2)	後期	100	1	14	コ			2
(択) 人間関係の心理学 (2)	後期	100	1	13	コ			2
(択) パーソナルコミュニケーション (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 芭蕉と旅	後期	100	1	12	コ			2
(択) 福祉レクリエーションの実際	後期	100	1	11	コ			2
(択) フランス文学と文化Ⅱ	後期	100	1	12	コ			2
(択) 文化としての暦 (2)	後期	100	1	8	コ			2
(択) 学びの思想と実践	後期	100	1	1	コ			2
(択) 万葉集四季歌の世界 (2)	後期	100	1	15	コ			2
(択) 身近な動植物の起源と歴史 (2)	後期	100	1	3	コ			2
(択) ミュージカル歌唱法 (2)	後期	60	1	1	コ			1
(択) 未来造形 (2)	後期	50	1	5	コ			1
(択) モノから探る鳴尾の歴史	後期	50	1	9	コ			2
(択) 論理的思考法Ⅰ (8)	後期	90	1	1	コ			2
薬学への招待	前期	110	2	206	コ			2
情報リテラシーⅠ	前期	55	4	206	コ			2
(択) Oral CommunicationⅠ	前期	55	4	211	コ			1
基礎化学	前期	110	2	207	コ			2
基礎生物	前期	110	2	212	コ			2
基礎数学・物理	前期	110	2	212	コ			2
有機化学Ⅰ	前期	110	2	209	コ			2
(択) 情報リテラシーⅡ	後期	55	4	195	コ			2
(択) Oral CommunicationⅡ	後期	55	4	196	コ			1

	物理化学 I	後期	110	2	211	コ			2
	分析化学 I	後期	110	2	211	コ			2
	有機化学 II	後期	110	2	210	コ			2
	生化学	後期	110	2	208	コ			2
	解剖学	後期	110	2	211	コ			2
実習	早期体験学習 I	前期	110	2	206	ジ			0.5
	早期体験学習 II	後期	110	2	206	ジ			0.5
演習	初期演習	前後期	55	4	206	コ			2
	薬学基礎演習 I	前期	110	2	210	コ			1
	薬学基礎演習 II	後期	110	2	209	コ			1
単位数の 合計							(必須科目)		27
							(選択科目)		4
							合計		31

(凡例)

講義=コ 実習・実技科目=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-2) 学年別授業科目

	2 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
	(扱) CSビジネスコミュニケーション (1)	前期	40	1	6	コ		2
	(扱) Officeを活用したレポート作成 (1)	前期	55	1	5	コ		2
	(扱) TOEICリスニング (初級) (2)	前期	40	1	2	コ		1
	(扱) アウシュビッツ 戦争と女性 (1)	前期	200	1	18	コ		2
	(扱) 雨月物語に込められた情念	前期	100	1	2	コ		2
	(扱) 生きがい探しのボランティア論 (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 命を守る生体の機構と科学 (1)	前期	100	1	16	コ		2
	(扱) 会社のしくみ (1)	前期	100	1	33	コ		2
	(扱) カウンセリングの実際 (1)	前期	55	1	7	コ		2
	(扱) 画像編集基礎 (1)	前期	55	1	1	コ		2
	(扱) 環境問題の歴史	前期	100	1	18	コ		2
	(扱) 韓国文化の理解 (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 感性の書 (1)	前期	60	1	9	コ		2
	(扱) キャリア心理学とキャリア設計 (1)	前期	50	1	5	コ		2
	(扱) キャリアデザインとライフプラン (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) キャリアプランニングの基礎 (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(扱) キャリアプランニングの基礎 (2)	前期	100	1	12	コ		2
	(扱) 薬と心理学	前期	100	1	11	コ		2
	(扱) 健康を支える仕組み (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 現代家族論 (1)	前期	100	1	18	コ		2
	(扱) 現代家族論 (2)	前期	100	1	15	コ		2
	(扱) 現代フランスの音楽事情 (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 広告表現の考え方 (1)	前期	100	1	14	コ		2
	(扱) こころとからだの心理学 I	前期	100	1	4	コ		2
	(扱) 子育てと家族関係	前期	100	1	20	コ		2
	(扱) 子育てと母性の気づき	前期	100	1	40	コ		2
	(扱) シェイクスピア入門	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 色彩情報 (1)	前期	100	1	5	コ		2
	(扱) 自己アピールトレーニング (1)	前期	50	1	3	コ		2
	(扱) 実践カウンセリング (1)	前期	55	1	3	コ		2
	(扱) 実践コミュニケーション (1)	前期	50	1	5	コ		2
	(扱) 知っておきたい救急処置	前期	40	1	2	コ		2
	(扱) 社会福祉とボランティア (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(扱) 障がい者と障害の理解 (1)	前期	100	1	13	コ		2
	(扱) 障がい者と障害の理解 (2)	前期	100	1	10	コ		2
	(扱) 障害者とスポーツ (1)	前期	100	1	4	コ		2
	(扱) 生涯福祉論 (1)	前期	100	1	13	コ		2
	(扱) 消費者生活論 (1)	前期	100	1	24	コ		2
	(扱) 消費者生活論 (2)	前期	100	1	48	コ		2
	(扱) 食生活からの化学入門	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 女性と家族のゆくえ (1)	前期	110	1	2	コ		2
	(扱) 女性の健康と運動 (1)	前期	100	1	7	コ		2
	(扱) 新聞で学ぶ情報収集と発信スキル (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(扱) 心理学入門 (1)	前期	100	1	6	コ		2
	(扱) 数的能力の発達過程 (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) スポーツ実技 (遊びと障害) (1)	前期	50	1	4	ジ		1
	(扱) スポーツ実技 (遊びと障害) (2)	前期	50	1	1	ジ		1
	(扱) スポーツ実技 (軽スポーツ) (1)	前期	50	1	1	ジ		1
	(扱) スポーツ実技 (ゴルフ) (2)	前期	50	1	1	ジ		1
	(扱) スポーツ実技 (中級エアロ) (1)	前期	50	1	8	ジ		1
	(扱) スポーツ実技 (中級エアロ) (2)	前期	50	1	5	ジ		1
	(扱) 生活の中の美的感動表現 (1)	前期	50	1	3	コ		1
	(扱) 生活を科学する (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 生態学的視覚論	前期	110	1	1	コ		2
	(扱) 生態系サービスと生物多様性 (1)	前期	100	1	15	コ		2
	(扱) 生態系サービスと生物多様性 (2)	前期	100	1	49	コ		2
	(扱) 生命科学と現代社会 (1)	前期	100	1	17	コ		2
	(扱) 生命科学入門 (2)	前期	100	1	1	コ		2
	(扱) 生命科学の基礎	前期	100	1	34	コ		2
	(扱) 西洋服飾史	前期	100	1	6	コ		2
	(扱) 世界の中の日本人 (1)	前期	100	1	9	コ		2
	(扱) 世界の中の日本人 (2)	前期	100	1	14	コ		2
	(扱) 中国語 I (3)	前期	40	1	2	コ		2

教養教育・語学教育	(択) 中小企業の魅力と実力 (1)	前期	100	1	3	コ	2
	(択) 調理と健康 (1)	前期	100	1	5	コ	2
	(択) 調理と健康 (2)	前期	100	1	3	コ	2
	(択) データを活用して未来を読む (1)	前期	55	1	1	コ	2
	(択) 日本近代文学の魅力 I (1)	前期	100	1	19	コ	2
	(択) 日本近代文学の魅力 I (2)	前期	100	1	10	コ	2
	(択) 日本国憲法 (1)	前期	100	1	3	コ	2
	(択) 日本国憲法 (4)	前期	100	1	4	コ	2
	(択) 日本語表現入門 (1)	前期	45	1	9	コ	2
	(択) 日本語表現入門 (2)	前期	45	1	5	コ	2
	(択) 日本の画像文化論 (1)	前期	100	1	1	コ	2
	(択) 日本の社会 I	前期	40	1	8	コ	2
	(択) 日本舞踊に学ぶ着付けと作法 (1)	前期	50	1	1	コ	1
	(択) 日本文学にみる香り (1)	前期	100	1	19	コ	2
	(択) 芭蕉をめぐる人々	前期	100	1	13	コ	2
	(択) 韓流ブーム (1)	前期	100	1	2	コ	2
	(択) 微生物がつくる発酵食品の不思議	前期	100	1	12	コ	2
	(択) ヒューマンスキル入門 (1)	前期	100	1	4	コ	2
	(択) ヒューマンスキル入門 (2)	前期	100	1	1	コ	2
	(択) フランス語 I (3)	前期	40	1	1	コ	2
	(択) プレゼンで鍛える情報表現力 (1)	前期	55	1	2	コ	2
	(択) 文学を通して見る英国事情	前期	100	1	10	コ	2
	(択) 文化としての暦 (1)	前期	100	1	21	コ	2
	(択) 平安朝文学の世界 (2)	前期	100	1	1	コ	2
	(択) 万葉集四季歌の世界 (1)	前期	100	1	12	コ	2
	(択) 身近な動植物の起源と歴史 (1)	前期	100	1	5	コ	2
	(択) ミュージカル歌唱法 (1)	前期	60	1	2	コ	1
	(択) 未来造形 (1)	前期	50	1	5	コ	1
	(択) 論理的思考法 I (5)	前期	90	1	3	コ	2
	(択) 論理的思考法 I (6)	前期	90	1	2	コ	2
	(択) 論理的思考法 II (1)	前期	60	1	1	コ	2
	(択) 「心中天網島」の女房「おさん」	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 「ふつう」を考える社会学 (2)	後期	110	1	1	コ	2
	(択) ACCESS データベース基礎 (2)	後期	55	1	2	コ	2
	(択) CS ビジネスコミュニケーション (2)	後期	40	1	11	コ	2
	(択) CS ビジネスコミュニケーション (3)	後期	40	1	5	コ	2
	(択) English for Studying Abroad (2)	後期	30	1	1	コ	1
	(択) Flashによるコンテンツ作成演習 (2)	後期	55	1	1	コ	2
	(択) Officeを活用したレポート作成 (3)	後期	55	1	3	コ	2
	(択) Officeを活用したレポート作成 (4)	後期	55	1	1	コ	2
	(択) TOEIC (初級)	後期	40	1	1	コ	1
	(択) TOEICリスニング (初級) (3)	後期	40	1	1	コ	1
	(択) TOEICリスニング (初級) (4)	後期	40	1	3	コ	1
	(択) アウシュビッツ 戦争と女性 (2)	後期	200	1	23	コ	2
	(択) アプリによるスマホ写真編集基礎	後期	50	1	5	コ	0.5
	(択) 遺伝子の不思議 (2)	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 命を守る生体の機構と科学 (2)	後期	100	1	8	コ	2
	(択) エコロジーと私たちの暮らし	後期	100	1	10	コ	2
	(択) 大阪の地域文化と東アジア (2)	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 外国から見た日本社会のしくみ	後期	40	1	1	コ	2
	(択) 会社のしくみ (2)	後期	100	1	25	コ	2
	(択) カウンセリングの実際 (2)	後期	55	1	17	コ	2
	(択) 科学技術の歩み	後期	100	1	37	コ	2
	(択) 歌舞伎鑑賞入門 (1)	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 歌舞伎鑑賞入門 (2)	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 漢字がつなぐ東アジア (2)	後期	100	1	1	コ	2
	(択) 感性の書 (2)	後期	60	1	11	コ	2
	(択) 企業で役に立つマーケティング力	後期	50	1	3	コ	1
	(択) 企業の海外展開と新たな潮流	後期	50	1	4	コ	1
	(択) キャリア心理学とキャリア設計 (2)	後期	50	1	9	コ	2
	(択) キャリアプランニングの基礎 (3)	後期	100	1	1	コ	2
	(択) キャリアプランニングの基礎 (4)	後期	100	1	9	コ	2
	(択) グリム童話の中の女性たち (2)	後期	110	1	3	コ	2
	(択) 広告表現の考え方 (3)	後期	100	1	9	コ	2
	(択) こころとからだの心理学 II	後期	100	1	13	コ	2
	(択) 差別と暴力のない世界をめざして	後期	100	1	3	コ	2
	(択) 色彩情報 (2)	後期	100	1	3	コ	2
	(択) 自己アピールトレーニング (4)	後期	50	1	1	コ	2
	(択) 自己発見アート (2)	後期	50	1	8	コ	1

(択) 実践カウンセリング (2)	後期	55	1	8	コ	2
(択) 実践コミュニケーション (2)	後期	50	1	7	コ	2
(択) 社会福祉とボランティア (2)	後期	100	1	3	コ	2
(択) 障がい者と障害の理解 (3)	後期	100	1	12	コ	2
(択) 障がい者と障害の理解 (4)	後期	100	1	6	コ	2
(択) 障害者とスポーツ (2)	後期	100	1	2	コ	2
(択) 生涯福祉論 (2)	後期	100	1	12	コ	2
(択) 女性と家族のゆくえ (2)	後期	110	1	3	コ	2
(択) 女性と子どものヘルスケア	後期	100	1	6	コ	2
(択) 女性の健康と運動 (3)	後期	100	1	4	コ	2
(択) 女性のためのライフプランニング (2)	後期	100	1	1	コ	2
(択) 書の世界 (2)	後期	60	1	1	コ	2
(択) 人権教育論	後期	100	1	30	コ	2
(択) 心理学入門 (2)	後期	100	1	16	コ	2
(択) すぐに役立つマナー入門 (3)	後期	40	1	5	コ	2
(択) スポーツ実技 (軽スポーツ) (3)	後期	50	1	1	ジ	2
(択) スポーツ実技 (軽スポーツ) (4)	後期	50	1	1	ジ	2
(択) スポーツ実技 (サッカー) (3)	後期	50	1	2	ジ	2
(択) スポーツ実技 (上級エアロ) (2)	後期	50	1	4	ジ	2
(択) スポーツ実技 (バトミントン) (4)	後期	50	1	1	ジ	2
(択) 生活の中の物理学	後期	100	1	3	コ	2
(択) 生態系サービスと生物多様性 (3)	後期	100	1	10	コ	2
(択) 生態系サービスと生物多様性 (4)	後期	100	1	37	コ	2
(択) 生命科学与現代社会 (2)	後期	100	1	21	コ	2
(択) 中国語Ⅱ (2)	後期	40	1	2	コ	2
(択) 聴覚障害者の理解と手話 (4)	後期	55	1	1	コ	2
(択) デジカメ写真撮影とレタッチ入門	後期	50	1	3	コ	0.5
(択) 日常生活からの哲学入門 (2)	後期	100	1	1	コ	2
(択) 日本近代文学の魅力Ⅱ (1)	後期	100	1	29	コ	2
(択) 日本近代文学の魅力Ⅱ (2)	後期	100	1	7	コ	2
(択) 日本国憲法 (5)	後期	100	1	6	コ	2
(択) 日本国憲法 (7)	後期	100	1	4	コ	2
(択) 日本史の中の女性たち (2)	後期	100	1	1	コ	2
(択) 日本の画像文化論 (2)	後期	100	1	12	コ	2
(択) 日本の社会Ⅱ	後期	40	1	1	コ	2
(択) 日本舞踊に学ぶ着付けと作法 (3)	後期	50	1	1	コ	1
(択) 日本文学にみる香り (2)	後期	100	1	25	コ	2
(択) ネットで学ぶ英語 (2)	後期	40	1	1	コ	2
(択) パーソナルコミュニケーション (1)	後期	100	1	7	コ	2
(択) 芭蕉と旅	後期	100	1	17	コ	2
(択) 福祉レクリエーションの実際	後期	100	1	5	コ	2
(択) フランス文学と文化Ⅱ	後期	100	1	1	コ	2
(択) 英米文学の少年少女と英語圏文化	後期	100	1	5	コ	2
(択) マッサージ実習	後期	50	1	1	ジ	1
(択) 学びの思想と実践	後期	100	1	10	コ	2
(択) 万葉集四季歌の世界 (2)	後期	100	1	16	コ	2
(択) 身近な動植物の起源と歴史 (2)	後期	100	1	2	コ	2
(択) ミュージカル歌唱法 (2)	後期	60	1	2	コ	1
(択) 未来造形 (2)	後期	50	1	1	コ	1
(択) 面接評価とシグナルセオリー (2)	後期	50	1	1	コ	2
(択) 倫理的思考法Ⅰ (7)	後期	90	1	3	コ	2
基礎薬学英語Ⅳ	前期	60	4	219	コ	1
(択) 薬学ドイツ語	前後期	60	4	207	コ	1
薬学英語Ⅰ	前期	60	4	217	コ	1
物質の状態	前期	120	2	239	コ	1.5
化学物質の検出と定量Ⅰ	前期	120	2	241	コ	1.5
有機化合物の骨格と性質Ⅱ	前期	120	2	230	コ	1.5
自然が生み出す薬用資源	前期	120	2	220	コ	1.5
生体エネルギー	前期	120	2	247	コ	1.5
生命情報を担う遺伝子	前期	120	2	241	コ	1.5
ヒトの成り立ちと機能調節	前期	120	2	236	コ	1.5
(択) 薬学英語Ⅱ	後期	60	4	13	コ	1
溶液の性質	後期	120	2	234	コ	1.5
分析技術の臨床応用	後期	120	2	234	コ	1.5
スペクトル構造解析法	後期	120	2	230	コ	1.5
遺伝子操作	後期	120	2	111	コ	1.5
小さな生命体	後期	120	2	245	コ	1.5
身体をまもる免疫系	後期	120	2	241	コ	1.5
生体の機能調節と情報伝達	後期	120	2	235	コ	1.5

	薬の作用 I	後期	120	2	235	コ			1.5
	薬物の臓器への到達と消失	後期	120	2	245	コ			1.5
実習	有機化合物をつくる	前期	60	4	220	ジ			1
	生体成分と免疫を調べる	前期	60	4	222	ジ			1
	医薬品をつくる	後期	60	4	219	ジ			1
	物質の特性を調べる	後期	60	4	219	ジ			1
	小さな生命体と遺伝子を調べる	後期	60	4	219	ジ			1
演習	(択) 基礎薬学英語演習	前期			1	ジ			2
単位数の 合計							(必須科目)		31
							(選択科目)		4
							合計		35

(凡例)

講義＝コ 実習・実技科目＝ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
- 「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

	3 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
	(択) 日本文学にみる香り (1)	前期	100	1	5	コ		2
	(択) 感性の書 (1)	前期	60	1	1	コ		2
	(択) 文化としての暦 (1)	前期	100	1	3	コ		2
	(択) 日本語表現入門 (1)	前期	45	1	7	コ		2
	(択) 障害者とスポーツ (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(択) 知っておきたい救急処理	前期	40	1	3	コ		2
	(択) 薬と心理学	前期	100	1	5	コ		2
	(択) こころとからだの心理学 I	前期	100	1	2	コ		2
	(択) カウンセリングの実践 (1)	前期	55	1	2	コ		2
	(択) 実践カウンセリング (1)	前期	55	1	2	コ		2
	(択) 子育てと家族関係	前期	100	1	3	コ		2
	(択) 子育てと母性の気づき	前期	100	1	5	コ		2
	(択) 調理と健康 (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(択) CSビジネスコミュニケーション (1)	前期	40	1	2	コ		2
	(択) 会社のしくみ (1)	前期	100	1	6	コ		2
	(択) 英会話入門 (1)	前期	30	1	1	コ		2
	(択) フランス語 I (3)	前期	40	1	1	コ		2
	(択) スポーツ実技 (遊びと障害) (1)	前期	50	1	1	ジ		1
	(択) 芭蕉をめぐる人々	前期	100	1	3	コ		2
	(択) キャリアプランニングの基礎 (2)	前期	100	1	1	コ		2
	(択) 韓流ブーム (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(択) 微生物がつくる発酵食品の不思議	前期	100	1	3	コ		2
	(択) 環境問題の歴史	前期	100	1	5	コ		2
	(択) 生命科学の基礎	前期	100	1	4	コ		2
	(択) 現代家族論 (1)	前期	100	1	5	コ		2
	(択) 現代家族論 (2)	前期	100	1	1	コ		2
	(択) 実践コミュニケーション (1)	前期	50	1	2	コ		2
	(択) ミュージカル歌唱法 (1)	前期	60	1	3	コ		1
	(択) 日本舞踊に学ぶ着付けと作法 (1)	前期	50	1	5	コ		1
	(択) 女性と家族のゆくえ (1)	前期	110	1	2	コ		2
	(択) キャリアデザインとライフプラン (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(択) 消費者生活論 (1)	前期	100	1	3	コ		2
	(択) 消費者生活論 (2)	前期	100	1	6	コ		2
	(択) 自己発見アート (1)	前期	50	1	1	コ		1
	(択) アウシュビッツ 戦争と女性 (1)	前期	200	1	14	コ		2
	(択) 新聞で学ぶ情報収集と発信スキル (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(択) 命を守る生体の機構と科学 (1)	前期	100	1	5	コ		2
	(択) 女性の健康と運動 (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(択) 身近な動植物の起源と歴史 (1)	前期	100	1	2	コ		2
	(択) 障がい者と障害の理解 (1)	前期	100	1	8	コ		2
	(択) 障がい者と障害の理解 (2)	前期	100	1	3	コ		2
	(択) 文学を通してみる英国事情	前期	100	1	3	コ		2
	(択) 生態系サービスと生物多様性 (1)	前期	100	1	4	コ		2
	(択) 生態系サービスと生物多様性 (2)	前期	100	1	2	コ		2
	(択) 生命科学と現代社会 (1)	前期	100	1	11	コ		2
	(択) 広告表現の考え方 (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(択) 万葉集四季歌の世界 (1)	前期	100	1	3	コ		2
	(択) 西洋服飾史	前期	100	1	4	コ		2
	(択) 日本近代文学の魅力 I (1)	前期	100	1	6	コ		2
	(択) 日本近代文学の魅力 I (2)	前期	100	1	2	コ		2
	(択) 健康・操体法 (1)	前期	50	1	1	コ		2
	(択) 日本文学にみる香り (2)	後期	100	1	1	コ		2
	(択) こころとからだの心理学 II	後期	100	1	4	コ		2
	(択) CSビジネスコミュニケーション (2)	後期	40	1	1	コ		2
	(択) Access データベース基礎 (2)	後期	55	1	1	コ		2
	(択) スポーツ実技 (軽スポーツ) (4)	後期	50	1	2	ジ		1
	(択) スポーツ実技 (遊びと障害) (3)	後期	50	1	1	ジ		1
	(択) スポーツ実技 (遊びと障害) (4)	後期	50	1	2	ジ		1
	(択) 芭蕉と旅	後期	100	1	1	コ		2
	(択) 「心中天網島」の女房「おさん」	後期	100	1	1	コ		2
	(択) ダンス・ムーブメントセラピー (1)	後期	40	1	2	コ		2
	(択) 福祉レクリエーションの実践	後期	100	1	2	コ		2
	(択) キャリアプランニングの基礎 (4)	後期	100	1	1	コ		2

教養教育・語学教育

(択) 差別と暴力のない世界をめざして	後期	100	1	1	コ			2
(択) 日本の画像文化論 (2)	後期	100	1	7	コ			2
(択) 生涯福祉論 (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 科学技術の歩み	後期	100	1	3	コ			2
(択) 社会福祉とボランティア (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 人権教育論	後期	100	1	5	コ			2
(択) 未来造形 (2)	後期	50	1	1	コ			1
(択) アウシュビッツ 戦争と女性 (2)	後期	200	1	2	コ			2
(択) 命を守る生体の機構と科学 (2)	後期	100	1	3	コ			2
(択) 女性の健康と運動 (3)	後期	100	1	2	コ			2
(択) マッサージ実習	後期	50	1	1	ジ			1
(択) 日常生活からの哲学入門 (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 身近な動植物の起源と歴史 (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 障がい者と障害の理解 (4)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 英米文学の少年少女と英語圏文化	後期	100	1	1	コ			2
(択) 生態系サービスと生物多様性 (3)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 生態系サービスと生物多様性 (4)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 生命科学と現代社会 (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) T O T E Cリーディング (初級) (4)	後期	40	1	1	コ			1
(択) スポーツ実技 (サッカー) (3)	後期	50	1	1	ジ			1
(択) Officeを活用したレポート作成 (3)	後期	55	1	1	コ			2
(択) 心理学入門 (2)	後期	100	1	1	コ			2
(択) 女性と子どものヘルスケア	後期	100	1	1	コ			2
(択) 日本近代文学の魅力Ⅱ (1)	後期	100	1	4	コ			2
(択) 学びの思想と実践	後期	100	1	2	コ			2
(択) 健康・操体法 (3)	後期	55	1	1	コ			2
(択) 健康・操体法 (4)	後期	55	1	1	コ			2
(択) 児童サービス論	後期			1	コ			2
(択) 図書館制度・経営論	後期			1	コ			2
生体分子の化学	前期	120	2	232	コ			1.5
有機化合物の合成	前期	120	2	232	コ			1.5
薬としての天然物	前期	120	2	224	コ			1.5
感染症	前期	120	2	222	コ			1.5
(択) 細胞の仕組み	前期	120	2	48	コ			1.5
薬の作用Ⅱ	前期	120	2	231	コ			1.5
薬物動態の解析	前期	120	2	229	コ			1.5
生物統計の基礎と臨床応用Ⅰ	前期	120	2	220	コ			1.5
製剤化のサイエンスⅠ	前期	120	2	215	コ			1.5
栄養と健康	前期	120	2	225	コ			1.5
(択) 生体の状態	後期	120	2	12	コ			1.5
(択) 化学物質の検出と定量Ⅱ	後期	120	2	148	コ			1.5
創薬化学入門	後期	120	2	221	コ			1.5
ゲノムと科学と薬学	後期	120	2	182	コ			1.5
薬の効き方Ⅰ	後期	120	2	230	コ			1.5
(択) 生物統計の基礎と臨床応用Ⅱ	後期	120	2	55	コ			1.5
製剤化のサイエンスⅡ	後期	120	2	220	コ			1.5
疾病予防と疫学	後期	120	2	213	コ			1.5
疾病と薬物治療Ⅰ	後期	120	2	220	コ			1.5
疾病と薬物治療Ⅱ	後期	120	2	225	コ			1.5
薬学と社会	後期	120	2	227	コ			1.5
生薬・天然物医薬品を取扱う	前期	60	4	224	ジ			1
物質を解析する	前期	60	4	224	ジ			1
体の成り立ちと働きを調べる	前期	60	4	224	ジ			1
薬の働きを調べる	後期	60	4	223	ジ			1
健康と環境への影響を調べる	後期	60	4	224	ジ			1

演習	(択)基礎薬学英語演習	前期			2	ジ				2	
単位数の 合計										(必須科目)	30.5
										(選択科目)	8
										合計	38.5

(凡例)
講義=コ 実習・実技科目=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

	4 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	(択) 子育てと家族関係	前期	100	1	2	コ		2
	(択) 子育てと母性の気づき	前期	100	1	2	コ		2
	(択) キャリアプランニングの基礎 (2)	前期	100	1	1	コ		2
	(択) 障がい者と障害の理解 (1)	前期	100	1	1	コ		2
	(択) スポーツ実技 (卓球) (3)	後期	50	1	1	ジ		1
	(択) 現代用語を理解する (2)	後期	100	1	1	コ		2
	(択) 生態系サービスと生物多様性 (3)	後期	100	1	1	コ		2
薬学専門教育	(択) 医薬品の合成	前期	110	2	56	コ		1.5
	薬の効き方Ⅱ	前期	110	2	204	コ		1.5
	製剤化のサイエンスⅢ	前期	110	2	115	コ		1.5
	医薬品の開発Ⅰ	前期	110	2	192	コ		1.5
	化学物質の生体への影響	前期	110	2	187	コ		1.5
	(択) 衛生と社会	前期	110	2	38	コ		1.5
	疾病と薬物治療Ⅲ	前期	110	2	202	コ		1.5
	疾病と薬物治療Ⅳ	前期	110	2	196	コ		1.5
	医薬品情報の活用	前期	110	2	200	コ		1.5
	薬剤師に関する法律と制度	前期	110	2	198	コ		1.5
	病院・薬局へ行く前に	前期	110	2	195	コ		1.5
	総合演習Ⅰ	前後期	220	1	204	コ		2
	(択) 創薬化学の概論	後期	110	2	9	コ		1.5
	薬の効き方Ⅲ	後期	110	2	203	コ		1.5
	(択) 医薬品の開発Ⅱ	後期	110	2	71	コ		1.5
	生活環境と健康	後期	110	2	194	コ		1.5
	疾病と薬物治療Ⅴ	後期	110	2	196	コ		1.5
	疾病と薬物治療Ⅵ	後期	110	2	196	コ		1.5
	疾病と化学療法	後期	110	2	196	コ		1.5
(択) コミュニケーション論	後期	110	2	123	コ		1.5	
実習	薬物を製剤化した体内動態を調べる	前期	55	4	192	ジ		1
	プレファーマシー実習Ⅰ	前期	55	4	192	ジ		1.5
	プレファーマシー実習Ⅱ	後期	55	4	197	ジ		1.5
	プレファーマシー実習Ⅲ	後期	55	4	196	ジ		1
演習								
単位数の合計	(必須科目)							28
	(選択科目)							7.5
	合計							35.5

(凡例)
講義=コ 実習・実技科目=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

	5 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) プレプロフェッショナル教育 I	前後期		1	3	コ			2
	(択) 細胞の仕組み	前期	200	1	1	コ			1.5
	(択) 体の仕組みの実際	前期	200	1	67	コ			1.5
	(択) 産業における安全衛生薬学	前期	200	1	7	コ			1.5
	(択) 地域で活躍する薬剤師	前期	200	1	104	コ			1.5
	(択) OTCの適正販売と薬剤師	前期	200	1	18	コ			1.5
	(択) 創薬科学の最前線	前期	200	1	16	コ			1.5
	(択) メタボリック・シンドローム	後期	200	1	35	コ			1.5
	(択) 医薬品開発の実際と製剤化	後期	200	1	3	コ			1.5
	(択) 疾病と漢方処方	後期	200	1	67	コ			1.5
	(択) 処方箋の理解と薬剤師 I	後期	200	1	30	コ			1.5
	(択) 処方箋の理解と薬剤師 II	後期	200	1	46	コ			1.5
実習	実務実習	前後期			183	ジ			20
演習	卒業研究 I	前後期			184	ジ			3
	(択) 薬学英語演習	前期		1	17	ジ			4
単位数の合計							(必須科目)		23
							(選択科目)		23
							合計		46

(凡例)

講義=コ 実習・実技科目=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

	6 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択) 生活のデザイン (1)	前期	100	1	1	コ			2
	(択) 生活を科学する (1)	前期	100	1	1	コ			2
薬学専門教育	(択) 生体防御機構	前期	180	1	26	コ			1.5
	(択) 薬の作用の実際	前期	180	1	176	コ			1.5
	(択) 臨床薬物動態解析	前期	180	1	176	コ			1.5
	(択) マーケティングリサーチ	前期	180	1	3	コ			1.5
	(択) セルフメディケーションと薬剤師	前期	180	1	2	コ			1.5
	(択) 薬物の適正使用と医療倫理	前期	180	1	2	コ			1.5
	(択) 総合演習Ⅱ	通年	180	1	176	コ			4
	(択) 臨床医工情報学の知性感性教養Ⅱ	後期		1	1	コ			2
実習	卒業研究Ⅱ	通年			179				5
演習									
単位数の合計						(必須科目)			5
						(選択科目)			15
						合計			20

(凡例)
講義=コ 実習・実技科目=ジ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	3	5.5
教養教育科目	456	858
語学教育科目	32	48
医療安全教育科目	2	3
生涯学習の意欲醸成科目		
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	1	1.5

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	27	4	31
2 年 次	31	4	35
3 年 次	30.5	8	38.5
4 年 次	28	7.5	35.5
5 年 次	23	23	46
6 年 次	5	15	20
合計	144.5	61.5	206

(基礎資料 2-1) 在籍学生数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計	
入学年度 における	入学定員数	210	210	210	210	210	210	1,260	
	編入定員数	0	0	0	0	0	0	0	
	入学者数	206	219	232	225	225	194	1,301	
基準日 における	各学年の在籍学生数	212	258	239	209	185	222	1,325	
	編入学生数 (内) ※	0	0	0	0	0	3 (所属変更)	3	
	留年者数 (内)	6	49	47	39	23	65	229	
	留年者の 入学年度	平成20年度 以前				2	3	14	19
		平成21年度				3	4	51	58
		平成22年度		1		11	16		28
		平成23年度		4	15	23			42
	平成24年度		13	32				45	
	平成25年度		31					31	
	平成26年度		6					6	
C / (A + B)		1.05							
D / B									

※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。

[注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。

2 「編入学生数 (内)」および「留年者数 (内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

(基礎資料2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数
総在籍学生数	1,108				1,326				1,367				1,359				1,368				1,325			
1年次	6	9	5		8	20	5		5	18	8		3	15	5		3	9	7					
2年次	8	31	8		4	23	4	3	2	33	4		11	52	5		16	42	14					
3年次	1	3			1	5			2	9	3		2	11	1		1	16	2					
4年次					1	2			2	7	1		2	10			5	18	1					
5年次							1																	
6年次													2				1							
合計	15	43	13	0	14	50	10	3	11	67	16	0	20	88	11	0	26	85	24	0	10	0	0	0

[注] 平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

卒業生総数	平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	卒業率 (%)
	172名	208名	169名	144名	名	名	
平成18年度入学者	172名	28(15)名	12(11)名	2(2)名	名	名	77.1%
平成19年度入学者	名	195名	23(19)名	10(10)名	2(2)名	名	79.9%
平成20年度入学者	名	名	164名	73(66)名	8(8)名	名	61.4%
平成21年度入学者	名	名	名	137名	33(33)名	名	67.5%
平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	0.0%
平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名	0.0%

()内は9月卒業内数

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】							
1)	薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。						
2)	薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。						
3)	医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
4)	医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。						
5)	疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】		薬学への招待					
1)	「薬とは何か」を概説できる。						
2)	薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3)	化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4)	種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5)	一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】							
1)	先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。						
2)	麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。						
3)	薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						
【日本薬局方】		初期演習					
1)	日本薬局方の意義と内容について概説できる。						
【総合演習】							
1)	医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学への招待					
2)	身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)	物質を解析する					
(2) 早期体験学習							
1)	病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。						
2)	開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)						
3)	製薬企業および保健衛生・健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)	薬剤師の活躍分野を 見る！					
4)	保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)						
C 薬学専門教育							
【物理系薬学を学ぶ】							
G1 物質の物理的性質							
(1) 物質の構造							
【化学結合】							
1)	化学結合の成り立ちについて説明できる。						
2)	軌道の混成について説明できる。						
3)	分子軌道の基本概念を説明できる。						
4)	共役や共鳴の概念を説明できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子間相互作用】							
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。							
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。							
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。							
4) 分散力について例を挙げて説明できる。							
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。							
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。							
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。							
【原子・分子】							
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物質の構造						
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	スペクトル構造解析法						
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。							
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。							
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)							
6) 偏光および旋光性について説明できる。	スペクトル構造解析法						
7) 散乱および干渉について説明できる。							
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。							
【放射線と放射能】							
1) 原子の構造と放射線変化について説明できる。							
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。							
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。							
4) 核反応および放射平衡について説明できる。							
5) 放射線の測定原理について説明できる。							
(2) 物質の状態 I							
【総論】							
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物質の状態						
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。							
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。							
【エネルギー】							
1) 系、外界、境界について説明できる。	物質の状態						
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。							
3) 仕事および熱の概念を説明できる。							
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。							
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。							
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)							
7) エンタルピーについて説明できる。							
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	物質の状態/物質の特性を調べる						
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。	物質の状態						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】							
1)	エントロピーについて説明できる。		物質の状態				
2)	熱力学第二法則について説明できる。		物質の状態/物質の特性を調べる				
3)	代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)		物質の状態				
4)	熱力学第三法則について説明できる。		物質の状態				
5)	自由エネルギーについて説明できる。		物質の状態/物質の特性を調べる				
6)	熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)						
7)	自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8)	自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van't Hoffの式) について説明できる。						
9)	共役反応について例を挙げて説明できる。						
(3) 物質の状態 II							
【物理平衡】							
1)	相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		溶液の性質				
2)	相平衡と相律について説明できる。		溶液の性質/物質の特性を調べる				
3)	代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。		物質の状態				
4)	物質の溶解平衡について説明できる。		溶液の性質				
5)	溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。		溶液の性質/物質の特性を調べる				
6)	界面における平衡について説明できる。		溶液の性質				
7)	吸着平衡について説明できる。		物質の特性を調べる				
8)	代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)						
【溶液の化学】							
1)	化学ポテンシャルについて説明できる。		物質の状態				
2)	活量と活量係数について説明できる。		溶液の性質/物質の特性を調べる				
3)	平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。		溶液の性質/物質の特性を調べる				
4)	電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		溶液の性質/物質の特性を調べる				
5)	イオンの輸率と移動度について説明できる。		溶液の性質/物質の特性を調べる				
6)	イオン強度について説明できる。		溶液の性質/物質の特性を調べる				
7)	電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Huckelの式) について説明できる。						
【電気化学】							
1)	代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		溶液の性質				
2)	標準電極電位について説明できる。						
3)	起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4)	Nernstの式が誘導できる。						
5)	濃淡電池について説明できる。						
6)	膜電位と能動輸送について説明できる。						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。						
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気流動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6) 代表的なトライケミストリーについて概説できる。						
7) 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。		分析技術の臨床応用				
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。						
9) 薬学領域で常用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。						
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。						
2) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)						物質を解析する
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸収光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		スペクトル構造解析法				
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴(ESR)スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5) 旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		スペクトル構造解析法				
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。		スペクトル構造解析法				
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。						
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						生体分子の化学

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】	1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
	2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
	3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
	4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
	5) 代表的な無機薬品を列挙できる。						
【錯体】	1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。						
	2) 配位結合を説明できる。						
	3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
	4) 錯体の安定度定数について説明できる。						
	5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
	6) 錯体の反応性について説明できる。						
	7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
(2) 有機化合物の骨格							
【アルカン】	1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。						
	2) アルカンの基本的な物性について説明できる。						
	3) アルカンの構造異性を図示し、その数を示すことができる。						
	4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
	5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
	6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。						
	7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】	1) アルケンへの代表的なシグマ型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。						
	2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。						
	3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						
	4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
	5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
	6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
	7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】	1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。						
	2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。						
	3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
	4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
	5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						
薬学の基礎のための化学							
化学平衡							
有機化学の基礎							
有機化学の基礎							
有機化学の骨格と性質 I							

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)		該 当 科 目				
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅱ				
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。						
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		有機化合物の骨格と性質Ⅰ				
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅱ				
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅰ				
2) 求核置換反応(S _N 1およびS _N 2反応)の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性(Saytzeff則)を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅰ				
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅰ				
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。						
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル)の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅱ/医薬品をつくる				
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅱ				
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。						
【官能基の酸中性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸中性度を比較して説明できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅱ/医薬品をつくる				
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸中性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。						
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。		有機化合物の骨格と性質Ⅱ/医薬品をつくる				
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂構式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピニング結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。						
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。						
【マススペクトル】						
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明することができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。						
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)						
3) 比旋光度と絶対配置の関係の説明ができる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。						
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)		該 当 科 目				
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
C5 ターゲット分子の合成 【官能基の導入・変換】	1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。					
	2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。					
	3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。					
	4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。					
	5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。					
	6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。					
	7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。					
	8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。					
	9) カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。					
	10) アミンの代表的な合成法について説明できる。					
	11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。					
	12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)					
(2) 複雑な化合物の合成 【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。						
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。						
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。						
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。						
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)						
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)						
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目			
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体分子を模倣した医薬品】					
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。					
【生体内分子と反応する医薬品】					
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。					
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。					
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。					
07 自然が生み出す薬物					
(1) 薬になる動植物					
【生薬とは何か】					
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。					
2) 生薬の歴史について概説できる。					
3) 生薬の生産と流通について概説できる。					
【薬用植物】					
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)					
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。					
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。					
4) 代表的な薬用植物形態が似ている植物と区別できる。(技能)					
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。					
【植物以外の医薬資源】					
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。					
【生薬成分の構造と合成】					
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの合成経路を概説できる。					
2) 代表的なアルカロイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
3) 代表的な強い配糖体の構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
4) 代表的なアルカロイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
5) 代表的なフラボノイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
7) 代表的なポリケチドの構造を合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。					
【農薬、化粧品としての利用】					
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。					
自然が生み出す薬用資源					
生薬・天然物医薬品を取扱う					
生薬・天然物医薬品を取扱う					
薬としての天然物					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生薬の同定と品質評価】	1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		自然が生み出す薬用資源				
	2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
	3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)			生薬・天然物資源を採取			
	4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
	5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		自然が生み出す薬用資源				
(2) 薬の宝庫としての天然物							
【シーズの探索】							
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。				薬としての天然物			
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。							
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。							
【天然物質の取扱い】							
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)				生薬・天然物資源を採取			
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。				薬としての天然物			
【微生物が生み出す医薬品】							
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。							
【発酵による医薬品の生産】							
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。							
【発酵による有用物質の生産】							
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			小さな生命体				
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬							
【漢方医学の基礎】							
1) 漢方医学の特徴について概説できる。							
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。							
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。							
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。							
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。							
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。							
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。							
【漢方処方の応用】							
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。							
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。							

生物学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生物系業学を学ぶ】							
C8 生命体の成り立ち							
(1) ヒトの成り立ち							
【概論】							
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。							
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。							
【神経系】							
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。							
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。							
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。							
【骨格系・筋肉系】							
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。							
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。							
【皮膚】							
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【循環器系】							
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。							
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。							
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【呼吸器系】							
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【消化器系】							
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。							
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【泌尿器系】							
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【生殖器系】							
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【内分泌系】							
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【感覚器系】							
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【血液・造血器系】							
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 生命体の基本単位としての細胞							
【細胞と組織】		生命体の基本単位／薬学の基礎としての生物					
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。							
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。							
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)			小さな生命体と遺伝子系を調べる				
【細胞膜】							
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。							
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。							
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。							
【細胞内小器官】							
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。							
【細胞の分裂と死】		生命体の基本単位／薬学の基礎としての生物					
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。							
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。							
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。							
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。							
【細胞間コミュニケーション】							
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。							
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。							
(3) 生体の機能調節							
【神経・筋の調節機構】							
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。							
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。							
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。							
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。							
【ホルモンによる調節機構】							
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。							
2) 血糖の調節機構を説明できる。							
【循環・呼吸系の調節機構】							
1) 血圧の調節機構を説明できる。							
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。							
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。							
【体液の調節機構】							
1) 体液の調節機構を説明できる。							
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。							
【消化・吸収の調節機構】							
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。							
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。							
【体温の調節機構】							
1) 体温の調節機構を説明できる。							

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。						
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。						
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。						
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。						
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。						
2) ウイルスの分類法について概説できる。						
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。						
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。						
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)						
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。						
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。						
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						

高等学校教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目			
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【補質】					
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。					
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。					
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。					
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)					
【アミノ酸】					
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。					
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。					
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)					
【ビタミン】					
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。					
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。					
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。					
(2) 生命情報を担う遺伝子					
【ヌクレオチドと核酸】					
1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。					
2) DNAの構造について説明できる。					
3) RNAの構造について説明できる。					
【遺伝情報を担う分子】					
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。					
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。					
3) ゼノムと遺伝子の関係を説明できる。					
4) 染色体の構造を説明できる。					
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。					
6) RNAの種類と働きについて説明できる。					
【転写と翻訳のメカニズム】					
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。					
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。					
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。					
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。					
5) リボソームの構造と機能について説明できる。					
【遺伝子の複製・変異・修復】					
1) DNAの複製の過程について説明できる。					
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。					
3) DNAの修復の過程について説明できる。					
生命情報を担う遺伝子					
生物学の基礎としての					

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)		該 当 科 目					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【遺伝子多型】							
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。							
【タンパク質の構造と機能】							
(3) 生命活動を担うタンパク質							
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生命活動を担うタンパク質						
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。							
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。							
【酵素】							
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。							
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。							
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生命活動を担うタンパク質						
4) 酵素反応速度論について説明できる。							
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。							
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)	生体成分と免疫を調べる						
【酵素以外の機能タンパク質】							
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。							
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	生命活動を担うタンパク質						
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。							
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。							
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。							
【タンパク質の取扱い】							
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)	生命活動を担うタンパク質	生体成分と免疫を調べる					
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)							
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。							
(4) 生体エネルギー							
【栄養素の利用】							
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。							
【ATPの産生】							
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	薬学の基礎としての生物						
2) 解糖系について説明できる。							
3) クエン酸回路について説明できる。							
4) 電子伝達系 (酸化リン酸化) について説明できる。							
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。							
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。							
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。							
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。							
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。							
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						生体エネルギー	

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)		該 当 科 目				
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		遺伝子操作 小さな生命体と遺伝 子を調べる				
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)						
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)						
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)		小さな生命体/小さ な生命体と遺伝子を 調べる				
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)						
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		遺伝子操作				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。						
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		小さな生命体/遺伝 子操作/小さな生命 体と遺伝子を調べる				
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。						
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。		生命情報を担う遺伝 子				
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)						
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。						
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。						
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。						
5) クローン選択説を説明できる。						
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。						
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。						
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。						
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の破壊・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】		身体をまもる免疫系				
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。						
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。						
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。						
2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）						
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などをを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）		生体成分と免疫を調べる				
(3) 感染症にかかると						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス（Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔバロウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
2) 主なRNAウイルス（Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、O型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陰性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌（淋菌、Δ髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症			
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、肺炎球菌、緑膿菌、△プルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリルム属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムコール) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生源、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。						
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー必要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養必要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			栄養と健康			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)						
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)						
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】			栄養と健康/感染症			
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。						
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。						
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						
5) 化学物質 (重金属、残留農薬など) による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			栄養と健康			
(2) 社会・集団と健康						
【保続統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						
2) 人口動態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。						
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。						
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。						
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究 (コホート研究) の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】		疾病予防と疫学				
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。						
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。						
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【感染症の現状とその予防】			感染症			
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。						
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。						
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。						
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						化学物質の生体への影響
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を後述することができる。(技能)						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO、BOD、CODを測定できる。(技能)						
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。						
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)						
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						

生活環境と健康

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】					
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)					
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。					
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。					
4) シックハウス症候群について概説できる。					
【廃棄物】					
1) 廃棄物の種類を列挙できる。					
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。					
3) 医療廃棄物を完全に廃棄、処理する。(技能・態度)					
4) マニフェスト制度について説明できる。					
5) PRTR法について概説できる。					
【環境保全と法的規制】					
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。					
2) 環境基本法の理念を説明できる。					
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。					
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。					
【薬と疾病】					
G13 薬の効くプロセス					
【薬の作用】					
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。					
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。					
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。					
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。					
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。					
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。					
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。					
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。					
【薬の運命】					
1) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。					
2) 薬物の代表的な投与方法 (剤形、投与経路) を列挙し、その意義を説明できる。					
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化 (崩壊、分散、溶解など) を説明できる。					
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。					
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。					
【薬の副作用】					
1) 薬物の主作用と副作用 (有害作用)、毒性との関連について説明できる。					
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。					
薬の作用 I					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【動物実験】			体の成り立ちと働きを調べる／薬の働きを調べる			
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)						
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。						
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからOSIには馴染まない						
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)						
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
(3) 薬の効き方II					6年
【ホルモンと薬】				薬の効き方II	
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				薬の効き方III／薬の効き方II	
【消化器系に作用する薬】					
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な嘔吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。				薬の効き方II	
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
5) 代表的な胆臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。					
【腎に作用する薬】					
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬の効き方I	薬の効き方III	
【血液・造血器系に作用する薬】					
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
【代謝系に作用する薬】					
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬の効き方II	
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。					
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬の効き方II／薬の効き方III	
【炎症・アレルギーと薬】					
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。					
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。					
3) アレルギ一の代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。				薬の効き方III	
【化学構造】					
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。				薬の効き方I	薬の効き方II
(4) 薬物の薬器への到達と消失					
【吸収】					
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。					
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。					
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。					
4) 能動輸送の特徴を説明できる。					
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。					
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)				薬物を製剤化し体内動態を調べる		
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)						
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。						
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)						
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動的パラメーターを用いて説明できる。						
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)						
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、眩下降香、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、指力障害、聴力障害、めまい						
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。						
2) 適切な治療薬の選択において、薬効薬理、薬動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血小板病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の前位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝臓、膵臓、大腸癌、胃癌、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)						
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、子宮癌、子宮内膜症						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【呼吸器・胸部の疾患】			疾病と薬物治療Ⅰ／ 疾病と薬物治療Ⅱ			
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺炎腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺腫、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病				疾病と薬物治療Ⅲ／ 疾病と薬物治療Ⅳ		
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆				疾病と薬物治療Ⅴ		
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				プレファーマー実習Ⅲ		
(4) 疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ャ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年 疾病と薬物治療V/ 疾病と薬物治療VI	5 年	6 年
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。毒麻疹、薬疹、水疱症、乾燥、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症				疾病と薬物治療V		
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾病と薬物治療III/ 疾病と薬物治療IV		
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾病と薬物治療III/ 疾病と薬物治療IV/ 疾病と薬物治療V/ 疾病と薬物治療VI		
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症				疾病と薬物治療III/ 疾病と薬物治療IV		
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。						
2) アナフィラキシーシンドロームの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾病と薬物治療V/ 疾病と薬物治療VI		
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾病と薬物治療VI		
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				疾病と化学療法		
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾病例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				プレファーマシー実習III		
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。				感染症		
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。				疾病と薬物治療II		
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) ペリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。						
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に關する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。				疾病と化学療法		
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。						
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。						
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				疾病と化学療法／薬の効き方Ⅲ		
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				疾病と薬物治療Ⅵ／疾病と化学療法		
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。						
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。				疾病と化学療法		
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。				疾病と薬物治療Ⅵ／疾病と化学療法		
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						

1年	該当科目			5年	6年
	2年	3年	4年		
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
G15 薬治療に役立つ情報					
(1) 医薬品情報					
【情報】					
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。					
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。					
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。					
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。					
5) 医薬品情報に關係する代表的な法律と制度について概説できる。					
【情報源】					
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。					
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。					
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。					
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。					
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの違いがわかる。(技能)					
【収集・評価・加工・提供・管理】					
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)					
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。					
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)					
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)					
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。					
【データベース】					
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。					
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)					
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)					
【EBM (Evidence-Based Medicine)】					
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。					
2) EBM実践のプロセスを概説できる。					
3) 臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。					
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)					
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。					
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。					
【総合演習】					
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。					
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)					

医薬品情報の活用

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。						
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。						
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						
3) 患者、介護者との適切なインタビュアーから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)						
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 授乳期に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
2) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。						
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						

	薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】						
016 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。						
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。						
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。						
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。						
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。						
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末×線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)						
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。						
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液体製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。						
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。						
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			物質を解析する			
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。						
2) DDSの概念と有用性について説明できる。						
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。						
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。						
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。						
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。						
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。						
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。						
2) 新剤医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。						
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。						
【薬書】						
1) 代表的な薬書の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。						
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。						
2) 医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的精点から説明できる。						
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。						
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。						
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。						
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。						
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						

医薬品の開発 I

業 学 教 育 モ デ ル ・ コ ア カ リ キ ュ ラ ム (S B O s)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。						
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサブプロット法など) について概説できる。						
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。						
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。						
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。						
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
3) 治験 (第 I、II、およびⅢ相) の内容を説明できる。						
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。						
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						
(5) バイオスタティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。						
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) X ² 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						
						生物統計の基礎と臨 症応用

1年	2年	3年	該 当 科 目		
			4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
【臨床への応用】					
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。					
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。					
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。					
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)					
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。					
C18 薬学と社会					
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度					
【医療の担い手としての使命】					
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)					
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)					
【法律と制度】					
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。					
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。					
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。					
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。					
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。					
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。					
7) 製造物責任法を概説できる。					
【管理薬】					
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。					
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。					
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。					
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。					
【放射性医薬品】					
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。					
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。					
(2) 社会保障制度と薬剤経済					
【社会保障制度】					
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。					
2) 社会保障制度の中で医療保険制度の役割を概説できる。					
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。					
4) 高齢者医療保険制度のしくみを説明できる。					
薬剤師に関する法律と制度					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医療保険】			薬学と社会			
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。						
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。						
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)						
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。						
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。						
2) 医薬分業の現状を解説し、将来像を展望する。(知識・態度)						
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師業務担当規則および保険医療費担当規則を概説できる。						
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)						
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健康能食品について概説できる。						

(基礎資料 3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

	実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。			
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			プレファーマシー実習I
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)			
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。			病院・薬局へ行く前／ プレファーマシー実習I
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)			プレファーマシー実習I
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。			プレファーマシー実習I
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。			
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。			
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)			
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			病院薬局へ行く前／ プレファーマシー実習I／ プレファーマシー実習II

《服薬指導の基礎》			
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		
《調剤室業務入門》			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		
17.	処方せん例の鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		プレファーマシー実習Ⅰ ／プレファーマシー実習Ⅱ
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		
2.	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		病院薬局へ行く前に／プレファーマシー実習Ⅰ／プレファーマシー実習Ⅱ
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外觀の変化を観察する。(技能)		
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		
《疑義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		プレファーマシー実習Ⅰ
6.	代表的な医薬品について効能・効果・用法・用量を列挙できる。		
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		病院薬局へ行く前に／プレファーマシー実習Ⅰ／プレファーマシー実習Ⅱ
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		
9.	疑義照会の流れを説明できる。		
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		プレファーマシー実習Ⅰ ／プレファーマシー実習Ⅱ
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		病院薬局へ行く前に／プレファーマシー実習Ⅰ／プレファーマシー実習Ⅱ
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		プレファーマシー実習Ⅰ ／プレファーマシー実習Ⅱ
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		病院・薬局へ行く前に／プレファーマシー実習Ⅰ
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		病院・薬局へ行く前に
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		プレファーマシー実習Ⅰ
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		プレファーマシー実習Ⅱ

《製剤化の基礎》				
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			病院・薬局へ行く前に／ブ レファーマシー実習 I
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)			ブレファーマシー実習 I
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)			病院・薬局へ行く前に／ブ レファーマシー実習 I・II
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)			ブレファーマシー実習 II
《注射剤と輸液》				
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。			
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)			病院・薬局へ行く前に／ブ レファーマシー実習 I
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。			
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)			
《消毒薬》				
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。			ブレファーマシー実習 I・ II
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。			
(5) リスクマネージメント				
《安全管理に注目する》				
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。			
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。			ブレファーマシー実習 II
3.	院内感染の回避方法について説明できる。			
《副作用に注目する》				
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。			病院・薬局へ行く前に
《リスクマネージメント入門》				
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。			
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)			ブレファーマシー実習 I
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)			ブレファーマシー実習 II
(6) 服薬指導と患者情報				
《服薬指導に必要な技能と態度》				
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。			病院・薬局へ行く前に／ブ レファーマシー実習 I・ II・III
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。			
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)			ブレファーマシー実習 I・ III
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)			
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)			病院・薬局へ行く前に／ブ レファーマシー実習 I・ II・III
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならぬ注意点を列挙できる。			

《患者情報の重要性に注目する》				
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。			
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）			
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。			
《服薬指導入門》				プレファーマシー実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）			
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）			
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）			
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）			
(7) 事前学習のまとめ				プレファーマシー実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

A 基本事項	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)						
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)						
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)						
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
7) 様々な死生観・師価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)						
	早期体験学習 I					
		ヒューマニズム論 I				
	薬学への招待					
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)						
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。						
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。						
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。						
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。						
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。						
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。						
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)						
		公衆衛生学				
			医薬品開発論			
						ヒューマニズム論 II
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)						
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。						
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。						
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。						
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度)						
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。						
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度)						
	初期演習					
						ヒューマニズム論 II
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。						
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。						
						薬学への招待

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史 (医薬分業を含む) について説明できる。						
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)						
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)						
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。						
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)						
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。						
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。						
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。						
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。						
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)						
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。						
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。						
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)						
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。						
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)						
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。						
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。						
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。						
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)						
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)						
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)						
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)						
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)						
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。						
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)						
(4) 多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。						
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。						
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)				臨床薬学基本実習 I		
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすよう努める。(知識・態度)						
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関する問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)			医療保険と地域医療	卒業研究 I		
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)				ヒューマニズム論Ⅱ /卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)				卒業研究Ⅰ		
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)				臨床薬学基本実習Ⅱ /卒業研究Ⅰ		
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)						
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。			医療保険と地域医療			
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)						
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。						
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)						
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)					卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)						
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。						
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)						
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)						
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)						
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)						
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。						
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。						
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。						
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。						
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。						
7) 個人情報取扱いについて概説できる。						
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。						
						薬事関係法規

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <p>1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、薬局医薬品、要指適医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。</p> <p>2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。</p> <p>3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。</p> <p>4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。</p> <p>5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。</p> <p>6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。</p> <p>7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。</p> <p>8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。</p> <p>9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。</p> <p>10) 健康被害救済制度について説明できる。</p> <p>11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。</p>			医薬品開発論			
<p>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</p> <p>1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。</p> <p>2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。</p> <p>3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。</p>				薬事関係法規		
<p>(3) 社会保障制度と医療経済</p>						
<p>【①医療、福祉、介護の制度】</p> <p>1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。</p> <p>2) 医療保険制度について説明できる。</p> <p>3) 療養担当規則について説明できる。</p> <p>4) 公費負担医療制度について概説できる。</p> <p>5) 介護保険制度について概説できる。</p> <p>6) 薬価基準制度について概説できる。</p> <p>7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。</p>						
<p>【②医薬品と医療の経済性】</p> <p>1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。</p> <p>2) 国民医療費の動向について概説できる。</p> <p>3) 後発医薬品とその役割について説明できる。</p> <p>4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。</p>						
<p>(4) 地域における薬局と薬剤師</p>						
<p>【①地域における薬局の役割】</p> <p>1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。</p> <p>2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。</p> <p>3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。</p> <p>4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。</p> <p>5) 災害時の薬局の役割について説明できる。</p>			医療保険と地域医療			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。						
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。						
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。						
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。						
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。						
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識、態度)						
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。						
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。						
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。						
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。						
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。						
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。						
5) 光の散乱および干渉について説明できる。						
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。						
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。						
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。						
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。						

平成25年度改訂版・業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。						
2) 熱力学第一法則を説明できる。						
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。						
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。						
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
6) エンタルピーについて説明できる。						
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。						
【③自発的な変化】		物理化学 II				
1) エントロピーについて説明できる。						
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 熱力学第三法則について説明できる。						
4) ギブズエネルギーについて説明できる。						
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。						
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。						
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。						
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。						
4) 共役反応の原理について説明できる。						
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。						
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 状態図について説明できる。						
【⑥溶液の性質】		物理化学 III				
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。						
2) 活量と活量係数について説明できる。						
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。						
4) イオン強度について説明できる。						
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。						
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。						
(3) 物質の変化						
【⑧反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。						
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的な(概)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	物理化学 I					
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。						
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。						
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		分析化学 II	物質を解析する			
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)						
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。						
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。						
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)			物質を解析する			
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)						
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。						
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 I					
2) 沈殿平衡について説明できる。						
3) 酸化還元平衡について説明できる。						
4) 分配平衡について説明できる。						
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。						
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						
【②定量分析(容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。						
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 II	物質を解析する			
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)						
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。						
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。						
3) 赤外線吸収(IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。						
		分析化学 III / スペクトル構造解析学				
		分析化学 III				
		分析化学 III / スペクトル構造解析学				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅲ				
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅲ/スペクトル構造解析学				
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分析化学Ⅲ 物質を解析する				
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学Ⅲ/スペクトル構造解析学				
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。						
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。						
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。						
【⑤熱分析】		分析化学Ⅲ				
1) 熱量測定法の原理を説明できる。						
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。						
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。						
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		分析化学Ⅱ 物質を解析する				
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。						
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。						
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【②分析技術】		分析化学Ⅲ				
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。						
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。						
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。						
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。						
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅰ／有機化学Ⅱ					
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。						
3) 脱離反応の特徴について説明できる。						
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ				
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅱ					
2) カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅲ				
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。						
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学Ⅰ／有機化学Ⅱ					
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ				
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。						
(4) 化学物質の構造決定						
【⑧核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。						
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		スペクトル構造解析				
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。						
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。						
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)		スペクトル構造解析 学/医薬品をつくる				
【⑨赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		スペクトル構造解析 学				
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		スペクトル構造解析 学/医薬品をつくる				
【⑩質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		スペクトル構造解析 学				
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		スペクトル構造解析 学/医薬品をつくる				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。		スペクトル構造解析 学				
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		スペクトル構造解析 学/医薬品をつくる				
【⑪総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		スペクトル構造解析 学/医薬品をつくる				
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【⑫無機化合物・錯体】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。						
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。						
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。						
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。						
2) 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			分子生物学			
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。				医薬品化学		
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。						
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。						
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。						
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。						
2) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。						
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。						
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。						
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。						
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子（脂防酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。						
2) 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。						
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的に説明できる（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。						
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。						
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③医薬品のコンポーネント】			医薬品化学			
1) 代表的な医薬品のファーマコフオアについて概説できる。						
2) バイオアインスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。						
3) 医薬品に含まれる代表的な構素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。						
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) スクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などももつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) β -ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
2) アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
3) ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
5) オピオイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。						
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。						
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。						
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。						
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。			生薬・天然物医薬品を取扱う			
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）						
3) 植物の主な内部形態について説明できる。						
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。						
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、菌類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。						
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、菌類、菌類由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。						薬用植物・生薬学
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。						
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造 (一次、二次、三次、四次構造) と性質を説明できる。						
【⑤スクレオチドと核酸】						
1) スクレオチドと核酸 (DNA, RNA) の種類、構造、性質を説明できる。		分子生物学				
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。						
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。						
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)						
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【⑩タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防衛タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。						
【⑫タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。						
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		細胞生物学				
【⑬酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。						
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)						
【⑭酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。						
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。						
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【⑮概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。						
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
【⑯遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造 (スクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。						
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。						
3) RNA の種類 (mRNA, rRNA, tRNA など) と機能について説明できる。						
【⑳遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。						
【㉑転写・翻訳の過程と調節】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。		分子生物学				
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
3) 転写因子による転写制御について説明できる。						
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。						
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。						
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。						
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入、次損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。						
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。						
【②ATP の産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。						
2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。						
3) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。						
4) グリコーゼンの代謝について説明できる。						
5) 糖新生について説明できる。						
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。						
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。						
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。						
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。						
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。						
2) スクワレオチドの生合成と分解について説明できる。						
3) ペントースリン酸回路について説明できる。						
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。						
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。						
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。						
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③細胞間コミュニケーション】		細胞生物学				
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。						
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。						
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。						
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。						
【②細胞死】						
1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。						
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。						
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。						
07 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】		生理学				
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。						
2) 遺伝子多型について概説できる。						
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。						
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。						
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。						
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。						
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)						
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)						
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。						
2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。						
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。						
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。						
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。						
2) 血管系について概説できる。						
3) リンパ管系について概説できる。						

解剖学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。						
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。						
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。						
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。						
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。						
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。						
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。						
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。						
2) 血液・造血器系について概説できる。						
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。						
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。						
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。						
【③オートクオイドによる調節機構】						
1) 代表的なオートクオイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。						
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。						
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。						
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。						
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。						
4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。						
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。						
【③ ウィルス】		病原微生物学				
1) ウィルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。						
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。						
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。						
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、消毒の概念を説明できる。						
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
(4) 病原体としての微生物			健康と環境への影響を調べる			
【⑩ 感染の成立と共生】						
1) 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。						
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						
【⑫ 代表的な病原体】						
1) DNA ウィルス (ヒトヘルペスウィルス、アデノウィルス、パピローマウィルス、B 型肝炎ウィルスなど) について概説できる。						
2) RNA ウィルス (ノロウィルス、ロタウィルス、ポリオウィルス、コクサッキーウィルス、エコーウィルス、ライノウィルス、A 型肝炎ウィルス、B 型肝炎ウィルス、インフルエンザウィルス、麻疹ウィルス、風疹ウィルス、日本脳炎ウィルス、狂犬病ウィルス、ムンプスウィルス、HIV、HTLV など) について概説できる。						
3) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など) について概説できる。						
4) グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、エルシニア菌、クレブシエラ菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。						
5) グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。						
6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。						
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。						
8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムコール、白黴菌など) について概説できる。						
9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、蛔虫、アニサキス、エキソコックスなど) について概説できる。						
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。						
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						
2) 人口統計および標病統計に関する指標について説明できる。						
3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。						
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。						
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。						
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。						
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
(2) 疾病の予防						
【④疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。						
2) 健康増進政策 (健康日本21など) について概説できる。						
【⑤感染症とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。						
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。						
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。						
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。						
【⑥生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。						
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。						
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)						
【⑦母子保健】						
1) 新生児マスタスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
【⑧労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。						
2) 労働衛生管理について説明できる。						
(3) 栄養と健康						
【⑨栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。						
4) 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。						
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。						
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。						
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の家質試験を実施できる。(知識・技能)						
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。						
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。						
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。						
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		病原微生物学				
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)						
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。						
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)						
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。						
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。						
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。						
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④放射線の生体への影響】			放射化学			
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。						
2) 代表的な放射線核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。						
3) 電離放射線を防制する方法について概説できる。						
4) 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。						
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)						
【②環境保全と法的規制】			環境衛生学			
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。						
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。						
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。						
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)						
3) 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。						
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
【⑥廃棄物】			公衆衛生学			
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。						
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) マニフェスト制度について説明できる。						
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 薬の作用					
【①薬の作用】					
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。					
2) アゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) について説明できる。					
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを別に挙げて説明できる。					
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。					
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6 (6) 【②細胞内情報伝達】 1. ~ 5. 参照)					
6) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。 (E4 (1) 【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)					
7) 薬物の選択 (禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因 (年齢、疾病、妊娠等) について具体例を挙げて説明できる。					
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 (E4 (1) 【②吸収】 5. 【④代謝】 5. 【⑤排泄】 5. 参照)					
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。					
【②動物実験】					
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)					
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)					
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)					
【③日本薬局方】					
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。					
(2) 身体の病的变化を知る					
【①症候】					
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心壁亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血尿、喀血、めまい、頭痛、運動麻痺、不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢、便秘、吐血、下血、腹部膨満 (腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・尿色の異常、月経異常、関節腫脹・腰痛・腰痛部痛、記憶障害、知覚異常 (しびれを含む)、神経痛、視力障害					
【②病態・臨床検査】					
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
6) 代表的な生理機能検査 (心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。					
(3) 薬物治療の位置づけ					
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療 (外科手術など) の位置づけを説明できる。					
病態・薬物治療 I					
処方解折等/処方解析学演習					
処方解折等/臨床薬学基本実習Ⅲ					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。 (知識・技能)						
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。			病態・薬物治療 I			
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		基礎薬理学 I	医薬品開発論			
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常・肝障害・腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害				症例解析学		
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	初期演習					臨床薬学基本実習 II
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①】自律神経系に作用する薬						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		基礎薬理学 I				
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬の働きを調べる			
【②】体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		基礎薬理学 I	病態・薬物治療 III			
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)						
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)				症例解析学		
【③】中枢神経系の疾患の薬、病態、治療						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。		基礎薬理学 I	病態・薬物治療 III			
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞、脳血栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学 I / 病態・薬物治療 III			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。						
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬の働きを調べる			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)						
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎、髄膜炎 (重複)、多発性硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症						症例解析学
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		基礎薬理学 I				
(2) 免疫・炎症・アレルギー-および骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。						
3) 創傷治癒の過程について説明できる。						
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			臨床薬理学 I / 病態・薬物治療 III			
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)						
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹						症例解析学
5) アナフィラキシーシンドローム (アレルギーシンドローム) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病						
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ハセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群			臨床薬理学 I / 病態・薬物治療 III			
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮筋炎、関節リウマチ (重複)						
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態・薬物治療 III			
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 薬形性副作用について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学 I	病態・薬物治療 IV		
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
【④】化学構造と薬効						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。						
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系・生殖器系の疾患と薬						
【①】循環器系疾患の薬、病態、治療						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		基礎薬理学 I	病態・薬物治療 I			
不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(AF)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心房細動(VF)、房室ブロック、QT延長症候群						
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学 I / 病態・薬物治療 I			
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		基礎薬理学 I	病態・薬物治療 I			
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)						
5) 以下の疾患について概説できる。						
閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患						症例解析学
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)						
【②】血液・造血器系疾患の薬、病態、治療						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血						
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓性血小板減少症、白血球(重複)、悪性リンパ腫(重複)						
(E2 (7) 【⑨】悪性腫瘍の薬、病態、治療) 参照)						
【③】泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) ネフロゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 通活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
			臨床薬理学 II / 病態・薬物治療 IV			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。慢性腎臓病 (CKD)、糸球体腎炎 (重複)、糖尿病性腎症 (重複)、薬剤性腎症 (重複)、腎盂腎炎 (重複)、膀胱炎 (重複)、尿路感染症 (重複)、尿路結石						
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫			臨床薬理学Ⅱ/病態、薬物治療Ⅲ			
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。異常妊娠、異常分娩、不妊症				症例解析学		
【④化学構造と薬物】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			臨床薬理学Ⅱ			
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患 (ニコチン依存症を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			臨床薬理学Ⅱ/病態、薬物治療Ⅳ			
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上消化器疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。胃食道逆流症 (逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎						
2) 炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3) 肝疾患 (肝炎、肝硬変 (ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) 肺炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
5) 胆道疾患 (胆石症、胆道炎) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
6) 機能性消化管障害 (過敏性腸症候群を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物 (催吐薬) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
9) 痔について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
【③化学構造と薬物】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			臨床薬理学Ⅱ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学Ⅱ/病態・薬物治療Ⅱ			
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。						
2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学Ⅱ/病態・薬物治療Ⅳ			
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内腫症(重複)、アジソン病(重複)				症例解析学		
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			臨床薬理学Ⅱ			
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 結内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学Ⅲ/病態・薬物治療Ⅲ			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症				症例解析学		
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学Ⅲ/病態・薬物治療Ⅲ			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎、扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				症例解析学		
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2 (2)) 【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)			臨床薬理学Ⅲ/病態・薬物治療Ⅲ			
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2 (7)) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)			臨床薬理学Ⅳ/病態・薬物治療Ⅳ			
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			臨床薬理学Ⅲ/病態・薬物治療Ⅲ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、葉疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)				症例解析学		
【④化学構造と薬効】						
1) 感菌器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			臨床薬理学Ⅲ			
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
【①抗真菌薬】						
1) 以下の抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗真菌薬						
2) 細菌感染症に關係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。				病態・薬物治療V		
【②抗細菌薬の耐性】						
1) 主要な抗細菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。						
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎)					病態・薬物治療V	
2) 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎					病態・薬物治療IV	
3) 以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎						
4) 以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎						
5) 以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等						
6) 膣炎、黴菌炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					病態・薬物治療V	
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病						
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。						
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セフトラゾ、緑膿菌等						
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 シフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症						
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
2) サイトメガウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
4) ウイルス性肝炎 (HAV, HBV, HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複)				病態・薬物治療V		
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。						
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病) 手足口病 伝染性単核球症、咽頭結膜熱、ウイリス 性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト-ヤコブ) 病						
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。						
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症						
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢						
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症						
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。						
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む)) ・悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状) ・悪性腫瘍のリスクおよび予防要因						
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。						
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポソイメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン阻害薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬						
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心、嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む)、血小板減少等) の軽減のための対処法を説明できる。						
4) 代表的ながん化学療法剤のレジメン (FOLFIRI等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。						
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人T細胞白血病 (ATL)						
				病態・薬物治療V / 症例解析学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等			医療保険と地域医療			
6) 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				臨床薬学基本実習II		
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)						
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。						
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相連について説明できる。						
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。						
2) 日本薬局方に記載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。						
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)						臨床薬学基本実習III
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)						臨床薬学基本実習I /臨床薬学基本実習II /臨床薬学基本実習III
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)						
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。						医薬品情報学/臨床薬学基本実習III
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。						
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						医薬品情報学
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GMP、GVP、GSP、RMPなど)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						医薬品開発論
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。						医薬品情報学/臨床薬学基本実習II
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 薬物の体内動態					
【①生体膜透過】					
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。					
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。					
【②吸収】					
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。					
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。					
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。					
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					
5) 初回通過効果について説明できる。					
【③分布】					
1) 薬物が結合する代表的な血浆タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。					
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血浆タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。					
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。					
4) 血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。					
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。					
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					
【④代謝】					
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。					
2) 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。					
3) 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。					
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。					
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。					
【⑤排泄】					
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。					
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。					
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。					
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。					
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。					
(2) 薬物動態の解析					
【①薬物速度論】					
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。					
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与【単回および反復投与】、定速静注）。（知識、技能）					
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）					
薬物動態学Ⅱ					
薬物動態学Ⅱ／薬物を製剤化し、体内動態を調べる					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。						
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。						
6) 薬物動態学一薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。						
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】			薬物動態学Ⅱ			
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				薬学臨床実習概論		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。						
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)				臨床薬学実習Ⅱ		
4) ポピュレーションファーマコキネティクス の概念と応用について概説できる。				薬学臨床実習概論		
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。						
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。						
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。						
(C2) (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び 【②各種の化学平衡】2. 参照)						
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。						
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。						
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。						
【③分散系材料】						
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。			物理薬理学			
(C2) (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)						
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。						
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。						
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で用いられる高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。						
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。						
(C1) (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照)						
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。						
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。						
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。						
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。						
6) その他の製剤（生薬関連製剤、透折に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。						
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。						
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。						
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。						
(3) DUS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)			製剤学			
【①DUS の必要性】						
1) DUS の概念と有用性について説明できる。						
2) 代表的なDUS技術を列挙し、説明できる。 (フロドラッグについては、E4 (I) 【④代講】 4. も参照)						
【②コントロールリリース（放出制御）】						
1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3) コントロールリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【③ターゲティング（標的指向化）】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。						
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。						
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。						
F 薬学臨床						
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期体験学習 I					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)						
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	早期体験学習 II					
【②臨床における心構え】 [A (1)、(2) 参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)						
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)						
				臨床薬学基本実習 I /臨床薬学基本実習 II /臨床薬学基本実		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				習Ⅲ		
4) 医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					薬学臨床実習	
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)						
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)						
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ ／臨床薬学基本実習Ⅲ		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。						
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。						
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。						
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 〔B（3）①参照〕			医療保険と地域医療			
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。						
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。						
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)						
9) 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						薬学臨床実習
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。						
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。						
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。						
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)						
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】〔B（2）、（3）参照〕						
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、錠薬照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ		
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)						薬学臨床実習
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)						
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						
【②処方せんと錠薬照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ 臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ ／臨床薬学基本実習Ⅲ		
2) 前) 処方オプティミゼーションおよび電子カルテについて概説できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ ／薬学臨床実習概論 臨床薬学基本実習Ⅰ ／処方解析学演習Ⅰ 臨床薬学基本実習Ⅰ ／調剤薬学基本実習Ⅰ		
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。						
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。						
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)				Ⅱ／処方解析学演習		
7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)						
8) 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)						
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)				症例解析学／処方解析学演習		
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)						
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)						
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ		
2) 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。						
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)						
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				臨床薬学基本実習Ⅱ 薬学臨床実習概論／ 処方解析学演習		
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ ／薬学臨床実習概論		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)						
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)				臨床薬学基本実習Ⅱ 臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)						
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)						
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)						
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)						
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)						
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)						
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)						
15) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)						
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)						
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)						
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)						
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)						
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。(態度)						
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅲ		
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、収容方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				臨床薬学基本実習Ⅰ ／処方解析学演習		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				臨床薬学基本実習Ⅲ ／処方解析学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤 (眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等) の取扱い方法を説明できる。(知識・態度)				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。(技能)				臨床薬学基本実習Ⅲ ／処方解析学演習Ⅰ		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ		
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)						
10) 患者・来局者から、必要な情報 (症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー一歴、薬歴、副作用歴等) を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)						
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)						
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)						
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)						
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)						
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)						
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。						
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。						
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。						
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。			放射化学			
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管方法を説明できる。						
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。						
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				薬学臨床実習概論 ／臨床薬学基本実習Ⅰ		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。						
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)						
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)						
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。						
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)						
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)						
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬 (投薬) までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。						
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の特徴と注意点を列挙できる。						
3) 前) 代表的なインシデント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対応方法を討議する。(知識・態度)						
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。						
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)						
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。						
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。						
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の安全管理を体験する。(知識・態度)						
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）					薬学臨床実習	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）						
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）						
13) 臨床塗布・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）						
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）						
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。						
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 〔E3（2）①参照〕				臨床薬学基本実習Ⅲ		
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。						
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）						
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）						
6) 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）					薬学臨床実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）						
【②医薬品情報の収集と活用】〔E3（1）参照〕						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）				臨床薬学基本実習Ⅱ		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）						
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）					薬学臨床実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）						
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）						
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）						
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				処方解析学演習		
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。						
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。						
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。						
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				薬学臨床実習概論		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。						
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。						
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。						
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方提案ができる。（知識・態度）						
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）						
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）					薬学臨床実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)						
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。						
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)						
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				薬学臨床実習概論／臨床薬学基本実習Ⅲ		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				臨床薬学基本実習Ⅲ		
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)						
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)						
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の方法を提案できる。(知識・態度)						
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)						
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。						
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						薬学臨床実習
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。						
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)						
11) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)						
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)						
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)						
(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ ／臨床薬学基本実習Ⅲ		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。						
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。						
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)						
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)						
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)						
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携、協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)						薬学臨床実習
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)						
9) 病院内の多様な医療チーム(IGT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)						
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。				臨床薬学基本実習Ⅰ ／臨床薬学基本実習Ⅱ ／臨床薬学基本実習Ⅲ		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)						
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)						薬学臨床実習

1年	該 当 科 目				6年
	2年	3年	4年	5年	
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					
(5) 地域保健・医療・福祉への参画 [B(4)参照]					
【①在宅 医療・介護への参画】					
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。					
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。					
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。					
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。(知識・態度)					
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】					
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドローピング活動等）について説明できる。					
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。					
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)					
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2(9)参照]					
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)					
2) 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す求局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)					
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)					
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)					
5) 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)					
6) 求局者から収集した情報や身体所見などに基づき、求局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。(知識・態度)					
7) 求局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。(知識・態度)					
8) 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を求局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)					
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)					
【④災害時医療と薬剤師】					
1) 前) 災害時医療について概説できる。					
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					
6 薬学研究					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)						
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)						
(2) 研究に必要な法規範と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。						
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲				卒業研究 I	卒業研究 II	
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)						
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)						
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)						
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)						
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)						
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)						

- [注] 1 任意(大学独自)の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。
2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

カリキュラムマップフォーム

学部名	学科名
薬学部	薬学科

ディプロマポリシー	1. 知識・理解	① 医療人としての使命感と倫理観を有する ② 豊かな教養と医薬品および臨床に関する専門的知識を有する ③ コンプライアンス(法令遵守)の必要性を理解する
	2. 技能・表現	④ 薬剤師として、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計、安全性・有効性、リスク管理およびチーム医療への参画に必要な薬学的能力を有する ⑤ 薬剤師業務および関連業務に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する ⑥ 薬物療法および地域の医療・健康・予防・福祉介護等の実践に必要な基礎的な科学技術を有する
	3. 思考・判断/態度・志向性	⑦ 進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を有する ⑧ 薬剤師として、患者・生活者医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する ⑨ 次世代を担う薬剤師人材を育成する意欲と態度を有する
カリキュラム	薬剤師として高度な専門知識と臨床能力を身につけ、医療をはじめとする多様な分野で社会貢献できる有為な人材を養成するために、教養科目、語学教育科目、基礎科学科目に続いて、薬剤師教育カリキュラムのガイドラインである改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」(平成25年12月、文部科学省 薬学系人材養成委員会)に準拠した科目と本学独自の科目を適切に配置したカリキュラムに則り、薬剤師受験資格取得を目標に、次のように実施します。 1) 1~2年次は、教養教育科目、基礎的科学的力と語学力、および、薬剤師に必須なコミュニケーション力を学び、薬剤師への志向と学修意欲の向上を図ります。 2) 2~3年次は、薬学を理解し、薬剤師に必要な基本的な科学知識・技能を養います。 3) 3~5年次は、医療の高度化に対応するために、薬剤師に必要な医薬品の有効性・安全性、病態治療、健康・環境について学びます。 4) 4~6年次は、4年次の事前学習、5年次の病院実習、薬局実習を含め臨床科目を学び、薬剤師として医療に貢献できる知識・技能・態度を学びます。 5) 5~6年次は、卒業研究により、倫理性、問題発見・解決能力、論理的な思考力を養います。 6) 全学年を通して、薬剤師に関わる社会の仕組みや法規制を学び、地域に置ける保健、医療、福祉での個人情報取扱い、地域連携などを学びます。	

○カリキュラムマップ

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断/態度・志向性								
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨											
15UPPHM1001	初期演習	1	専門領域への円滑な導入を図る。有意義な学生生活を送るための基盤を築く。	大学生として主体的に「自ら考え・学ぶ」態度を身につけ、学部学科の教育目標・教育内容を理解する。本学学生としての自覚と責任を持ち、豊かな人間関係(学生相互・学生と教員)を形成する。	○			○											
15UPPHM1002	基礎化学	1	薬学を学ぶ上で必要な化学の基礎力を身につけるために、原子の構造から分子の成り立ち、化学結合、代表的化合物、基本的な計算などに関する化学の基本的事項を修得する。	1) 原子、分子、イオンの基本的構造など物質の基本概念について説明できる。 2) 代表的な化学結合について説明でき、代表的な化合物の名称と構造を列挙できる。 3) 濃度計算、化学反応の量的計算など、化学の基本的な計算ができる。			◎			○									○
15UPPHM1003	基礎生物	1	薬学を学ぶ上で必要な生物の基礎力を身につけるために、細胞、組織、器官、個体、集団レベルでの生命現象と、誕生から死への過程に関する基本的事項を修得することを目的とする。	薬の専門家として医療に携わる薬剤師として、“生命の仕組み”に関する十分な知識と、それに裏付けられた“生命観”を身につけることを目標とする。		◎		○	○										
15UPPHM1004	基礎数学・物理	1	薬剤師に求められる専門的知識を在学期間中に計画的に習得していくために、その前提となる数学および物理学の基礎的な知識および技能を習得することを目的とする。	1) 高等学校の数学を基礎として、大学初等レベルの数学的知識および技能を修得する。 2) 高等学校の物理学を基礎として、大学初等レベルの物理学的知識および技能を修得する。			◎			○									○

15UPHM2403	物理化学Ⅲ	2	体内で起こる生理的あるいは病的現象を理解する際に必要な物理化学的視点を養うため、物質の状態や溶液及び電気化学に関する基本的知識を修得することを目的とする。	1) 物質の相平衡に関する知識及び状態図を読み取るスキルを身につける。 2) 生体の恒常性に寄与する束一的性質等の溶液の性質に関する知識を身につけるとともに、その検証に必要な数学的スキルを身につける。 3) 電気化学に関する知識を身につける。	◎	○		○							
15UPHM1404	分析化学Ⅰ	1	化学物質を理解できるようになるために、代表的な無機化合物・錯体(医薬品を含む)の構造、性質に関する基本的事項を修得することを目的とする。また、化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようにするために、化学物質の定性分析および溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 代表的な無機化合物、錯体について説明できる。 2) 代表的な無機イオンおよび医薬品の定性反応を説明できる。 3) 溶液中の酸・塩基平衡の概念について説明できる。 4) pHおよび解離定数について説明できる。 5) 溶液中の化学平衡(錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡、分配平衡)について説明できる。	◎	○		○							
15UPHM2405	分析化学Ⅱ	2	化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようになるために、化学物質の分析に用いる器具の使用法、得られる測定値の取り扱い、定量分析法および分離分析法に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 測定値の適切な取り扱い、分析法のバリデーションについて説明できる。 2) 容量分析法(中和滴定、非水滴定、キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定)の原理、操作法および応用例を説明できる。 3) 重量分析法の原理および操作法を説明できる。 4) クロマトグラフィーの分離機構を説明できるとともに、薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーおよびガスクロマトグラフィーの特徴と検出法を説明できる。 5) 電気泳動法の原理と応用例を説明できる。	◎	○		○							
15UPHM2406	分析化学Ⅲ	2	化学物質(医薬品を含む)を適切に分析できるようになるために、機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項とともに、臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 分光分析法(紫外可視吸光度測定法、蛍光光度法、赤外吸収スペクトル測定法、原子吸光光度法、発光分光分析法)の原理および応用例を説明できる。 2) 核磁気共鳴スペクトル測定法、質量分析法、X線分析法、熱分析法の原理および応用例を説明できる。 3) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できるとともに、臨床分析における精度管理および標準物質について説明できる。 4) 臨床分析で用いられる分析法(免疫化学的測定法、酵素を用いた分析法、画像診断技術)について説明できる。	◎	○		○							
15UPHM3407	医薬品試験法	3	日本薬局方に記載されている一般試験法の基本的事項を修得するとともに、医薬品各条に記載されている医薬品の確認試験法、純度試験法、定量法に対する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 日本薬局方中の確認試験、純度試験、定量法および通則中の医薬品分析に関する規定を説明できる。 2) 日本薬局方中の化学的試験法(容量分析法および重量分析法)を説明できる。 3) 日本薬局方中の物理的試験法(分光分析法およびクロマトグラフィー)を説明できる。 4) 化学的試験法および物理的試験法を用いた日本薬局方中の医薬品の定量、確認試験、純度試験について説明できる。	◎	○		○							
15UPHM3408	放射化学	3	放射線が健康に与える影響を科学的に理解するとともに、医療への応用を図るため、原子や放射線の性質、放射線の生体への影響に関する基本的事項を習得することを目的とする。	1) 原子の特長を知るとともに、放射線の種類とその特長に関する知識を身につける。 2) 放射線が生体に及ぼす障害に関する知識を身につける。 3) 放射性医薬品や医療機器の原理及び特長に関する知識を身につける。	◎	○		○							
15UPHM1409	有機化学Ⅰ	1	薬学の基礎である有機化合物(医薬品や生理活性化合物)の性質や反応性を理解するために必要となる、基本的な「有機化学の知識」を修得することを目的としている。	1) 代表的な脂肪族化合物を IUPAC 命名法と慣用名を用いて命名することができる。 2) オクテット則、形式電荷に配慮して、有機化合物の路易斯構造式を書くことができる。 3) 有機化合物の共鳴について、共鳴構造式を示して説明することができる。 4) 原子軌道と電子配置について説明できる。 5) ルイスの酸・塩基を定義することができる。 6) ブレーンステッド・ローリーの酸・塩基の酸性度・塩基性を、pKaを用いて説明することができる。 7) R-S 規則による立体配置を説明することができる。 8) アルカンやシクロアルカンの立体配座について説明できる。		○				◎					
15UPHK1410	有機化学Ⅱ	1	医薬品(ほとんどは有機化合物である)の化学的性質を特徴づけている官能基についての基礎知識を習得する。官能基の構築法や変換法、また反応性についても理解する。反応は、電子の流れを矢印を使った反応機構によって理解できるようにし、最小の暗記で最大の理解ができるようにする。予習復習を徹底して行い、知識を習得する習慣を身につける。	官能基に関するほとんどの知識習得が目標であるが、理解度の確認には演習問題を自ら解答し、正解できるようにならねばならない。予習と復習を習慣づけ、中間テストや定期試験前だけではなく、日頃から勉強に取り組む習慣を身につけることも目標となる。	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○		
15UPHM2411	有機化学Ⅲ	2	医薬品や生体内物質の生理活性に密接に関連している有機化合物の性質を理解するため、これの特徴づけている官能基に関する基本的知識を習得し、有機化合物の物理的・化学的性質ならびに反応性を、化合物の構造から類推できる能力を身につけることを目的とする。	1) アルデヒド類およびケトン類の基本的性質と反応性を説明できる。 2) カルボン酸およびその誘導体の基本的性質と反応性を説明できる。 3) 酸性化合物の酸性度および塩基性化合物の塩基性を比較して説明できる。	◎	○		○	○						

15UPHM2412	スペクトル構造解析学	2	日本薬局方収載医薬品を含む基本的な化学物質の構造決定ができるようになるために、各種機器分析法の基本的知識と、スペクトルデータの解析のための基本的技能を修得する。	1) 各種機器分析法の特徴、測定原理、装置などについて概説できる。 2) 各種スペクトルから、化合物の部分構造の推定や、候補化合物の中から選択できる。 3) 複数の各種スペクトルから得られる情報を組み合わせて、構造未知化合物の部分構造の推定や、候補化合物の中から選択できる。	◎	○	○	○												
15UPHM3413	医薬品化学	3	創薬化学を理解するために、様々な医薬品のもつ薬理作用を、有機化学的知識を活用してそれらの化学構造から予測、理解する能力を習得することを目的とする。	これまでに学んだ有機化学の知識をもとに次にあげる各疾患に用いられる代表的な薬物の薬効をそれらの化学構造に関連付けて概説できることを目的とする。(神経系疾患、免疫・炎症・アレルギー疾患、循環系・泌尿器系・生殖器系疾患、呼吸器系・消化器系疾患、代謝系・内分泌系疾患、感覚器・皮膚疾患、病原微生物・悪性新生物疾患)	○	◎	○	○	△	△	○	○	△							
15UPHM3414	発異有機化学	3	基本的な官能基の変換法、代表的な炭素骨格構築法の修得を通じて、入手容易な化合物を出発物質として、局方医薬品や汎用される医薬品を含む目的化合物へ化学変換するために、有機合成法の基本的知識を修得することを目的とする。	1) アルカン、アルケンおよびアルキンの合成法を説明できる。 2) 有機ハロゲン化合物の合成法を説明できる。 3) アルコール、フェノールおよびエーテルの合成法を説明できる。 4) アルデヒドおよびケトンの合成法を説明できる。 5) カルボン酸およびカルボン酸誘導体の合成法を説明できる。 6) アミンの合成法を説明できる。 7) 代表的な炭素-炭素結合生成反応について説明できる。 8) 代表的なベリ環状反応について説明できる。 9) 代表的な転位反応について説明できる。 10) 保護基を用いて、有機化合物の逆合成について説明	○						◎									
15UPHM4415	発異医薬品化学	4	新規医薬品の開発研究や医薬品の安定供給に必要な不可欠である有機合成化学の基本的知識を整理し、創薬化学に必要な見識を習得することを目的とする。	1) 代表的な芳香族複素環化合物の基本的性質と反応性を説明できる。 2) リン化合物および硫黄化合物の構造と化学的性質を説明できる。 3) 代表的な医薬品を列挙し、それらの化学構造に基づき性質について説明できる。		◎	○	○	○											
15UPHM2416	薬用植物・生薬学	2	自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な薬用植物および生薬の基原、性状、薬効成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。	1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効および日本薬局方収載の生薬の基原植物、薬用部位、薬効、成分、用途、確認試験などの知識を身に付ける。 2) 副作用や使用上の注意が必要な生薬を説明できる。 3) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		◎	○	○	○											
15UPHM2417	天然物化学	2	医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。	1) 生薬および微生物由来の代表的な生物活性物質の生合成経路を概説できる。 2) 生薬由来の代表的な生物活性物質の作用を説明できる。 3) 医薬品、農薬や香料などに使われている代表的な天然生物活性物質の用途を説明できる。		◎	○	○	○											
15UPHM1418	生化学	1	生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命現象を担う生体分子に関する基本事項を修得することを目的とする。	生命現象を担う分子であるタンパク質、糖質、脂質の構造、性質及び機能に関する基本的事項を説明できるようにすることを目標とする。		◎			○											
15UPHM2419	代謝生化学	2	生命活動が生体エネルギーにより支えられていることを理解するために、食物成分からのエネルギー生産および糖質、脂質およびタンパク質の代謝に関する基本的知識を修得することを目的とする。	食物成分である糖質、脂質およびタンパク質が生体内でどのように代謝され生体エネルギーに変化していく過程と生体成分の生合成およびその制御に関する基本的事項を説明できるようにすることを目標とする。		◎	○	○	○											
15UPHM2420	分子生物学	2	現代の生命科学を理解し医療に活用するためには生命情報に関する分子レベルの知識が必須である。そこで、生命情報を担う遺伝子の複製および発現、それらの制御に関する基本的事項を修得することを目的とする。	ゲノム構造、遺伝子の実体であるDNAと遺伝情報発現を担うRNAの構造と機能、遺伝情報の流れとその調節機構、遺伝子操作技術についての基本的知識を身につけている。		◎	○		○											

15UPHM2421	免疫学	2	生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようにするために、免疫反応による生体防御機構とその破綻に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。 2) 免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。	◎	○	○					
15UPHM2422	細胞生物学	2	生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を修得する。 2) 細胞間コミュニケーションおよび細胞内情報伝達の方法と役割に関する基本的事項を修得する。 3) 細胞周期と分裂、細胞死に関する基本的事項を修得する。 4) 遺伝および発生に関する基本的事項を修得する。	◎	○	○					
15UPHM2423	病原微生物学	2	微生物に起因する疾病を理解するために、微生物の分類、構造、生活環やヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 原核生物、真核生物およびウイルスに関する基本的知識を身に付けている。 2) 代表的な病原体に関する知識を身に付けている。 3) 微生物に起因する食中毒についての知識を身に付けている。 4) 微生物に起因する感染症に関する知識を身に付けている。	○	◎	○		○	○		
15UPHM1424	解剖学	1	ヒトの身体の基本構造を把握し、その正常な機能を理解することを目的とする。	ヒトの身体を構成する構成要素（器官系、臓器、組織、細胞）の名称や構造と、機能を結びつけて説明できる。	◎					○		
15UPHM2425	生理学	2	ヒトの身体の中にある個々の臓器の機能は、統合され正常に維持されている、その“仕組み”を理解する。	臓器の生理機能を一定に保つ（恒常性維持）機構（仕組み）を理解する。また、恒常性維持の仕組みを具体例をあげて説明できる。	◎	○	○		○			
15UPHM5426	生体恒常性のメカニズム	5	生体は内的、外的要因に対応して、恒常性を維持している。本科目では、機能形態学、生化学、代謝生化学、細胞生物学、免疫学などの基礎知識を統合し、恒常性維持のメカニズムを多面的に理解することが目的である。	恒常性維持の分子機構とそれによる生理応答、それらの調節系の破綻と疾患の関連性について、多面的に分子レベルから全身レベルまでを統合した理解を修得する。	◎	○			○			
15UPHM1427	薬学基礎演習Ⅰ	1	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識の修得を目的とする。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題がすべて解け、内容が理解できることを目標とする。	◎			○	○			
15UPHM1428	薬学基礎演習Ⅱ	1	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識の修得を目的とする。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題がすべて解け、内容が理解できることを目標とする。	◎			○	○			
15UPHM2429	薬学基礎演習Ⅲ	2	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識の修得を目的とする。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題がすべて解け、内容が理解できることを目標とする。	◎			○	○			

15UPHM2430	薬学基礎演習IV	2	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識の修得を目的とする。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題がすべて解け、内容が理解できることを目標とする。	◎			○	○			
15UPHM2431	薬学基礎演習III	2	薬学は化学、生物、物理等に基礎を置く学際領域の学問であり、上級学年に受講する専門教育科目を理解するためには、しっかりした自然科学の基礎知識が必要となる。本演習では、薬学専門領域を学ぶために必要な基本的な知識の修得を目的とする。	同時期に開講されている講義科目について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。すべての科目で課題として出された演習問題がすべて解け、内容が理解できることを目標とする。	◎			○	○			
15UPHM2501	公衆衛生学	2	人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、現代社会における疾病とその予防や疫学、統計に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するための保健統計と疫学に関する基本的知識を身に付けている。 2) 健康を理解し疾病の予防に貢献するための生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的知識を身に付けている。	○	◎	○		○	○		
15UPHM3502	栄養・食品衛生学	3	食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 栄養素の種類や健康への影響に関する基本的知識を身に付けている。 2) 食品の変質およびそれを防ぐための基本的知識を身に付けている。 3) 食品に含まれる可能性のある有毒物質と健康に及ぼす影響についての基本的知識を身に付けている。	○	◎	○		○	○		
15UPHM3503	環境衛生学	3	人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようにするため、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との間わりにおける基本的事項を修得することを目的とする。	1) 化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるための化学物質の毒性などに関する基本的知識を身に付けている。 2) 地球生態系や生活環境を保全、維持できるようになるための環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識を身に付けている。	○	◎	○		○	○		
15UPHM4504	臨床栄養学	4	栄養は、疾病の発症と密接に関係しているのみならず、臨床においても患者の栄養状態の把握や適切な栄養管理が必要となる。本科目は、栄養の過不足と疾病の関係、性別や年齢、体格、病態によって異なる必要栄養量、安全な栄養管理を施行するためのモニタリング、栄養管理に伴う合併症およびその対処法を理解することを目的とする。	1) 栄養の過不足による主な疾病についての知識を身に付けている。 2) 個々の患者に適した必要栄養量や輸液成分（電解質、栄養、エネルギーなど）についての知識を身に付けている。 3) 個々の症例に適した栄養管理についての知識を身に付けている。	○	◎	○	○		○	○	
15UPHM6505	国民衛生の最新動向	6	わが国の衛生を取り巻く社会状況は日々刻々と変化しており、それに伴う法改正も頻繁に行われている。本科目は、薬剤師として社会で活躍するために必要な最新の衛生指標および衛生行政の動きに関する基本的事項を修得することを目的とする。	1) 人口静態、人口動態、生命表、国民の健康状況などの最新の知識を身に付けている。 2) 生活習慣病や感染症などに対するわが国の行政についての最新の知識を身に付けている。 3) わが国の生活環境についての最新の知識を身に付けている。	○	◎	○		○	◎	○	
15UPHM2601	基礎薬理学 I	2	薬の効くプロセスを学習するうえで必要な薬物の作用発現にかかわる基本原則を理解することを目的とする。	作用部位に達した薬物の量と作用により薬効が決まることを理解するために、薬物の生体内における動きと作用に関する基本的知識を修得できることを最終目標とする。	○	◎	○			◎		
15UPHM2602	基礎薬理学 II	2	医薬品が作用するプロセスを分子レベルから生体レベルにわたって総合的に理解し、その知識を応用する力を養うことを目的とする。	薬物の作用機序を分子レベルおよび細胞・組織レベルで理解し、医薬品が生体にどのように作用するかということをも、末梢神経作用薬を教材にして総合的に理解することを目標とする。さらに薬物治療に応用できることを最終目標とする。	○	◎	○			◎		

15UPHM3603	臨床薬理学 I	3	科学的な根拠に基づき、様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得することを目的とする。	様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明できることを最終目標とする。	○	◎	○							◎			
15UPHM3604	臨床薬理学 II	3	科学的な根拠に基づき、様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得することを目的とする。	様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明できることを最終目標とする。	○	◎	○							◎			
15UPHM3605	臨床薬理学 III	3	科学的な根拠に基づき、様々な医薬品の適応とその根拠、使用方法を修得することを目的とする。	様々な医薬品について、多面的視点から薬理作用（主・副作用）を説明できることを最終目標とする。	○	◎	○							◎			
15UPHM4606	臨床薬理学 IV	4	解剖学、生理学、薬物の薬理作用を踏まえ、統合的な観点より様々な医薬品の適応を理解することを目的とする。	1) 最新の医薬品を学び、特徴について説明できる。 2) 様々な医薬品の効果について、俯瞰的・多面的視点からその薬理作用を分析できる。	○	◎	○							◎			
15UPHM6607	疾患からみた薬理学	6	疾患と薬剤との関係は多面的である。この科目では、より臨床に近い視点から、薬物とその薬理作用を点検し、薬物治療を成功に導くための病態分析と、薬効評価ができることを目的とする。	1) 病態の重症度、進行度を解析し、それらに応じて適切な治療薬を選択できる。 2) 薬理作用を踏まえた上で、治療効果や副作用を適切に評価できる。	○	◎	○							◎			
15UPHM3608	薬物動態学 I	3	吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。	薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらに応用する基本的技能を修得する。	○	◎		◎	○	○	○	○	○				
15UPHM3609	薬物動態学 II	3	薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。	薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらに応用する基本的技能を修得する。	○	◎		◎	○	○	○	○	○				
15UPHM3610	臨床統計学 I	3	薬物治療や医薬品開発において、疾患・薬効に関するデータや臨床試験データを適切に解析するために必要な統計学的な考え方ならびに、データの特徴に応じた解析方法を、実際の事例を通して理解することを目的とする。	薬物の治療や効果に関するデータを正確に解釈し、活用するのに必要な生物統計学の基礎的な知識と技能を修得する。		◎		◎	○	◎	○	○					
15UPHM4611	臨床統計学 II	4	医薬品の開発から薬物治療に至る各過程において、より有効で安全な治療や予防実現に向けたアプローチの考案・実行に必要な臨床試験の研究手法と統計解析法を理解する。	科学的根拠に基づく医療 (Evidence Based Medicine; EBM) の実践に対して生物統計学を活用するための基礎的な知識と技能を修得する。		◎		◎	○	◎	○	○					

15UPHM3612	物理薬剤学	3	製剤学の基礎である物理薬剤学の重点事項について修得するとともに、問題演習を通じて、理解を深めることを目的とする。	1) 物質の溶解に関する代表的な式について説明できる。 2) 分散系について、その安定性についての因子を列挙できる。 3) 製剤材料の物性について説明できる。			○	○										
15UPHM3613	製剤学	3	日本薬局方の意義と内容理解、各種剤形の基本的性質や特徴、基本的なDDS技術とその製剤を説明できることを目的とする。	医薬品に関する定義や定量法や試験法などが記載された医薬品に関する公定書である日本薬局方について、その役割や性質を学ぶことによって、その意義を理解する。更に、日本薬局方に収載されている各種剤形の基本的性質や特徴、製造方法および添加物を学び、基本的なDDS製剤についても学ぶ。			◎	○			○							
15UPHM3614	薬物代謝論	3	代謝および代謝における薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。	薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態、特に薬物代謝に関する基本的知識を修得し、それらに応用する基本的技能を修得する。			○	◎	◎	○	○	○	○	○				
15UPHM4615	薬物送達システム学	4	薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS に関する基本的事項を修得する。	製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、および薬物送達システムに関する基本的事項を修得する。			○	◎	◎	○	○	○	○	○				
15UPHM6616	臨床薬物動態学	6	患者の薬物療法を評価し、最適化のために必要な臨床薬物動態学の基礎知識、およびその応用方法を修得する。	薬物療法の効果を最大に発揮するために、薬物血中濃度から得られるデータをもとに個々の患者に対して最適な薬の投与設計を科学的に設定することを目的とする。			○	◎	◎	○	○	○	○	○				
15UPHM3617	病態・薬物治療学 I	3	病態薬物治療学の基本となる症状や検査値について全体像を理解する。呼吸器疾患・血液疾患について、その病態を正しく理解し、患者の状態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。	1) 基本的な症状や検査値について理解し、説明できる。 2) 呼吸器疾患について、その病態生理やガイドライン、基本的な薬物治療について説明できる。 3) 血液疾患について病態を把握し、治療薬を列挙できる。			◎	◎	○	◎	○							
15UPHM3618	病態・薬物治療学 II	3	循環器疾患および腎疾患について、その病態について正しく理解し、患者の状態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。	1) 循環器疾患および腎疾患について、その病態生理や代表的なバイタルサインについて説明できる。 2) 循環器疾患および腎疾患について、治療ガイドライン、基本的な薬物治療、治療薬の作用機序・特徴・使用上の注意などについて列挙できる。			◎	◎	○	◎	○							
15UPHM3619	病態・薬物治療学 III	3	消化器、内分泌および代謝系の疾患について、その病態について正しく理解し、患者の状態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。	1) 消化器、内分泌および代謝系の疾患について、その病態生理や代表的なバイタルサインについて説明できる。 2) 消化器、内分泌および代謝系の疾患について、治療ガイドライン、基本的な薬物治療、治療薬の作用機序・特徴・使用上の注意などについて列挙できる。			◎	◎	○	◎	○							
15UPHM3620	病態・薬物治療学 IV	3	精神疾患、神経・筋疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患、アレルギー・免疫疾患、生殖器疾患、骨・関節疾患、生殖系疾患について、その病態について正しく理解し、患者の状態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。	1) 精神疾患、神経・筋疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患、アレルギー・免疫疾患、生殖器疾患について、その病態生理や代表的なバイタルサインについて説明できる。 2) 精神疾患、神経・筋疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患、アレルギー・免疫疾患、生殖器疾患について、治療ガイドライン、基本的な薬物治療、治療薬の作用機序・特徴・使用上の注意などについて列挙できる。			◎	◎	○	◎	○							

15UPHM4621	病態・薬物治療学V	4	感染症、がんについて、その病態について正しく理解し、患者の状態に応じた適切な薬物療法を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。 漢方薬をもちいた薬物療法を実践するための基本的な知識を修得することを目的とする。	1) 感染症、がんについて、その病態生理や代表的なバイタルサインについて説明できる。 2) 感染症、がんについて、治療ガイドライン、基本的な薬物治療、治療薬の作用機序・特徴・使用上の注意などについて列挙できる。 3) 漢方薬を用いた代表的な処方、特徴、使用上の注意などについて列挙できる。	◎	◎	○	◎	○										
15UPHM4622	症例解析学	4	病態薬物治療 I～V で学習した各種疾患のうち、代表的な疾患について臨床症例を基に、症状・各種検査結果の解析を行い、病態の把握とそれに基づく薬物治療の知識を修得することを目的とする。	1) 臨床症例を基に解剖・生理学、薬理学、病態生理学、薬物治療学の統合科目として、疾患を把握した上で治療まで理解できる。2) 症例から逆に薬理・病態・薬物治療の全体像を把握できる。	◎	◎	○	◎	○										
15UPHM4623	医薬品情報学	4	医薬品に関する情報の全体像を把握し、医薬品の適正使用に必要な情報を理解することを目的とする。	薬物治療に必要な様々な情報を適切に収集、評価、加工、管理し、これを医療チームや患者に対して過不足なく的確に提供するために必要な基本的知識を習得する。	○	◎			○										
15UPHM4624	漢方治療学	4	漢方医学は、独特な理論と診療システムにより病気の診察、治療を行う。漢方医学の基礎理論を勉強すると、漢方処方（特に臨床常用及び薬剤師国家試験に良く設問される処方）の意義を深く理解し、臨床常見疾患に適切な治療および様々な複雑な病態に対して臨機応変ができる実践的な漢方医薬学の知識を習得し、漢方医薬に強い薬剤師を育つ。	1. 漢方医学基礎理論、特徴を理解する。 2. 漢方医学の診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。 3. 臨床常用漢方薬処方の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。 4. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	◎	◎	○	◎	○										
15UPHM5625	臨床化粧品学	5	皮膚や毛髪など外観に損傷や障害を負った人の社会復帰やQOL (quality of life: 生活の質) 向上のために、美容と医療が果たす役割について学ぶ科目である。医療現場や化粧品業界で実際に活躍している講師によって展開される多様な講義を介して、美容的ケアを多面的に理解するとともに、実践する力を身につけることを目的とする。	皮膚や毛髪など外観に損傷や障害を負った人の状況を理解するとともに寄り添う気持ちを養い、社会復帰やQOL (quality of life: 生活の質) 向上のため、美容と医療が果たす役割について理解することを基本的な目標とする。この上に立ってさらに、多様な美容的ケアを修得するとともに、その実践力を身につけることを最終目標とする。	◎					○	○								
15UPHM6626	実践治療学	6	実務実習で得た経験・成果を基盤に、臨床での処方提案力、チーム医療における薬学的な介入能力をさらに磨くため、より高度な臨床的な実践能力について修得することを目的とする。（本科目は薬学臨床実習を補完するものである。）	1) 症例を通じて、患者のバイタルサインや病状に対応して適切な薬学的介入の方法を提案できる。 2) 代表的疾患の治療ガイドライン等を踏まえ、根拠に基づき、複数の薬物療法の選択肢を提案できる。	○		○	◎	◎	○	○	○							
15UPHM4701	薬学臨床実習概論	4	実務実習に先立ち、大学内で、薬学臨床の基礎、処方箋に基づく調剤、薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉への参画について幅広い知識を修得することを目標とする。（本科目は、薬学臨床基本実習 I・II・III を補完するものである。）	1) 服薬説明、疑義照会、医薬品（内服薬・注射薬）の管理と取り扱い、輸液類、麻薬・向精神薬の管理について説明できる。 2) 計量調剤の計算、診療報酬費用の計算、輸液・電解質・カリウム計算、簡単な処方提案やレジメンチェックができる。	○	○	○	◎	◎	○									
15UPHM4702	処方解析学演習	4	各種疾病に対する代表的な処方を解析することにより医薬品の適切な使用方法や服薬指導時の留意点に関する基本的事項を学習することを目的とする。	各種疾病に対する処方の処方意図や医薬品の適切な使用方法、服薬指導時の留意点について根拠に基づいて討論し、説明できる。	○	◎	○	◎	◎		◎	◎							○
15UPHM4703	医薬品の適正使用 I	4	各種疾病に対する代表的な処方について、処方解析を通じて処方の意図を十分理解するとともに、服薬指導時の留意点や相互作用について学習することを目的とする。	薬物治療を有効に、安全に実施するための評価、考慮に必要な知識を習得する。	○	◎			○	○									

15UPHM5704	医薬品の適正使用Ⅱ	5	各種疾病に対する代表的処方箋について、処方箋解析を通じて処方箋の意図を十分理解するとともに、服薬指導時の留意点や相互作用について学習することを目的とする。	薬物治療を有効に、安全に実施するための評価、考慮に必要な知識を習得する。	○	◎	○	○											
15UPHM6705	一般用医薬品総論	6	一般用医薬品の適正使用に向けての薬局・薬剤師の役割、位置付けを理解していく。また、製造業において研究・開発に携わる場合も、一般用医薬品に関する事項を把握して、将来、役立つことを目標とする。	①一般用医薬品に関連する法令の内容を説明できる。 ②地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。 ③おもな一般用医薬品を列挙し、使用目的を説明できる。	○	◎	○	◎							○	○			
15UPHM4706	薬剤師の職能と業務	4	薬学臨床実習の事前学習として、チーム医療を含めた薬物療法全般における病院薬剤師業務を把握するとともに、薬局や地域における薬局薬剤師の使命や業務を理解することを目的とする。	病院や薬局、地域における薬剤師業務を理解するとともに、業務を行う上で必要な医療倫理について理解し、薬剤師としての資質を体得する。	○	○	○	○							○	○			
15UPHM4707	薬学臨床基本実習Ⅰ	4	実務実習に先立ち、大学内で、 薬学臨床の基礎、処方箋に基づく調剤、薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉への参画についての学習項目について、基本的な知識・技能・態度を習得することを目標とする。 (本科目は、薬学臨床基本実習Ⅱ・Ⅲを補完するものである。)	1)薬学臨床の基礎、処方箋に基づく調剤、服薬説明、患者対応、疑義照会、医薬品(麻薬・向精神薬を含む)や輸液等の管理と取り扱いについて、意義を理解し、一定以上のレベルで実践やシミュレーションができる。 2)薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論できる。	○	○	○	◎	◎	○	○	○							
15UPHM4708	薬学臨床基本実習Ⅱ	4	長期実務実習に先立ち、大学内で、 薬学臨床の基礎、処方箋に基づく調剤、薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉への参画についての学習項目について、基本的な知識・技能・態度を習得することを目標とする。 (本科目は、薬学臨床基本実習Ⅰ・Ⅲを補完するものである。)	1)薬学臨床の基礎、処方箋に基づく調剤、服薬説明、患者対応、疑義照会、医薬品(麻薬・向精神薬を含む)や輸液等の管理と取り扱いについて、意義を理解し、一定以上のレベルで実践やシミュレーションができる。 2)薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論できる。	○	○	○	◎	◎	○	○	○							
15UPHM4709	薬学臨床基本実習Ⅲ	4	コミュニケーション(初回面談及び服薬指導)、バイタルサインの理解、治療上患者に必要な手技の説明、症例検討による薬物治療の理解などについて基本的な知識・技能・態度を習得することを目的とする。(本科目は薬学臨床基本実習Ⅱ、Ⅲを補完するものである。)	1)患者対応、服薬指導について実践できる。2)バイタルサインの重要性を理解し、実際に行える手技を身に付ける。3)患者の治療に必要な様々な機器の使用法についてきちんと説明できる。4)症例を通じて薬物治療を理解することができる。	○	○	○	◎	◎	○	○	○							
15UPHM5710	薬学臨床実習	5	実務実習を通じて、薬学臨床の基礎を十分に学習し、処方箋に基づく調剤、代表的疾患の薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉へ参画など、幅広い薬剤業務を実践するために必要な知識・技能・態度を修得することを目標とする。	1)実務実習にふさわしい心構えを持ち、処方箋に基づく調剤・疑義照会、服薬指導、患者対応・教育、医薬品(麻薬・向精神、特性生物由来製品)の管理、抗悪性腫瘍薬や各種注射剤の調製ができる。2)患者状況にあわせた処方提案やチーム医療・地域(在宅)医療への積極的な貢献ができる。	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○						
15UPHM5711	薬学臨床演習	5	薬学臨床に必要なヒューマンズ、物理・分析系、化学系、生物系、衛生系、薬理・薬物治療系、薬剤系、情報系、社会薬学、事前実習の各領域の基礎的知識を修得することを目的とする。	病院や薬局での実務実習において、他の医療従事者と協力して患者の治療にあたるために必要な知識を十分に身に付けている。	○	◎	○	○						○					
15UPHM2801	有機化合物をつくる	2	化学実験の基本操作を修得する。すなわち、実験器具の名称、使用方法について学び、実験器具を正しく選択して装置を組み立てる。併せて、実験を通して実際に化学物質に触れ、化学的あるいは物理的性質を知り化学物質の正しい取り扱い方法を学ぶ。	課題となる有機反応に関して、有機化学の講義による知識と実験操作に関する知識を活用して実験計画を立て、自ら実験装置を組み立てて反応を実施する。得られた結果をまとめ、考察できるようにする。	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○						

15UPHM4811	卒業研究 I	4	将来、薬剤師として薬学・医療の進歩と改善に資するため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につけることを目的とする。	研究室に所属して、研究課題の見つけ方、研究方法、研究結果のプレゼンテーション法などを修得することを目標とする。	○	○	○	◎	◎	◎	○			
15UPHM5812	卒業研究 II	5	将来、薬剤師として薬学・医療の進歩と改善に資するため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につけることを目的とする。	薬学領域の知識・技能・態度を総合的により深く相互の有機的繋がりをもち理解することを目標とする。	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○	
15UPHM6813	卒業研究 III	6	将来、研究者として、科学的進歩や技術の開発に貢献するための基礎的能力や次世代を担う人材を育成するための意欲や態度を身につけることを目的とする。	1) 研究課題を通して、科学的根拠に基づいて問題を解決し、社会に公表できる能力を身に付けている。 2) 研究倫理を理解し、それを生涯にわたって高め続ける知識、技能、態度を身に付けている。	○	◎	◎		◎	○	◎	○	◎	
15UPHM4814	総合演習 I	4	共用試験分野のヒューマニズム、物理・分析系、化学系、生物系、衛生系、薬理・薬物治療系、薬剤系、情報系、社会薬学、事前実習の各領域の基礎的知識を、偏りなく、高い到達度で修得することを目的とする。	病院や薬局での実務実習において、他の医療従事者と協力して患者の治療にあたるために必要な知識を十分に身に付けている。	○	◎	○	○			○			
15UPHM6815	総合演習 II	6	薬剤師国家試験分野の物理・化学・生物・衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務の各領域の専門的知識を、偏りなく、高い到達度で修得することを目的とする。	卒業後、薬剤師として人々の健康や福祉に貢献するために必要な薬学の知識を十分に身に付けている。	○	◎	○	○			○			
15UPHM6816	総合演習 III	6	これまでに学習してきた薬学の専門科目の基本項目について、問題演習により知識の確認を行うことを目的とする。	薬剤師になるために必要な薬学の基本的な知識を身に付けている。				◎						
15UPHM5901	理系女性のキャリアパス設計論	5	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、および支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	①日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 ②ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 ③グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身に付ける。 ④将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。				○		○		○		
15UPHM5902	臨床医工情報学の知性感性教養 I	5	現代の科学技術を支える哲学（近代文明の基盤となっている考え方）に関する入門的講義を臨床医工学・情報学分野に関連付けながら提供し、それをもとに課題演習やグループ討論を適宜行い、当該分野に携わっていくための職業・研究倫理を身に付けることを目的とする。	①臨床医工学・情報学分野の基礎となる科学技術、生命科学、生物学、情報学の基本的枠組みを理解する。 ②発表討論会およびグループディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、当該分野に関する諸課題について深い洞察力や考察力を身に付ける。	○	○			○					
15UPHM5903	臨床医工情報学の知性感性教養 II	5	「臨床医工情報学の知性感性教養 I」の講義内容を前提にして、臨床医工学・情報学分野における倫理観・探究心を向上させ、複眼的で、実践的な思考態度を身に付けることを目的とする。	①医療や福祉領域の倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 ②先進的な医療技術の現状を理解し、臨床医工学・情報学領域の発展的分野について認識を深める。 ③発表討論会およびグループディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、当該分野に関する諸課題について深い洞察力や考察力を身に付ける。	◎	○			○					

15UPHM5904	地域活性化システム論	5	地域の活性化に必要な知識、構造、問題点を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目的とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。	①医療、福祉、教育、ICT（情報通信技術）など多分野からの地域活性化の実例を通して、地域活性化の方法論を理解する。 ②自分の住んでいる地域の問題に関心を持ち、地域を活性化させるために必要なものを具体的に考えることができる。 ③総合討論における講師・受講生とのディスカッションにおいて積極的に発言し、自らの考えを的確に述べるができる。	○	○															
15UPHM5905	健康環境論	5	地球はすべての生命の生存基盤であり、私たちはその大きな恵みに支えられて健康で文化的な生活を送っている。しかしながら、私たちは人類の活動によって公害や自然環境の破壊、地球温暖化等、様々な影響を地球に及ぼしている。これらの環境問題の認識を深め、私たちの健康との関わりについて学習する。	①環境問題や環境政策について認識を深めるとともに、自分の周囲に目を配り身近な環境問題に興味関心を持つ。 ②自然環境と人間の生活の調和から持続可能な社会を構築するために、自分にどのような行動（活動）ができるかを考えることができる。 ③グループディスカッションおよび発表討論会を通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の多様な考え方に触れ、健康と環境の関わりについて多面的に捉えることができる。	○	○															
15UPHM5906	プロフェッショナル教育Ⅰ	5	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色の強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身に付ける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。		○															
15UPHM5907	プロフェッショナル教育Ⅱ	6	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色の強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身に付ける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。		○															
15UPHM5908	多職種協働グループワーク実践論	6	医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を实践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工学情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッ	①学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 ②グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 ③異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身に付ける。	○	○															

薬剤師を目指す学びの流れ

前ページで説明した教育を実現するカリキュラムです。4年間で基本的知識と技能を固め、薬学共用試験でそれらを確認したら、5年生以後の実践的な学習に進みます。5年生に進むと、病院と薬局での実務実習に参加し、アドバンスト科目群で先端の専門知識を学びつつ、卒業研究に取り組みます。実務実習は5ヶ月間で、その間は卒業研究を中断しますから、卒業研究期間は実質1年間です。

これらの課程を修了して卒業すると、薬剤師国家試験の受験資格が与えられます。

	イントロダクション	物理系薬学	化学系薬学	生物系薬学	健康と環境	医療薬学	実習・演習科目	ヒューマニズム	情報科目 外国語
1年	薬学への招待、医療倫理、医療の担い手、初期演習など	薬学の基礎としての物理学、数学 化学平衡、物質の構造、物質の変化、溶液の性質など	薬学の基礎としての化学、有機化学の基礎、有機化合物の合成など 薬となる植物、自然が生み出す薬用資源、薬としての天然物、創薬化学入門など	薬学の基礎としての生物学、生命体の基本単位、細胞の仕組み、小さな生命体、生命活動を担うタンパク質、生体工ネルギーなど 遺伝情報を担う遺伝子、遺伝子操作、身体を守る免疫系、感染症など			薬剤師の活躍分野を見る	共通教育科目（薬剤師にとって大切な2年間に入身を身につける科目群です） 250科目以上ある科目群から選択できます。時間割上は5年生までに配置されますが、空き時間があれば、在学中はどの学年でも受講できます	基礎薬学英語、薬学ドイツ語、基礎情報など
2年		物質の状態、化学物質の検出と定量、分析技術の臨床応用、生体分子の化学など				ヒトの成り立ちと機能調節、生体の機能調節と情報伝達、薬の作用、薬の働き方など 薬物動態の解析、薬物の臓器への到達と消失、生物統計の臨床応用、製剤化のサイエンス、医薬品の開発など	有機化学系（有機化合物を作る、医薬品を作る、生薬・天然物医薬品を取り扱う） 物理・分析系（物質の特性を調べる、物質を解析する） 衛生薬学実習		
3年					栄養と健康、疾病予防と疫学、生活環境と健康、化学物質の生体への影響など		薬剤学実習 衛生薬学実習 プレファーマシー実習		
4年						疾病と薬物治療、薬剤師に関する法律、医薬品情報の活用など	病院・薬局に行く前に		
薬学共用試験（病院と薬局での実務実習に参加できる基礎能力を確認します）									
5年			化学系アドバンスト科目	生物系アドバンスト科目	衛生系アドバンスト科目	医療薬学アドバンスト科目群	実務実習		
6年							卒業研究		
総合演習									

薬剤師国家試験

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
Oral Communication I	1	○		○	○
Oral Communication II	1	○		○	○
基礎英語	2	○	○		○
英語 I	2	○	○		
英語 II	3	○	○		
英語 III	3	○	○		
発展英語 I	4	○	○		
発展英語 II	5	○	○		
TOEIC認定英語	※	—	—	—	—
基礎薬学英语演習	2	○	○	○	○
薬学英语演習	5	○	○	○	○
基礎薬学英语 I	1	○	○	○	○
基礎薬学英语 II	1	○	○		
基礎薬学英语 III	1	○	○		
基礎薬学英语 IV	2	○	○		○
薬学ドイツ語	2	○	○	○	○
薬学英语 I	2	○			
薬学英语 II	2	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

※ TOEIC認定英語…1～6年次において、学科が指定するTOEICの基準(500～)に到達すれば、基礎教育科目の単位として認定される(2単位)。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年4月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火	4月1日					
	水	4月2日					
	木	4月3日					
	金	4月4日					
第2週	月	4月7日	祝日				
	火	4月8日					
	水	4月9日					
	木	4月10日		\$101、\$102、\$107講義、 \$103、\$106、\$211SGD	\$101、\$102、\$107講義、 \$103、\$1066、\$211SGD	\$101、\$102、\$107講義、 \$103、\$1066、\$211SGD	
	金	4月11日					
第3週	月	4月14日		\$105、\$106講義、 \$103、\$1066、\$211SGD	\$105、\$106講義、 \$103、\$1066、\$211SGD	\$105、\$106講義、 \$103、\$1066、\$211SGD	
	火	4月15日		\$103、\$1066、\$211SGD	\$103、\$1066、\$211SGD	\$103、\$1066、\$211SGD	
	水	4月16日					
	木	4月17日		\$201講義、\$202～204講 義・演習、\$201実習	\$201講義、\$202～204講 義・演習、\$201実習	\$201講義、\$202～204講 義・演習、\$201実習	
	金	4月18日					
第4週	月	4月21日		\$409講義、\$411実習	\$210実習、\$211演習	\$301、\$303、\$305講義、 \$302実習、\$304、\$306演 習	
	火	4月22日		\$210実習、\$205～\$208講 義・演習	\$210実習、\$205～\$208講 義・演習	\$210実習、\$205～\$208講 義・演習	
	水	4月23日					
	木	4月24日	丹嶺学苑研修				
	金	4月25日					
第5週	月	4月28日		\$412、\$413実習	\$412、\$413実習	\$412、\$413実習	
	火	4月29日		\$601、\$602、\$604講義 \$603、\$605、\$606演習	\$601、\$602、\$604講義 \$603、\$605、\$606演習	\$601、\$602、\$604講義 \$603、\$605、\$606演習	
	水	4月30日					
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年5月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木	5月1日			\$304、\$306演習、 \$701実習	\$304、\$306演習、 \$701実習	\$304、\$306演習、 \$701実習
	金	5月2日					
第2週	月	5月5日	祝日				
	火	5月6日	振替休日				
	水	5月7日					
	木	5月8日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	金	5月9日					
第3週	月	5月12日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	火	5月13日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	水	5月14日					
	木	5月15日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	金	5月16日					
第4週	月	5月19日			\$412、\$413、\$701実習	\$412、\$413、\$701実習	\$412、\$413、\$701実習
	火	5月20日			\$411実習	\$411実習	\$411実習
	水	5月21日					
	木	5月22日			\$411実習	\$411実習	\$411実習
	金	5月23日					
第5週	月	5月26日			\$401～\$403講義、 \$701実習	\$401～\$403講義、 \$701実習	\$401～\$403講義、 \$701実習
	火	5月27日			\$201講義、\$202～204講 義・演習、\$201実習	\$201講義、\$202～204講 義・演習、\$201実習	\$201講義、\$202～204講 義・演習、\$201実習
	水	5月28日					
	木	5月29日			\$409講義、\$411実習	\$210実習、\$211演習	\$301、\$303、\$305講義、 \$302実習、\$304、\$306演 習
	金	5月30日					

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	6月2日			\$210実習、\$205～\$208講義・演習	\$210実習、\$205～\$208講義・演習	\$210実習、\$205～\$208講義・演習
	火	6月3日			\$412、\$413実習	\$412、\$413実習	\$412、\$413実習
	水	6月4日					
	木	6月5日			\$601、\$602、\$604講義 \$603、\$605、\$606演習	\$601、\$602、\$604講義 \$603、\$605、\$606演習	\$601、\$602、\$604講義 \$603、\$605、\$606演習
	金	6月6日					
第2週	月	6月9日			\$304、\$306演習、 \$701実習	\$304、\$306演習、 \$701実習	\$304、\$306演習、 \$701実習
	火	6月10日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	水	6月11日					
	木	6月12日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	金	6月13日					
第3週	月	6月16日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	火	6月17日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
	水	6月18日					
	木	6月19日			\$412、\$413、\$701実習	\$412、\$413、\$701実習	\$412、\$413、\$701実習
	金	6月20日					
第4週	月	6月23日			\$411実習	\$411実習	\$411実習
	火	6月24日					
	水	6月25日					
	木	6月26日			\$411実習	\$411実習	\$411実習
	金	6月27日					
第5週	月	6月30日			\$401～\$403講義、 \$701実習	\$401～\$403講義、 \$701実習	\$401～\$403講義、 \$701実習
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年7月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火	7月1日			S701実習	S701実習	S701実習
	水	7月2日					
	木	7月3日					
	金	7月4日					
第2週	月	7月7日			S701実習	S701実習	S701実習
	火	7月8日					
	水	7月9日					
	木	7月10日					
	金	7月11日					
第3週	月	7月14日					
	火	7月15日					
	水	7月16日					
	木	7月17日					
	金	7月18日					
第4週	月	7月21日					
	火	7月22日					
	水	7月23日					
	木	7月24日					
	金	7月25日					
第5週	月	7月28日					
	火	7月29日					
	水	7月30日					
	木	7月31日					
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年9月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	9月1日					
	火	9月2日					
	水	9月3日					
	木	9月4日					
	金	9月5日					
第2週	月	9月8日					
	火	9月9日					
	水	9月10日					
	木	9月11日					
	金	9月12日					
第3週	月	9月15日					
	火	9月16日					
	水	9月17日					
	木	9月18日			\$101講義 \$102講義	\$103講義	\$414講義
	金	9月19日					
第4週	月	9月22日			\$411演習 \$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習	\$411演習	\$411演習
	火	9月23日			コアカリ以外の実習 (TDM解析) \$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習		
	水	9月24日					
	木	9月25日			\$305、\$306演習 \$101講義、\$102講義、\$104講義、\$105講義、\$106演習	\$305、\$306演習	\$305、\$306演習
	金	9月26日					
第5週	月	9月29日			\$210実習 \$601講義、\$602講義、\$603演習、\$604講義、\$605講義・演習、\$606演習	\$210実習	\$210実習
	火	9月30日			\$411実習 \$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習	\$411実習	\$411実習
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年10月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月							
	火							
	水	10月1日						
	木	10月2日			\$501～\$504講義、 \$505～\$507SGD \$601講義、\$602講義、\$603演習、\$604講義、\$605講義・演習、\$606演習	\$501～\$504講義、 \$505～\$507SGD	\$501～\$504講義、 \$505～\$507SGD	
	金	10月3日						
第2週	月	10月6日			\$210実習	\$210実習	\$210実習	
	火	10月7日			コアカリ以外の実習 (遺伝子解析)		\$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習	
	水	10月8日						
	木	10月9日			\$210、\$306実習	\$210、\$306実習	\$210、\$306実習	
	金	10月10日			\$601講義、\$602講義、\$603演習、\$604講義、\$605講義・演習、\$606演習			
第3週	月	10月13日	祝日					
	火	10月14日			\$606実習	\$606実習	\$606実習	
	水	10月15日			\$101講義、\$102講義、\$104講義、\$105講義、\$106演習			
	木	10月16日	曜日振替授業日 (土曜日の授業を実施)					
	金	10月17日						
第4週	月	10月20日			\$505～\$507SGD \$601講義、\$602講義、\$603演習、\$604講義、\$605講義・演習、\$606演習	\$505～\$507SGD	\$505～\$507SGD	
	火	10月21日			\$701実習	\$701実習	\$701実習	
	水	10月22日						
	木	10月23日			\$411演習	\$411演習	\$411演習	
	金	10月24日			\$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習			
第5週	月	10月27日			コアカリ以外の実習 (TDM解析)		\$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習	
	火	10月28日			\$305、\$306演習	\$305、\$306演習	\$305、\$306演習	
	水	10月29日			\$101講義、\$102講義、\$104講義、\$105講義、\$106演習			
	木	10月30日			\$210実習	\$210実習	\$210実習	
	金	10月31日			\$601講義、\$602講義、\$603演習、\$604講義、\$605講義・演習、\$606演習			

- [注]
- 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年11月							
(週)	(曜日)	(日)	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月	11月3日			\$411実習	\$411実習	\$411実習
					\$601講義、\$602講義、\$603演習、\$604講義、\$605講義・演習、\$606演習		
	火	11月4日			\$501～\$504講義、 \$505～\$507SGD	\$501～\$504講義、 \$505～\$507SGD	\$501～\$504講義、 \$505～\$507SGD
					\$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習		
	水	11月5日					
第3週	月	11月10日			コアカリ以外の実習（遺伝子解析）		
					\$601講義、\$602講義、\$603演習、\$604講義、\$605講義・演習、\$606演習		
	火	11月11日			\$210、\$306実習	\$210、\$306実習	\$210、\$306実習
					\$101講義、\$102講義、\$104講義、\$105講義、\$106演習		
	水	11月12日					
第4週	月	11月17日			\$505～\$507SGD	\$505～\$507SGD	\$505～\$507SGD
					\$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習		
	火	11月18日			\$701実習	\$701実習	\$701実習
					\$205講義、\$208講義・演習、\$209講義、\$301講義、\$303講義、 \$305講義、\$306実習・演習、\$504講義、\$505演習		
	水	11月19日					
第5週	月	11月24日			\$701演習	\$701演習	\$701演習
					\$701実習		
	火	11月25日			\$701演習	\$701演習	\$701演習
					\$701実習		
	水	11月26日					
第5週	木	11月27日					
	金	11月28日					

- [注]
- 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年12月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	12月1日					
	火	12月2日					
	水	12月3日					
	木	12月4日					
	金	12月5日					
第2週	月	12月8日					
	火	12月9日					
	水	12月10日					
	木	12月11日					
	金	12月12日					
第3週	月	12月15日					
	火	12月16日					
	水	12月17日					
	木	12月18日					
	金	12月19日					
第4週	月	12月22日					
	火	12月23日					
	水	12月24日					
	木	12月25日					
	金	12月26日					
第5週	月	12月29日					
	火	12月30日					
	水	12月31日					
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年1月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木	1月1日					
	金	1月2日					
第2週	月	1月5日					
	火	1月6日					
	水	1月7日					
	木	1月8日					
	金	1月9日					
第3週	月	1月12日					
	火	1月13日					
	水	1月14日					
	木	1月15日					
	金	1月16日					
第4週	月	1月19日					
	火	1月20日					
	水	1月21日					
	木	1月22日					
	金	1月23日					
第5週	月	1月26日					
	火	1月27日					
	水	1月28日					
	木	1月29日					
	金	1月30日					

[注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)

3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年2月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月	2月2日					
	火	2月3日					
	水	2月4日					
	木	2月5日					
	金	2月6日					
第3週	月	2月9日					
	火	2月10日					
	水	2月11日					
	木	2月12日					
	金	2月13日					
第4週	月	2月16日					
	火	2月17日					
	水	2月18日					
	木	2月19日					
	金	2月20日					
第5週	月	2月23日					
	火	2月24日					
	水	2月25日					
	木	2月26日					
	金	2月27日					

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年3月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	3月2日					
	火	3月3日					
	水	3月4日					
	木	3月5日					
	金	3月6日					
第2週	月	3月9日					
	火	3月10日					
	水	3月11日					
	木	3月12日					
	金	3月13日					
第3週	月	3月16日					
	火	3月17日					
	水	3月18日					
	木	3月19日					
	金	3月20日					
第4週	月	3月23日					
	火	3月24日					
	水	3月25日					
	木	3月26日					
	金	3月27日					
第5週	月	3月30日					
	火	3月31日					
	水						
	木						
	金						

[注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)

3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料7) 学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	入試(27年度実施)	
薬 学 科	一般入試	受験者数		293	492	767	1,149	1,056	1,002	107.9%
		合格者数		193	193	185	220	244	313	
		入学者数(A)		81	74	79	90	92	102	
		募集定員数(B)		75	80	80	80	80	85	
		A/B*100(%)		108.0%	92.5%	98.8%	112.5%	115.0%	120.0%	
	大学入試センター入試	受験者数		72	114	140	143	135	50	22.7%
		合格者数		36	71	47	63	55	18	
		入学者数(A)		0	5	2	6	1	1	
		募集定員数(B)		10	10	12	12	12	10	
	附属校推薦	受験者数		50	43	51	45	43	36	/
		合格者数		50	43	51	45	43	36	
		入学者数(A)		50	43	51	45	43	36	
		募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
	指定校推薦	受験者数		25	21	28	35	38	36	/
		合格者数		25	21	28	35	38	36	
		入学者数(A)		25	21	28	35	38	36	
		募集定員数(B)		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
	公募推薦入試	受験者数		410	550	630	990	777	618	79.5%
		合格者数		240	265	213	166	124	136	
		入学者数(A)		69	82	72	43	32	36	
募集定員数(B)			70	70	70	70	70	70		
学 科 計	受験者数		850	1,220	1,616	2,362	2,049	1,742	104.6%	
	合格者数		544	593	524	529	504	539		
	入学者数(A)		225	225	232	219	206	211		
	募集定員数(B)		210	210	210	210	210	210		
		A/B*100(%)		107.1%	107.1%	110.5%	104.3%	98.1%	100.5%	

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	31名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	6名

* 1 大学設置基準 第二条別表第一、イ備考4

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						
語学教育						
薬学基礎教育						
専門薬学教育	16(1)	10(4)	9(1)	9	11	助手補4
実務実習教育	4(1)	5(4)	3(1)	2		実務実習教育担当として計上している教員数は専門薬学教育に含む(内数)
小計	16(1)	10(4)	9(1)	9	11	
専任教員数	44 (6)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連			1	19(11)	6(6)	医務室2 動物センター2 薬草園1 学生相談センター1(週2日2名体制)
法人業務関連						
小計			1	19(11)	6(6)	
事務職員数	26 (17)					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示:6(2)=6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示:3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	8 (3)	6	2	0	0	16 (3)
	0%	72.7% (50%)	50%	28.6%	0%	0%	100%
准教授	0	2 (2)	3 (1)	4 (2)	1 (1)	0	10 (6)
	0%	18.2% (33.3%)	25% (25%)	57.1% (100%)	7.7% (12.5%)	0%	100%
専任講師	0	1 (1)	0	1	6 (3)	1 (1)	9 (5)
	0%	9.1% (16.7%)	0%	14.3%	46.2% (37.5%)	100% (100%)	100%
助教	0	0	3 (3)	0	6 (4)	0	9 (7)
	0%	0%	25% (75%)	0%	46.2% (50%)	0%	100%
合計	0	11 (6)	12 (4)	7 (2)	13 (8)	1 (1)	44 (21)
	0%	100% (100%)	100% (100%)	100% (100%)	100% (100%)	100% (100%)	100%
定年年齢	66歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。(例示：2 (1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	生薬学	教授	いしぐる きょうこ 石黒 京子	女	65	1975.4.1	2006.4.1	自然が生み出す薬用資源	1.6						1.6	0.0	18.5	武庫川女子大学大学院 薬学研究科修士課程修了	
								薬としての天然物	3.0							3.0			0.0
								総合演習 I		0.1						0.1			0.0
								総合演習 II		0.2						0.2			0.0
								天然物化学実験			2.3					2.3			0.0
								生薬・天然物医薬品を扱う			9.0					9.0			0.0
								薬学基礎実験			2.3					2.3			0.0
計			4.6	0.0	0.3	0.0	11.3	0.0	16.2	2.3									
薬学科	臨床製剤学	教授	うちだ たかひろ 内田 享弘	男	57	1996.4.1	2002.4.1	製剤化のサイエンス I	3.0						3.0	0.0	九州大学大学院 薬学研究科 修士課程修了		
								製剤化のサイエンス III	1.4						1.4	0.0			
								臨床薬物動態解析	0.2						0.2	0.0			
								疾病と薬物治療 II		3.0					0.0	3.0			
								病院・薬局へ行く前に	0.6						0.6	0.0			
								総合演習 I			0.2				0.0	0.2			
								総合演習 II			0.3				0.0	0.3			
								プレファーマシー実習 I			8.4				8.4	0.0			
								健康生命科学概論	0.1						0.1	0.0			
								物理薬剤学・製剤学 I	1.5						1.5	0.0			
計			6.8	3.0	0.0	0.5	8.4	0.0	15.2	3.5									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号								
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計											
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
								計	計	計	計	計	計	計	計	計	計										
薬学科	臨床薬学	教授	おかむらのぼる 岡村 昇	男	49	2007.4.1	2007.4.1	医薬品の開発 I	3.0					3.0	0.0	16.5	京都大学大学院 薬学研究科 博士課程修了 博士(薬学)										
								医薬品開発の実際と製剤化	0.8					0.0	0.8												
								臨床薬物動態解析	0.3					0.3	0.0												
								疾病と薬物治療VI	1.6				1.6	0.0													
								疾病と化学療法	3.0		0.4		0.0	3.0													
								総合演習 I		0.1			0.0	0.4													
								総合演習 II			0.1			0.0	0.1												
								プレファーマシー実習 II	0.1			7.2		0.0	7.2												
								健康生命科学論	0.1					0.0	0.1												
								計	5.0	3.8	0.0	0.5	0.0	7.2	5.0			11.5									
薬学科	臨床薬学 教育センター	教授	かたおか かずさぶろう 片岡 和三郎	男	62	2008.4.1	2008.4.1	薬の作用と実際	0.1					0.1	0.0	19.4	神戸学院大学大学院 薬学研究科修士課程修了 博士(薬学) (静岡県立大学)										
								医薬品情報の活用	1.6					1.6	0.0												
								病院・薬局へ行く前に	0.4					0.4	0.0												
								処方箋の理解と薬剤師 I		1.5				0.0	1.5												
								総合演習 I			0.2			0.0	0.2												
								プレファーマシー実習 I				8.4		8.4	0.0												
								プレファーマシー実習 II						0.0	0.0												
								計	2.1	1.5	0.0	0.2	8.4	7.2	10.5			8.9									
								薬学科	薬化学 I	教授	かわさき いくお 川崎 郁勇	男	49	2007.4.1	2013.4.1			スペクトル構造解析法	3.0					0.0	3.0	22.1	京都薬科大学大学院 薬学研究科修士課程修了 博士(薬学) (京都薬科大学)
																		医薬品の合成	3.0					3.0	0.0		
総合演習 I						0.2	0.0																				
総合演習 II			0.1			0.2	0.1																				
医薬品をつくる				9.0		0.0	9.0																				
基礎化学	2.2					2.2	0.0																				
薬学基礎演習 I						0.6	0.0																				
天然医薬品化学	1.5					0.0	1.5																				
応用有機化学実験				2.3			2.3																				
計	5.2	4.5	1.0	0.1	0.0	11.3	6.2									15.9											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号				
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計								
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
薬学科	東洋医薬学	教授	こう めい 高明	男	54	2006.4.1	2006.4.1	自然が生み出す薬用資源	1.4						1.4	0.0	19.6	京都大学大学院 人間環境学研究所 博士課程修了 博士(人間環境学)					
								疾病と漢方処方	1.5						0.0	1.5							
								生薬・天然物医薬品を取扱う															
								健康生命薬科学論	0.1														
								統合医療概論	0.3														
								天然物化学実験															
								早期体験学習Ⅱ															
								薬学基礎実験															
								東洋美容学	1.5														
								計	3.3	1.5	0.0	0.0	11.3	3.5	14.6	5.0							
薬学科	薬剤学	教授	たかはし こういち 高橋 幸一	男	62	1985.4.1	1999.4.1	薬物の臓器への到達と消失							0.0	2.6	21.8	広島大学大学院 医学系研究科 博士後期課程修了 薬学博士					
								薬物動態の解析	2.6										2.6	0.0			
								製剤化のサイエンスⅢ	1.6											1.6	0.0		
								臨床薬物動態解析	0.2											0.2	0.0		
								総合演習Ⅰ			0.3									0.0	0.3		
								総合演習Ⅱ			0.1									0.0	0.1		
								薬物を動剤化し体内動態を調べる														9.0	9.0
								健康生命薬科学概論	0.1												0.1	0.0	
								薬物動態学Ⅰ													0.0	1.5	
								薬物動態学Ⅱ	1.5												1.5	0.0	
薬剤学・製剤学実験											2.3	0.0	2.3										
計	6.0	4.1	0.0	0.4	0.0	11.3	6.0	15.8															

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	免疫生物学	教授	たかはし さとる	男	52	2010.4.1	2010.4.1	身体をまもる免疫系	3.0						0.0	3.0	京都大学大学院 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士		
								細胞の仕組み	1.6							1.6		0.0	
								生体防御機構	1.5							1.5		0.0	
								総合演習Ⅰ		0.2					0.2	0.0			
								総合演習Ⅱ		0.2	0.1				0.2	0.1			
								生体成分と免疫を調べる				9.0			9.0	0.0			
								健康生命科学概論	0.1						0.1	0.0			
								免疫学概論	1.5						1.5	0.0			
								生化学実験Ⅰ				2.3			2.3	0.0			
								健康生命科学実験				2.3			2.3	0.0			
計					4.7	3.0	0.4	0.1	11.3	2.3	16.4	5.4							
薬学科	生化学Ⅰ	教授	なかばやし としかつ	男	64	1985.4.1	1997.4.1	生体エネルギー	3.0						3.0	0.0	名古屋市立大学大学院 薬学研究科 博士課程満期退学 薬学博士(名古屋市立大学)		
								小さな生命体	1.6						1.6	0.0			
								総合演習Ⅰ		0.2					0.2	0.0			
								総合演習Ⅱ		0.2					0.2	0.0			
								生体成分と免疫を調べる				9.0			9.0	0.0			
								創薬科学の最前線	0.1						0.1	0.0			
								基礎生物	1.0						1.0	0.0			
								生化学	1.6						1.6	0.0			
								健康生命科学概論	0.1			2.3			2.3	0.0			
								生化学実験Ⅰ				2.3			2.3	0.0			
健康生命科学実験				2.3			2.3	0.0											
計					4.2	3.2	0.4	0.0	11.3	2.3	15.9	5.5							

所属学科	所属講座等	職名	氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号					
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計										
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
薬学科	薬理学I	教授	なかもら かずき 中村 一基	男	55	1997.4.1	2009.4.1	薬の効き方I	3.0						0.0	3.0	静岡薬科大学大学院 薬学研究所 博士課程修了 薬学博士									
								薬の効き方II	3.0							0.0		3.0								
								体の仕組みの実際	0.3							0.3		0.0								
								薬の作用の実際	0.1							0.1		0.0								
								総合演習I		0.2	0.2					0.2		0.2								
								総合演習II		0.1						0.0		0.1								
								薬の働きを調べる								0.0		0.1								
								健康生命薬科学概論	0.1							0.1		0.0								
								腫瘍生物学	0.8							0.8		0.0								
								薬理学実験			2.3					0.0		2.3								
								計	4.3	3.0	0.2	0.3	0.0	0.0	11.3	4.5		14.6								
								薬学科	衛生化学	教授	にしかわ じゅんいち 西川 淳一	男	56	2007.4.1	2007.4.1	疾病予防と疫学		3.0						0.0	3.0	大阪大学大学院 薬学研究所 博士課程修了 薬学博士
																化学物質の生体への影響		1.0							1.0	
総合演習I			0.4													0.0	0.4									
総合演習II			0.2													0.2	0.0									
健康と環境への影響を調べる						9.0	0.0									0.0	9.0									
健康生命薬科学概論	0.1															0.1	0.0									
栄養と予防薬学	0.5															0.5	0.0									
環境と予防薬学		0.8														0.0	0.8									
予防薬学実験																0.0	2.3									
実践化粧品学	0.1															0.1	0.0									
計	1.7	3.8	0.2	0.4	0.0	0.0	11.3									1.9	15.5									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計					
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
薬学科	薬化学 I	教授	にしで きよはる 西出 喜代治	男	61	2008. 4. 1	2008. 4. 1	有機化合物の合成	3.0						3.0	0.0	京都大学大学院 薬学研究科 博士課程修了 薬学博士			
								創薬科学入門	3.0							0.0		3.0		
								創薬科学の概論	3.0									0.0	3.0	
								総合演習 I		0.3								0.3	0.0	
								総合演習 II		0.2				9.0				0.2	0.0	
								医薬品をつくる										0.0	9.0	
								有機化学 I	3.0									3.0	0.0	
								薬学基礎演習 I	0.6									0.6	0.0	
								健康生命薬科学概論	0.1									0.1	0.0	
								応用有機化学実験		1.5									2.3	2.3
										0.0	1.5									
								6.7	7.5	0.5	0.0	0.0	11.3	7.2	18.8					
薬学科	薬品分析学	教授	まつなが ひさみ 松永 久美	女	63	1975. 4. 1	2015. 4. 1	化学物質の検出と定量 I	1.6						1.6	0.0	武庫川女子大学 薬学部卒業 理学博士 (九州大学)			
								化学物質の検出と定量 II		1.4								0.0	1.4	
								総合演習 I			0.2							0.2	0.0	
								総合演習 II			0.2							0.2	0.0	
								物質を解析する					9.0					9.0	0.0	
								基礎化学	0.8									0.8	0.0	
								薬学基礎演習 I											2.3	2.3
								分析化学実験										2.3	0.0	
								薬学基礎実験											0.0	2.3
								薬学化学 I	1.2									1.2	0.0	
応用分析化学	0.7								0.7	0.0										
								4.3	1.4	0.8	0.0	11.3	2.3	16.4	3.7					

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								毎週授業時間数													
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計					
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
薬学科	病態生理学	教授	みき ともひろ 三木 知博	男	63	2004.4.1	2004.4.1	疾病と薬物治療Ⅰ	2.6					0.0	2.6	島根医科大学大学院 医学研究科 博士課程満期退学 医学博士(島根医科大学)					
								病院・薬局へ行く前に	0.4					0.4	0.0						
								総合演習Ⅰ		0.4					0.4		0.0				
								プレファーマシー実習Ⅲ													
								健康生命科学概論	0.1												
								生命倫理学	0.5												
								臨床検査論	1.0												
								計	1.0	3.6	0.0	0.4	0.0	8.4	1.0		12.4				
								初期演習			1.5	1.5					1.5				
								ヒトの成り立ちと機能調節	1.6								1.6				
薬の効き方Ⅲ		3.0						3.0													
体の仕組みの実際	0.3							0.3													
薬の作用の実際	0.2							0.2													
総合演習Ⅰ			0.2	0.2				0.2													
総合演習Ⅱ			0.2	0.2				0.2													
体の成り立ちと働きを調べる						9.0		9.0													
解剖学			1.6					1.6													
薬学基礎演習Ⅱ																					
早期体験学習Ⅱ						0.6		0.6													
病態疾病学																					
腫瘍生物学																					
統合医療概論																					
解剖生理学実験							2.3	2.3													
健康生命科学実験																					
薬学基礎実験																					
基礎解剖生理学							0.8	0.8													
計			5.2	5.4	1.9	2.1	11.3	9.4	18.4	16.9											
薬学科	臨床病態解析学	教授	森山 賢治	男	53	2007.4.1	2007.4.1								35.3						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号												
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計																		
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
									後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																		
薬学科	病態生理学	准教授	おくだ ひろと 奥田 浩人	男	51	2009. 4. 1	2009. 4. 1	薬の作用の実際	0.4					0.4	0.0											兵庫医科大学大学院 医学研究科 博士課程修了 博士 (医学)							
								疾病と薬物治療Ⅲ	3.0					3.0																			
								疾病と薬物治療Ⅴ		3.0																							
								総合演習Ⅰ			0.2																						
								総合演習Ⅱ			0.1																						
								プレファーマシー実習Ⅲ																									
								皮膚科学	1.5																								
								臨床化粧品学		0.3																							
								計	4.9	3.3	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	8.4						4.9	12.0										
								薬学科	薬理学Ⅱ	准教授	かごた さとみ 籠田 智美	女	49	1990. 4. 1	2012. 4. 1	ヒトの成り立ちと機能調節	1.4					1.4	0.0										
生体の機能調節と情報伝達		3.0																															
総合演習Ⅰ			0.3																														
総合演習Ⅱ			0.3																														
体の成り立ちと働きを調べる																			9.0														
解剖学			1.4																														
薬学基礎演習Ⅱ																				0.6													
機能生理学	1.5																																
解剖生理学実験																																	
健康生命科学実験																																	
薬学基礎実験																																	
基礎解剖生理学																																	
計	2.9	5.1	0.6	0.6	11.3	4.6							14.8	10.3																			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
薬学科	臨床薬学教育センター	准教授	とよはら ともこ 豊原 朋子	女	60	2009.4.1	2009.4.1	薬の作用の実際	0.2						0.2	0.0	12.5	神戸薬科大学大学院 薬学研究科 修士課程修了 修士(薬学)			
								疾病と薬物治療VI	3.0							0.0			3.0		
								病院・薬局へ行く前に	0.4										0.4	0.0	
								総合演習I			0.2								0.0	0.2	
								プレファーマシー実習II					7.2						0.0	7.2	
								薬物治療学	1.5										0.0	1.5	
計	0.6	4.5	0.0	0.2	0.0	7.2	0.6	0.6	11.9												
薬学科	薬剤学	准教授	なかせ ともか 中瀬 朋夏	女	38	2007.4.1	2015.4.1	初期演習			1.5	1.5			1.5	1.5	24.6	大阪大学大学院 薬学研究科 博士課程修了 博士(臨床薬学)			
								薬物の臓器への到達と消失		0.4						0.0			0.4		
								薬物動態の解析	0.4							0.4			0.0		
								生物統計の基礎と臨床応用I	3.0							3.0			0.0		
								生物統計の基礎と臨床応用II								0.0			3.0		
								臨床薬物動態解析	0.3							0.3			0.0		
								総合演習I			0.2					0.0			0.2		
								薬物を動物化し体内動態を調べる					9.0			9.0			0.0		
								応用統計学	1.5							0.0			1.5		
								薬剤学・製剤学実験					2.3			2.3			0.0		
基礎統計学	1.5							1.5	0.0												
計	5.2	4.9	1.5	1.7	11.3	0.0	18.0	18.0	6.6												

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	衛生化学	准教授	やました たく 山下 沢	男	42	2014.4.1	2014.4.1	初期演習	1.5	1.5	1.5	1.5			1.5	1.5	熊本大学大学院 薬学研究科 博士課程修了 博士(薬学)			
								化学物質の生体への影響	2.0										2.0	0.0
								生活環境と健康	3.0										0.0	3.0
								産業における安全衛生薬学	0.1		0.3								0.1	0.0
								総合演習 I											0.0	0.3
								総合演習 II			0.1								0.1	0.0
								健康と環境への影響を調べる											0.0	9.0
								基礎数学・物理	1.0										1.0	0.0
								薬学基礎演習 I			0.4								0.4	0.0
								環境と予防薬学	0.7										0.0	0.7
								予防薬学実験											2.3	0.0
計	3.1	3.7	2.0	1.8	0.0	11.3	5.1	16.8												
薬学科	山本研究室	准教授	やまもと いづみ 山本 いづみ	女	58	2005.4.1	2005.4.1	溶液の性質	1.4						0.0	1.4	京都大学大学院 薬学研究科 修士課程修了 博士(薬学) (京都大学)			
								生体の状態	1.4							0.0		1.4		
								臨床薬物動態解析	0.1							0.1		0.0		
								薬剤師に関する法律と制度	3.0							3.0		0.0		
								総合演習 I			0.3	0.2				0.3		0.2		
								総合演習 II			0.2	0.1				0.2		0.1		
								物質の特性を調べる								0.0		9.0		
								物理化学 I	3.0						0.0	3.0				
								薬学基礎演習 II			1.3					0.0		1.3		
								薬学関係法規	1.5							1.5		0.0		
								物理化学実験								2.3		0.0		
基礎物理化学	1.5							0.0	2.3											
計	4.6	7.3	0.5	1.6	0.0	11.3	5.1	20.2												

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
薬学科	衛生化学	講師	おかだ やすよ 岡田 安代	女	62	1978.4.1	2015.4.1	栄養と健康	2.2						2.2	0.0	17.7	武庫川女子大学大学院 薬学研究所 修士課程修了	
								総合演習 I			0.2				0.0	0.2			
								健康と環境への影響を調べる											
								初期演習		1.5	1.5			9.0	1.5	1.5			
								栄養と予防薬学	1.0					1.0	0.0	0.0			
	予防薬学実験							2.3	0.0	2.3									
	計							3.2	0.0	1.5	1.7	0.0	11.3	4.7	13.0				
薬学科	臨床薬学	講師	やまもり もとひろ 山森 元博	男	36	2010.4.1	2010.4.1	薬の作用の実際	0.1						0.1	0.0	13.5	神戸薬科大学大学院 薬学研究所 修士課程修了	
								臨床薬物動態解析	0.1						0.1	0.0			
								疾病と薬物治療VI	1.4						1.4	0.0			
								病院・薬局へ行く前に	0.4						0.4	0.0			
								コミュニケーション論		1.4					0.0	1.4			
								処方箋の理解と薬剤師II		1.5					0.0	1.5			
								総合演習 I			0.1				0.0	0.1			
								総合演習 II			0.1				0.0	0.1			
								プレファーマシー実習 I			8.4				8.4	0.0			
								計	2.0	2.9	0.0	0.2	8.4	0.0	10.4	3.1			
薬学科	薬理学 I	講師	よしかわ のりこ 吉川 紀子	女	37	2012.4.1	2012.4.1	薬の作用 I	0.6						0.0	3.0	17.1	武庫川女子大学大学院 薬学研究所 修士課程修了	
								体の仕組みの実際							0.6	0.0			
								総合演習 I			0.1	0.3			0.1	0.3			
								総合演習 II			0.1				0.1	0.0			
								薬の働きを調べる							0.0	9.0			
								基礎薬理学	1.5						1.5	0.0			
								脳神経科学	0.2						0.2	0.0			
								薬理学実験							2.3	0.0			
計	2.3	3.0	0.0	0.3	0.0	0.0	11.3	2.5	14.6										

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号							
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計													
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
									後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	後期	前期											
薬学科	臨床製剤学	講師	よしだ みやこ 吉田 都	女	38	2008. 4. 1	2008. 4. 1	製剤化のサイエンスⅡ		3.0							0.0	3.0	九州大学大学院 薬学府修士課程修了 博士(薬学)(九州大学)									
								医薬品開発の実際と製剤化		0.7												0.0	0.7					
								総合演習Ⅰ			0.2														0.0	0.2		
								物理薬剤学・製剤学Ⅱ		1.5																1.5		
								計	0.0	5.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4										
薬学科	生薬学	助教	おく ひさえ 奥 尚枝	女	54	1985. 4. 1	2010. 4. 1	生薬・天然物医薬品を取扱う										9.0	0.0	武庫川女子大学 薬学部卒業 博士(薬学)(大阪大学)								
								天然物化学実験																	2.3	0.0		
								薬学基礎実験																			2.3	0.0
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.3	2.3	11.3	2.3	2.3		2.3	11.3	2.3	13.6				
								栄養と健康	0.8									0.8	0.0									
薬学科	衛生化学	助教	かたおか ひろみ 片岡 裕美	女	58	1981. 4. 1	2010. 4. 1	健康と環境への影響を調べる											9.0	0.0	武庫川女子大学大学院 薬学研究科修士課程修了 薬学博士(京都大学)							
								予防薬学実験																			2.3	0.0
								計	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.3	2.3	11.3	2.3	2.3		11.3	2.3	12.1				
								薬学基礎演習Ⅰ			4.5																4.5	0.0
								薬学基礎演習Ⅱ			4.5								0.0	9.0								
								計	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0							
								計	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	4.5	0.0							
薬学科	分析センター	助教	ほんだ ちえ 本田 千恵	女	55	1982. 4. 1	2010. 4. 1	薬学基礎演習Ⅰ													武庫川女子大学 薬学部卒業 博士(薬学) (武庫川女子大学)							
								薬学基礎演習Ⅱ																		0.0	4.5	
								計	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	11.3	2.3	11.3	2.3	2.3		11.3	2.3	9.0	0.0			
								計	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	11.3	2.3	11.3	2.3	2.3		11.3	2.3	9.0	0.0			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	—	嘱託教授	たにもと としこ 谷本 敏子	女	66	1973. 4. 1	2015. 4. 1	生体分子の化学	1.0						1.0	0.0	武庫川女子大学大学院 薬学研究所 修士課程修了 薬学博士 (大阪大学)		
								薬の作用の実際	0.1						0.1	0.0			
								臨床薬物動態解析	0.1						0.1	0.0			
								総合演習 I		0.5					0.5	0.0			
								総合演習 II		0.1					0.1	0.0			
								物質の特性を調べる								0.0		9.0	
								分析化学 I		3.0					3.0	0.0		3.0	
								物理化学実験								0.0		2.3	
薬学基礎演習 II		1.3					1.3	0.0	2.3										
基礎分析化学		1.5					1.5	0.0	1.3										
計		1.2	5.8	0.6	0.0	0.0	11.3	0.0	1.8	17.1									
薬学科	臨床薬学 教育センター	准教授	かさい しんじ 笠井 真二	男	52	1999. 4. 1	2004. 4. 1	薬学と社会	3.0						0.0	3.0	大阪大学大学院 薬学研究所 博士課程修了 薬学博士		
								病院・薬局へ行く前に	0.4						0.4	0.0			
								OTCの適正販売と薬剤師	1.5						1.5	0.0			
								総合演習 I			0.1				0.1	0.1			
								プレファーマシー実習 I					8.4		8.4	0.0			
								プレファーマシー実習 II								0.0		7.2	
								セルフメディケーション		1.5					1.5	0.0		1.5	
								計	1.9	4.5	0.0	0.1	8.4	7.2	10.3	11.8		22.1	
薬学科	臨床薬学 教育センター	嘱託准教授	まさだ けいこ 政田 啓子	女	62	2012. 3. 10	2012. 3. 10	地域で活動する薬剤師	0.6					0.6	0.0	武庫川女子大学大学院 薬学研究所 修士課程修了 (薬学)			
								プレファーマシー実習 I			8.4			8.4	0.0				
								プレファーマシー実習 II					7.2		7.2		7.2		
								計	0.6	0.0	0.0	8.4	7.2	9.0	7.2				
薬学科	薬学教育 推進センター	嘱託講師	かわい のぶゆき 河台 伸之	男	42	2014. 4. 1	2014. 4. 1	スペクトル構造解析法	8.0					0.0	8.0	東京理科大学大学院 薬学研究所 博士課程修了 博士 (薬学)			
								有機化合物の合成	7.2					9.0	0.0				
								有機化合物をつくる					2.3		2.3		0.0		
								基礎有機化学実験	7.2	8.0	0.0	0.0	11.3	0.0	18.5		8.0		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計					
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
薬学科	薬学教育推進センター	嘱託講師	きたやま ともや 北山 友也	男	39	2014.4.1	2014.4.1	ヒトの成り立ちと機能調節	7.2						7.2	0.0	金沢大学大学院 自然科学研究科 博士課程修了 博士(薬学)				
								生体の機能調節と情報伝達	8.0							0.0		8.0			
								薬の働きを調べる	7.2		0.6					0.0		9.0			
								解剖学								0.0		7.2			
								薬学基礎演習Ⅱ			0.6					0.0		0.6			
								薬理学実験								2.3		0.6			
計	7.2	15.2	0.0	0.6	0.0	11.3	7.2	27.1													
薬学科	薬学教育推進センター	嘱託講師	にしむら かなえ 西村 奏咲	女	29	2014.4.1	2014.4.1	医薬品をつくる							9.0	0.0	京都薬科大学 薬学部卒業 学士(薬学)				
								有機化学Ⅰ	8.0							8.0		0.0			
								有機化学Ⅱ								0.0		8.0			
								薬学基礎演習Ⅰ	8.0		0.4					0.4		0.0			
								薬学基礎演習Ⅱ			0.8					0.0		0.8			
								応用有機化学実験								2.3		0.0			
計	8.0	8.0	0.4	0.8	0.0	11.3	8.4	20.1													
薬学科	薬学教育推進センター	嘱託講師	みうら たけし 三浦 健	男	35	2014.4.1	2014.4.1	薬の作用Ⅱ	7.2						7.2	0.0	大阪大学大学院 薬学研究科 博士前期課程修了 博士(薬学)				
								体の成り立ちと働きを調べる								9.0		0.0			
								基礎生物	7.2							7.2		0.0			
								解剖生理学実験								2.3		0.0			
								計	14.4	0.0	0.0	0.0	11.3	0.0	25.7	0.0					
								生体エネルギー	7.2							7.2		0.0			
生体成分と免疫を調べる								9.0	0.0												
生化学								0.0	8.0												
生化学実験Ⅰ								2.3	0.0												
計	7.2	8.0	0.0	0.0	11.3	0.0	18.5	8.0													
薬学科	薬学教育推進センター	嘱託講師	やすい なおみ 安井 菜穂美	女	38	2010.4.1	2014.4.1	生体エネルギー	7.2						7.2	0.0	京都大学大学院 人間環境学研究所 修士課程修了 博士(薬学)(岡山大学)				
								生体成分と免疫を調べる								9.0		0.0			
								生化学								0.0		8.0			
								生化学実験Ⅰ								2.3		0.0			
								計	7.2	8.0	0.0	0.0	11.3	0.0	18.5	8.0					
								生体エネルギー	7.2							7.2		0.0			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号										
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計													
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
薬学科	薬化学I	嘱託助教	ありみつ けんじ 有光 健治	男	32	2013.4.1	2013.4.1	医薬品をつくる															京都薬科大学大学院 薬学研究所 博士課程修了 博士(薬学)						
								薬学基礎演習I		4.5																			
								薬学基礎演習II			4.5																		
								応用有機化学実験				4.5																	
	計		0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	11.3	0.0	11.3	4.5	15.8																	
薬学科	病態生理学	嘱託助教	じゅうまん さちこ 十萬 佐知子	女	35	2013.4.1	2013.4.1	疾病と薬物治療I	0.4														武庫川女子大学大学院 薬学研究所修士課程修了 博士(薬学) (武庫川女子大学)						
								プレファーマシー実習III																					
								臨床検査総論	0.5																				
								計	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	8.4	0.0	9.3	0.0	0.4	8.4	0.0	8.4	0.0		0.5	9.3				
薬学科	薬品物理化学	嘱託助教	はまぐち りょうへい 濱口 良平	男	30	2010.4.1	2015.4.1	物質の特性を調べる															京都薬科大学大学院 薬学研究所 修士課程修了 博士(薬学) (武庫川女子大学)						
								薬学基礎演習I		4.5																			
								薬学基礎演習II			4.5																		
								物理化学実験				4.5																	
	計	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	11.3	0.0	11.3	4.5	15.8																		
薬学科	臨床製剤学	嘱託助教	はらぐち たまみ 原口 珠実	女	31	2009.4.1	2014.4.1	プレファーマシー実習I															福岡大学大学院 薬学研究所修士課程修了 博士(薬学) (武庫川女子大学)						
								計	0.0	0.0	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	0.0	0.0										
								プレファーマシー実習II																					
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	0.0	0.0							
	計	0.0	0.0	0.0	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0	0.0	0.0														
薬学科	臨床薬学	嘱託助教	ふじた めぐみ 藤田 恵	女	32	2008.4.1	2013.4.1	生薬・天然物医薬品を取扱う															京都薬科大学大学院 薬学研究所修士課程修了 博士(臨床薬学) (京都薬科大学)						
								天然物化学実験																					
								早期体験学習II																					
								薬学基礎実験																					
	計	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	2.3	2.3	9.0	0.0	11.3	0.0	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							
薬学科	東洋医薬学	嘱託助教	よしとみ ひさえ 吉富 久恵	女	32	2013.4.1	2013.4.1	生薬・天然物医薬品を取扱う															武庫川女子大学大学院 薬学研究所修士課程修了 博士(薬学) (武庫川女子大学)						
								天然物化学実験																					
								早期体験学習II																					
								薬学基礎実験																					
	計	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	2.3	2.3	9.0	0.0	11.3	0.0	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目												年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号				
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計									
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
								計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計						
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	健康機能解析学	教授	いけだ かつみ 池田 克巳	男	62	2001.10.1	2001.10.1	メタボリック・シンドローム																鳥取大学農学部卒業 獣医学博士 (日本獣医畜産大学)	
								早期体験学習Ⅱ	1.3																
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	健康機能解析学	教授	いちかわ あつし 市川 厚	男	75	2003.4.1	2003.4.1	薬学への招待	2.4															東京大学大学院 薬学研究所修士課程修了 薬学博士	
								衛生と社会	1.2																
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	ゲノム機能解析学	教授	きのした けんじ 木下 健司	男	61	2006.4.1	2006.4.1	産業における安全衛生薬学	0.2															関西学院大学大学院 理学研究科修士課程修了 理学博士 (関西学院大学)	
								健康と環境への影響を調べる	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	薬化学Ⅱ	教授	きまち てつたろう 來海 徹太郎	男	56	2002.4.1	2015.4.1	総合演習Ⅰ		0.3														京都大学大学院 薬学研究所修士課程修了 博士(薬学) (京都大学)	
								総合演習Ⅱ		0.3															
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	薬理学Ⅱ	教授	しのづか かずまさ 篠塚 和正	男	62	1994.4.1	2001.4.1	有機化合物をつくる																静岡薬科大学大学院 薬学研究所修士課程修了 薬学博士 (静岡薬科大学)	
								有機化学Ⅱ																	
								薬学基礎演習Ⅱ			0.8														
								計	0.0	3.0	0.6	0.8	9.0	0.0	9.6	3.8									
								薬の作用Ⅱ	3.0																
								体の仕組みの実際	0.3																
								薬の作用の実際	0.2																
								臨床薬物動態解析	0.1																
								総合演習Ⅰ																	
								総合演習Ⅱ																	
								体の成り立ちと働きを調べる																	
								計	3.6	0.0	0.0	0.4	9.0	0.0	12.6	0.4									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号															
								科目名	講義		演習		実験・実習・実技		計																			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																		
健康生命薬科学科 (兼薬学)	生化学Ⅱ	教授	のさか かずと 野坂 和人	男	57	2014.9.1	2014.9.1	生命情報を担う遺伝子	3.0															14.8	岐阜薬科大学 薬学部卒業 医学博士 (京都府立医科大学)									
								小さな生命体	1.4																									
								総合演習Ⅰ		0.2																								
								総合演習Ⅱ		0.2																								
								小さな生命体と遺伝子を調べる	1.0																									
								基礎生物	4.0	1.4	0.4	0.0	0.0	9.0	9.0	4.4	10.4																	
健康生命薬科学科 (兼薬学)	薬品分析学	教授	はぎなか じゅん 萩中 淳	男	61	1982.10.1	1994.4.1	化学物質の検出と定量Ⅰ	1.4																14.5	京都大学大学院 薬学研究科 博士課程満期退学 薬学博士 (京都大学)								
								化学物質の検出と定量Ⅱ	1.6																									
								分析技術の臨床応用	0.8																									
								生体分子の化学	1.2																									
								総合演習Ⅰ		0.2																								
								総合演習Ⅱ	2.6	2.4	0.4	0.1	9.0	9.0	12.0	2.5																		
								物質を解析する																										
								計	3.0	3.0	0.3	0.3	0.3	9.0	9.0	12.6	2.5																	
健康生命薬科学科 (兼薬学)	薬化学Ⅱ	准教授	いなもと きよふみ 稲本 浄文	男	38	2014.4.1	2014.4.1	有機化合物の骨格と性質Ⅱ	3.0																12.6	東北大学大学院 薬学研究科 修士課程修了 博士(薬学) (東北大学)								
								総合演習Ⅰ		0.3																								
								総合演習Ⅱ		0.3																								
								有機化合物をつくる																										
								計	3.0	0.0	0.6	0.0	9.0	9.0	12.6	0.0																		
健康生命薬科学科 (兼薬学)	生化学Ⅰ	准教授	みずの ひでや 水野 英哉	男	44	2010.4.1	2010.4.1	細胞の仕組み	1.4																13.1	静岡県立大学大学院 生活健康科学研究科 博士課程修了 博士(環境科学)								
								総合演習Ⅰ		0.2																								
								総合演習Ⅱ		0.1																								
								生体成分と免疫を調べる																										
								基礎生物	1.0																									
								生化学	2.4	1.4	0.3	0.0	9.0	9.0	11.7	1.4																		
								計	3.0	0.0	0.6	0.0	9.0	9.0	12.6	0.0																		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号			
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計						
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	ゲノム機能解析学	准教授	むらた しげのり 村田 成範	男	49	2007.4.1	2007.4.1	遺伝子操作	3.0													筑波大学大学院 生物科学研究科修士課程修了 博士(理学)(東京工業大学)
									0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	薬品分析学	嘱託助教	なかむら ゆかり 中村 有加里	女	30	2012.4.1	2012.4.1	物質を解析する 薬学基礎演習 I		3.0			9.0									金沢大学大学院 自然科学研究科博士課程修了 博士(薬学)
									0.0	0.0	3.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	健康機能解析学	嘱託助教	ねざし ひろこ 根岸 裕子	女	42	2014.4.1	2014.4.1	メタボリック・シンドローム 早期体験学習 II	0.2													京都大学大学院 人間・文化研究科博士課程修了 博士(人間・環境学)
									0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
健康生命薬科学科 (兼薬学科)	薬理学II	嘱託助教	わくだ ひろかず 和久田 浩一	男	32	2009.4.1	2012.4.1	体の成り立ちと働きを調べる 薬学基礎演習 I					9.0									静岡県立大学大学院 薬学研究科博士課程修了 博士(薬学)
									0.0	0.0	3.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

- [注] 1 「所属学科」には、() に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1 授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
- 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

5年生の在籍学生数 185 名

6年生の在籍学生数 222 名

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	薬品分析学	4	8	13	21
2	薬化学Ⅰ	4	11	10	21
3	薬化学Ⅱ	4	8	5	13
4	生薬学	2	0	9	9
5	薬剤学	4	10	14	24
6	臨床薬学	4	13	15	28
7	臨床製剤学	4	12	13	25
8	薬品物理化学	3	5	5	10
9	東洋医薬学	2	7	6	13
10	ゲノム機能解析学	2	8	20	28
11	山本研究室	2	6	7	13
12	臨床薬学教育センター	5	14	19	33
13	薬理学Ⅰ	3	9	16	25
14	薬理学Ⅱ	4	8	15	23
15	衛生化学	4	8	4	12
16	生化学Ⅰ	3	10	15	25
17	生化学Ⅱ	2	7	0	7
18	病態生理学	4	14	14	28
19	免疫生物学	2	6	7	13
20	池田研究室（健康機能解析学）	2	5	8	13
21	森山研究室（臨床病態解析学）	2	7	7	14
22	薬学教育推進センター	5	9	0	9
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
	合計	71	185	222	407

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
浜甲子園 キャンパス	講義室(大)	3	912	専用	768	1,510	2.35	薬学部(学生数1,510) 薬学科(1,325)健康生命科学学科(185) 講義室定員 (大):201名以上 (中):101~200名 (小):100名以下
	講義室(中)	11	1,819	専用	1,579			
	講義室(小)	11	825	専用	615			
	実習室	10	1,837	専用	526	1,510	1.22	
	準備室	28	931	専用	—	—	—	
	演習室	5	284	専用	124	1,510	0.19	
	プレファーマシー 演習室	2	199	専用	—	1,510	0.13	
	研究室	69	5,325	専用	—	1,510	3.53	※各研究室の所属学生は、研究室で自 習をしている。
	CBTコンピュータ室	4	300	専用	120	1,510	0.20	
	コンピュータ室	4	328	専用	122	1,510	0.22	
	学生自習室	7	1,279	専用	—	1,510	0.85	P2-27談話室 P5-343自習室 P5-2階ロビー P5-3~5階ノード
	図書館	7	1,200	専用	—	1,510	0.79	
	ロッカー室	17	557	専用	—	1,510	0.37	
	実験動物センター	17	407	専用	—	—	—	
	低レベルRIセンター	12	340	専用	—	—	—	
	培養室	6	169	専用	—	—	—	

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
浜甲子園 キャンパス	無菌室	1	11	専用	—	—	—	
	測定室	3	92	専用	—	—	—	
	管理・元素分析室	1	46	専用	—	—	—	
	中和装置室	1	23	専用	—	—	—	
	薬品・器具庫	17	272	専用	—	—	—	
	機器室	16	521	専用	—	—	—	
	暗室	1	20	専用	—	—	—	
	天秤室	1	32	専用	—	—	—	
	生薬標本室	1	73	専用	—	—	—	
	低温室	2	54	専用	—	—	—	
	製剤室・ 無菌製剤調製室	1	263	専用	—	—	—	
	調剤室	1	163	専用	100	1,510	0.11	
	医薬品情報室(DI)	1	90	専用	—	—	—	
	モデル病室	2	94	専用	22	1,510	0.06	
	薬草園	1	563	専用	—	—	—	
	研究所	3	166	専用	—	—	—	
	会議室・応接室	7	327	専用	—	—	—	
教員研究室	39	1,132	専用	—	—	—		
嘱託教授室	1	40	専用	—	—	—		
非常勤講師室	1	26	専用	—	—	—		

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
浜甲子園 キャンパス	学院長室・学長室	1	38	専用	—	—	—	
	学部長室	1	38	専用	—	—	—	
	事務室	2	166	専用	—	—	—	
	医務室	1	68	専用	—	—	—	
	学生相談センター分室	1	38	専用	—	—	—	
	食堂・売店	4	726	専用	—	—	—	
	国試対策室	4	143	専用	—	—	—	
	進路相談コーナー	1	26	専用	—	—	—	
	サービスコーナー	4	37	専用	—	—	—	
	クラブ部室	5	91	専用	—	—	—	

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B * 100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
中央図書館	1,517	10,470	14.6	研究個室	11	情報検索PC 26 OPAC専用PC 13 ノートPC 64 タブレットPC 6	文学部(3,124) 健康・スポーツ科学部(630) 生活環境学部(2,130) 音楽学部(200) 看護学部(80) 文学研究科(118) 臨床教育学研究科(50) 健康・スポーツ科学研究科(40) 生活環境学研究科(98) 看護学研究科(12) 短期大学部(1,700)
中央図書館 薬学分館	166	1,561	10.6	なし	0	情報検索PC 6 OPAC専用PC 1	(内数) 薬学部：薬学科(1,260) 健康生命薬科学科(160) 薬学研究科：薬学専攻(8) 薬科学専攻(66)
計	1,683	10,470	16.2	研究個室	11	情報検索PC 32 OPAC専用PC 14 ノートPC 64 タブレットPC 6	大学院：392 大学：7,584 短大：1,700

[注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
中央図書館	582,337	426,401	7,355	1,377	12,316	41,296	8,868	8,558	13,037	
薬学分館	65,888	56,590	264	529	1,467	0	1,048	966	827	電子ジャーナルは中央図 書館で管理
計	648,225	482,991	7,619	1,906	13,783	41,296	9,916	9,524	13,864	

- [注] 1 雑誌等すでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 石黒 京子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
(1)実務実習担当学生に対して	2010年4月～現在	医療人を目指す学生としての自覚を持ち、実務実習がスムーズに進められるよう面談の最初から指導すると共に、学生および病院、薬局の指導薬剤師と密に連絡を取るようにした。	
(2)授業担当科目に関して	2010年4月～現在	学生の意欲をわかせるために、内容を理解する助けとなる資料を配付し、中間試験を実施することにより常に理解度をチェックした。また学生の授業への集中力を高め、授業を活性化するため私語をさせない様に心掛けた。	
(3)研究室学生に対して	2010年4月～現在	研究内容の理解を深め、動物実験を含む基本的な実験操作法、実験結果の記録法、データの処理法、構造決定法などの習得を促し、卒業論文作成のための指導を行った。また機会のあるたびに、有意義な学生生活を送るよう促し、折にふれ国家試験の勉強法を指導した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
(1) 薬学生のための天然物化学テキスト (第2版)	2010年8月	講義では、薬学生に必要とされる天然物化学に関する知識の要点を、薬学教育モデル・コアカリキュラムの内容に添ってわかりやすく解説した本書を共著で作成し、教科書として用いた。	
(3)「薬としての天然物」の講義プリント	2010年～現在	解や自己学習の補助となるプリントを作成した。毎時間の講義の要点の他、医薬品として重要な天然化合物の構造式などを分かり易くまとめた。さらに、復習や学習到達度の自己確認に利用できる練習問題を加えた。	
(4) 生薬・天然物を取り扱うの実習帳	2010年～現在	天然物化学の実習に用いる実習帳および提出用ノートを作成した。各項ごとに、予習、操作や注意、結果や考察、生薬などの観察のポイントを示し、自己学習や理解の助けとなるよう工夫した。また構造解析の項ではSGD形式で学生同士が疑問を解決し、教え合えるような設問形式に工夫した。	
(5)「自然が生み出す薬用資源」の講義プリント	2010年～現在	講義の理解を高め、自己学習の補助となるプリントを作成した。毎時間の講義の要点、試験勉強に役立つ内容、さらに復習を兼ね、学習の到達度の自己確認に利用できる練習問題を加えた。	
(6) 薬学用語辞典	2012年3月30日	薬学生が最低限知っていなければならない薬学用語集を共著で作成し、参考書として用いた。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
(1) 薬用植物園長としての活動	2010～現在	薬用植物園園長として、学生や見学者に薬用植物の解説や案内を行っている	
(2) 女性研究者研究活性支援事業	2012年～現在	JSTに採択された女性研究者研究活性支援事業の一環として、調査広報を担当し、部門リーダーとしてリーフレット、ニューズレターの作成や意識啓発セミナー、シンポジウムの開催に関わった。	
(3) FDに参加	2012/1/1	平成24年度長期実務実習に関する学内FDに参加	
	2013/12/11	平成 25 年度 FD 講演会 (自立した学びのためのPBL の実践法紹介 -ワールドカフェスタイルにて-) に出席し、討論に参加した。	
	2014/5/14	平成26年度 第1回薬学部FDワークショップ(私たちが養成すべき薬剤師とは?-Outcomeからカリキュラムを考える-)に出席し、討論に参加した。	
	2015/3/13	平成27年度 薬学部FDワークショップ(学習効果を高める教育とは-国家試験全員合格に向けて-)に出席し、討論に参加した。	
	2015/10/14	パワーハラスメント防止セミナーに参加した。	
	2015/12/9	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
「薬用食品の開発II」ハウセンカの多様な生物活性と成分-抗かゆみ作用、抗アレルギー作用、抗リユーマチ作用、駆瘀血作用-	共著	2012/4/1	ジーエムシー出版, 193-204.
Allergy-preventive effects of the flowers of <i>Impatiens texture</i>	共著	2010年4月	Biol. Pharm. Bull., vol. 33, 714-716.
Allergy-preventive effects of chlorogenic acid iridoid derivatives from flower buds of <i>Lonicera japonica</i>	共著	2011年8月	Biol. Pharm. Bull., vol. 34, 1330-1333.

Development of Environmental Control Method for Rapid Production of High Quality <i>Hedyotis diffusa</i>	共著	2013年3月	Preprints of the 2013 IFAC Bio-Robotics Conference, B11, 1-5.
Mechanism of the purgative action of multiflorin A	共著	2014年9月	Planta Medica, vol. 80, 2055-2056.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
「女性薬命の母ホワイト」の精神 神経症状に対する効果		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
マルチフロリンAの瀉下活性発現メカニズム解明—機能性タンパク質の解析—		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会総会
Development of an assay method to search for natural products inhibiting stress-enhanced allergy		2015年12月	環太平洋国際化学会議2015
花色変化メカニズムに関する研究（第4報）—スイフヨウ—		2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2002年～2011年	KAMPO EYES 監査		
2002年4月1日～現在	日本生薬学会 関西支部委員		
2004年4月1日～現在	日本生薬学会 評議員		
2006年～現在	日本薬学会関西支部委員		
2010年10月～現在	日本薬剤師研修センター 漢方認定薬剤師 薬用植物園実習および講義の講師		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床製剤学	職名 教授	氏名 内田 享弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目と授業評価について	2008年4月1日 ~現在に至る	製剤化のサイエンス I (薬学科3年次生) 小テスト(中間試験)と定期試験で評価する	
	2009年4月1日 2014年3月31日	創剤科学(健康生命薬科学科3年次生、4年次生) (隔年開講)、定期試験で評価する	
	2008年4月1日 2012年3月31日	物理薬剤学(健康生命薬科学科3年次生) 定期試験で評価する	
	2013年4月1日 ~現在に至る	物理薬剤学・製剤学 I (健康生命薬科学科3年次生) 定期試験で評価する	
	2009年4月1日 ~現在に至る	疾病と薬物治療 II (薬学科3年次生) 小テスト(中間試験)と定期試験で評価する	
	2011年4月1日 ~現在に至る	総合演習 I (薬学科4年次生) 出席、模擬試験、CB1体験受験の結果を総合的に評価する	
	2015年4月1日 ~現在に至る	総合演習 II (薬学科6年次生) 出席、模擬試験の結果を総合的に評価する	
	2009年4月1日 ~現在に至る	病院薬局へ行く前に(薬学科4年次生) 定期試験で評価する	
	2009年4月1日 ~現在に至る	プレファーマシー実習 I (薬学科4年次生) 実省態度および実省終了時の実技試験により評価する	
・講義での工夫	2008年4月1日 ~現在に至る	「製剤化のサイエンス I」、「疾病と薬物治療 II」の各講義内容に関連する薬剤師国家試験問題をまとめて配布し、解説を行う。「物理薬剤学・製剤学 I」「創剤科学」は、講義中に理論を説明するだけでは理解しにくい内容については、日常生活や医療現場で応用されている物理薬剤学的現象などの身近な例に挙げて説明することによって、当該分野の学問を親しみやすく感じ、更に理解を深めるべく工夫を行う。定期試験については記述問題を作成する。 各講義の試験問題について全体の6割は、正誤問題とし、各問題文の正誤を問うことに加え、問題文に誤りがあれば、誤っている部分に下線を引き、正しい文章に書き換える問題にすることで、学生の真の理解力を明らかにする。また、残り4割は論述式の問題を作成し、理解力に加え説明能力を問う問題を作成する。「病院・薬局に行く前に」は、薬学科4年前・後期に実施されるプレファーマシー実習 I・II・IIIの中の、調剤実習、疑義照会実習、輸液調製実習、抗がん剤取り扱いのシミュレーション実習、患者接遇、チーム医療実習など多岐に亘る実習内容の理論面を十分に理解することを目標とする。実務実習モデル・コアカリキュラムの(I)実務実習事前教育の内容を一部含む。	

・実習での工夫	2009年4月1日 ～現在に至る	「プレファーマシー実習Ⅰ」の実習書作成の際は、実際に病院や薬局でどのような処方箋が出されているかを事前に調査し、参考にした。実習準備については実習が滞ることの無いよう十分に配慮した。実習の説明については特に高カロリー輸液に関する説明を行った。手計算によるカロリー計算の仕方、計算ソフトを用いたカロリー計算の仕方など、懇切丁寧に説明した。実習期間中に西宮市近隣の指導薬剤師の先生方に実習見学をして頂き、コメントを頂いた。頂いたコメントを参考にして、次年度のプレファーマシー実習について内容を更に充実させてい	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年 2013年 2014年 2015年	薬と健康の週間「薬と健康フェア」 薬と健康の週間「薬と健康フェア」 兵庫県老人大学（阪神シニアカレッジ） 兵庫県老人大学（阪神シニアカレッジ）	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年 ～現在に至る 2010年 ～現在に至る 2010年 ～現在に至る 2015年12月9日	SSH(Super Science High school) 武庫川女子大学附属高校生 科学演習実験Ⅲ「薬と健康1 インターネットを用いた医薬品の情報検索」 OSCEステーション責任者 OSCE外部評価者 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Biochemical Sensors: Mimicking Gustatory and Olfactory Senses	共著	2013年	PAN STANFORD PUBLISHING, p145-184
フレイル超高齢者社会における最重要課題と予防戦略	共著	2014年	医歯薬出版株式会社、フレイルと薬剤, p106-109
Comprehensive evaluation of palatability for commercial medicine by taste sensing system.	単著	2014年3月	Yakugaku Zasshi, 134(3), 317-323
Bitterness evaluation of acidic pharmaceutical substances (NSAIDs) using a taste sensor	共著	2014年12月	Chem Pharm Bull, 62(12), 1252-1258
Prediction of the stability of meropenem in intravenous mixtures	共著	2015年4月	Chem Pharm Bull, 63(4), 1-7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
患者アドヒアランスの飽く無き追求		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
Evaluation the palatability of ebastine orally disintegrating tablets using OD-mate; as new apparatus of detecting disintegration time and electronic tongue system		2015年7月	CRS
医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸由来物質（カフェ酸、キナ酸）の効果		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
The role of an impurity in ceftriaxone sodium preparation for injection in determining compatibility with calcium-containing solutions		2015年10月	AAPS annual meeting
剤形の特徴を考慮した患者のための服薬支援を目指して		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成18年4月～平成25年9月	日本注射薬臨床情報学会理事（平成20年～平成25年同副会長）		
平成18年4月～現在	兵庫県病院薬剤師会理事		
平成23年4月～現在	日本薬学会近畿支部代議員		
平成25年10月～現在	日本注射薬臨床情報学会会長		
平成27年4月～現在	日本医療薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床薬学	職名 教授	氏名 岡村 昇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
講義科目		2007年4月～	重要項目を穴埋め形式にしたプリントによる重要ポイントの修得。問題形式の復習資料による知識の定着。一部の科目においては、SGDによる能動的学習の涵養。
事前実習		2007年4月～	OSCEに対応する実習だけでなく、薬剤師業務の先端を経験させるため、TDM実習（投与計画の立案）、遺伝子解析実習（遺伝子型の判定およびそれに対する質疑応答）なども取り入れている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
医薬品開発論（廣川書店）		2010年4月	モデル・コアカリキュラムC17に対応させた医薬品開発に関する教科書の執筆（非臨床試験の部分）及び全体の編集
化学療法学 第2版（廣川書店）		2016年3月	モデル・コアカリキュラムC16(5)に対応させた感染症および悪性新生物に関する教科書の執筆（緩和ケアなど）及び全体の編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学共用試験OSCE実施委員会活動		2010年4月～	評価者養成伝達講習会ワークショップ タスクフォース、新規コアカリ・モニターなどに関するワークショップ タスクフォース、課題精選・修正作業、評価用ビデオ作成、OSCE実施中の本部要員 など
地域別教育懇談会		2010年～	保護者、学生との面談
OSCE実施責任者		2010、2011年度	本学の責任者として運営
OSCE外部評価者		2010年～	近隣大学のOSCEに評価者として参加
OSCEステーション責任者		2012年度～	ステーション責任者として運営
薬剤師のためのワークショップ in 近畿		2013、2014年度	タスクフォースとして参加
薬剤師国家試験問題検討委員会		2013、2014年度	病態・薬物治療担当者として参加
領域別学科紹介		2014年6月	高校2年生対象（親和女子高等学校）
薬学実務実習FD		2015年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Cytotoxicity 15-Deoxy- Δ 12, 14-prostaglandin J2 through PPAR γ -independent pathway and the involvement of the JNK and Akt pathway in renal cell carcinoma.	共著	2012年	Int J Med Sci. 9(7): 555-566
L-type voltage-dependent calcium channel is involved in the snake venom group IA secretory phospholipase A2-induced neuronal apoptosis.	共著	2013年	Neurotoxicology 35: 146-153
Potential tumor markers of renal cell carcinoma: alpha-enolase for postoperative follow-up and galectin-1 and galectin-3 for primary detection.	共著	2013年	Int J Urol. 20(5): 530-535
TNF- α -857C>T genotype is predictive of clinical response after treatment with definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma.	共著	2013年	Int J Med Sci. 10(12): 1755-1760

Serum lactate dehydrogenase levels as a predictive marker of oxaliplatin-induced hypersensitivity reactions in Japanese patients with advanced colorectal cancer.	共著	2014年	Int J Med Sci. 11(6): 641-645
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
2014年度薬学共用試験OSCEの結果解析		2015年3月	日本薬学会第135年会
2014年度薬学共用試験OSCE報告		2015年7月	第47回医学教育学会大会
膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果		2016年3月	日本薬学会第136年会
ヒト神経膠芽腫細胞におけるテモゾロミドとバルプロ酸の併用効果		2016年3月	日本薬学会第136年会
薬学共用試験OSCEの結果解析－2015－		2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2010年～	薬学共用試験センターOSCE実施委員会 委員		
2010～2015年	日本医療薬学会「医療薬学」編集委員		
2010年～	日本TDM学会評議員		
2011年～	日本TDM学会「TDM研究」編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床薬学教育センター	職名 教授	氏名 片岡 和二郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目 ・授業方法の工夫	2009. 4. 1～現在 2009. 4. 1～現在	医薬品情報の活用（薬学科4年生） 病院・薬局へ行く前に（薬学科4年生） プレファーマシー実習Ⅰ（薬学科4年生） プレファーマシー実習Ⅱ（薬学科4年生） 処方箋の理解と薬剤師Ⅰ（薬学科5年生） 講義は教科書を中心に行うが、必要に応じプリント等を配布している。また、パワーポイント形式でスライドを映写することで学生の視覚を刺激し理解力を高めようと試みている。演習・実習はなるべく部屋内を巡回し学生からの質問を受けやすいようにしている。薬剤師職能と関連した講義・実習には医療現場のエピソードを取り入れ、学生の病院・薬局実務実習へのモチベーションを高める努力をした。また、薬剤師国家試験と関係する科目では、試験の過去問題を取り上げ、重要な部分を強調し、学生の理解を深めるように配慮している。年々内容が変化 する科目もあり、最新の情報を取り入れるようにして、資料を配付している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年	医薬品の開発過程で得られる情報、片岡和二郎『医薬品情報学』、(栄田敏之、橋詰勉編) 廣川書店、東京、85-9	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年度～ 現在 2012年～現在 2005～2010年 2011年～現在 2015年～ 2015年12月	長期実務実習委員会 委員 OSCE企画運営委員会 委員 (2012年から委員長) 社会人大学院企画運営委員会 委員 大学院教育検討委員会 委員 薬学講座(卒後教育)企画運営委員会 委員 (2012年～2014年委員長) 薬学供用試験OSCEモニター員 薬学供用試験OSCE評価者(学外) 薬学供用試験OSCE実施責任者 神戸市立看護大学大学院 非常勤講師 宝塚市立看護専門学校 非常勤講師 キャリア対策委員 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
医薬品情報学(単行本・ムック),	共著	2011	PP85-99, 廣川書店
Verification of external surface contamination of Japanese 5-fluorouracil vials and removal of contamination by washing the vials.	共著	2013	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci, 39, 451-456

Microbiological challenge test of contamination caused by using the PhaSeal System.	共著	2013	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci, 39, 148-155
Verification of surface contamination of Japanese cyclophosphamide vials and an example of exposure by handling.	共著	2012	J. Oncol. Pharm. Pract., 18, 201-206
Investigation on residual-related error and the effect of solution properties using protective devices for the reconstitution of cytotoxic agents in actual situations.	共著	2010	J. Oncol. Pharm. Pract., 17, 55-60
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
簡易懸濁法における経腸栄養剤併用時の医薬品の安定性		2015年10月	第25回日本医療薬学会年会
抗精神病薬の脂質生成に関する転写因子への影響		2015年3月	日本薬学学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2009年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員		
	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 委員		
	先端医療センター「治験審査委員会」委員		
	先端医療センター「医薬品等臨床研究審査委員会」委員		
2011年度	文部科学省 大学における医療人養成推進等委託事業		
	「新制度薬学教育における実務家教員のキャリア支援の方策の確立に関する調査・研究委員会」委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬化学I	職名 教授	氏名 川崎 郁勇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年4月～現在	2015年4月～現在	双方向型の授業実施：小グループ討論および質疑応答および必要に応じてコメントを補足することで、双方向型の授業を実施した
	2015年4月～現在	2015年4月～現在	双方向型の授業実施：小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、必要に応じてレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した
	2015年9月～現在	2015年9月～現在	双方向型の授業実施：グループでの課題研究および研究発表会を実施し、学生相互の質疑応答および必要に応じて解答を補足することで、双方向型の授業を実施した
	2015年9月～現在	2015年9月～現在	双方向型の授業実施：実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した
2 作成した教科書、教材、参考書	2015年3月	2015年3月	「化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む」の一部を執筆した
	2015年1月	2015年1月	「実用薬学英語」の一部を執筆した
	2011年1月	2011年1月	「有機医薬品合成化学 ターゲット分子の合成」の一部を執筆した
	2010年9月	2010年9月	「Innovated 構造解析プラクティス」の一部を執筆した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年12月27日	2015年12月27日	大阪大学中之島センターに於いて、大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人養成プログラム運営委員会主催 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修でのタスクフォース
	2015年10月10日	2015年10月10日	クロスウェーブ梅田に於いて、日本薬学会 第1回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ(第5回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ)でのタスクフォース
	2015年8月22日	2015年8月22日	京都薬科大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第79回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in近畿でのタスクフォース
	2015年8月7日	2015年8月7日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第5回全国学生ワークショップでのタスクフォース
	2015年5月4日	2015年5月4日	近畿大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第77回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in近畿でのタスクフォース
	2014年12月28日	2014年12月28日	大阪大学中之島センターに於いて、大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人養成プログラム運営委員会主催 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修でのタスクフォース
	2014年11月1日	2014年11月1日	クロスウェーブ梅田に於いて、日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンスワークショップでのタスクフォース
	2014年8月30日	2014年8月30日	武庫川女子大学に於いて、薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構主催 第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in近畿でのチーフタスクフォース

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年12月9日	武庫川女子大学薬学部 平成27年度 第1回薬学部FD「改訂モデルコアカリに基づく実務実習に関するFD」に参加	
	2015年5月9, 10日	名城大学に於いて、薬学協議会・東海地区調整機構・大阪大学薬学研究科課題解決型高度医療人養成プログラム運営委員会 指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修 in東海に受講者として参加	
	2015年3月13日	武庫川女子大学薬学部 平成26年度 第2回薬学部FDワークショップ「学習効果を高める教育とはー国家試験全員合格に向けてー」を企画・運営	
	2014年5月14日	武庫川女子大学薬学部 平成26年度 第1回薬学部FDワークショップ「私たちが養成すべき薬剤師とは？-Outcomeからカリキュラムを考える-」を企画・運営	
	2013年10月12-14日	クロスウェーブ府中に於いて、日本薬学会 第3回薬学教育者のためのアドバンストワークショップに受講者として参加	
	2012年12月23日	帝京大学薬学部に於いて、薬学教育協議会第1回全国薬学教育者アドバンストワークショップ(タスクフォーススキルアップ集会)に受講者として参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
化学構造と薬理作用 医薬品を化学的に読む	共著	2015年3月	廣川書店
有機医薬品合成化学 ターゲット分子の合成	共著	2011年1月	廣川書店
Innovated 構造解析プラクティス	共著	2010年9月	京都廣川書店
Preparation of Chiral Ligands Connected with Quaternary Ammonium Group for Recyclable Catalytic Asymmetric Transfer Hydrogenation in Ionic Liquid	共著	2015年3月	Chem. Pharm. Bull. 63 (3), 200-209 (2015)
A novel one-step synthesis of benzo[b]furo[3,2-b]pyridines having an amino group at the 4-position from benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine	共著	2013年1月	Heterocycles, 87 (1), 177-191 (2013)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規キラルリガンドの開発とそのリサイクル使用による触媒的不斉水素移動型還元反応		2015年11月	45回複素環化学討論会
A mechanistic investigation for anti-elimination of (Z)-1,2-bis(arylseleno)-1-alkenes and their sulfur analogs		2015年11月	The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry
新規イオン性キラルリガンドの合成とそれを用いる触媒的不斉水素移動型還元反応		2015年10月	65回日本薬学会近畿支部大会
医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸由来物質(カフェ酸、キナ酸)の効果		2015年10月	65回日本薬学会近畿支部大会
1,2-ビスセレン化合物を用いた(E)-アシルセレンニルアルケンへの脱離反応		2015年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成20年4月～平成27年12月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 実務実習指導薬剤師養成小委員会 委員
平成25年4月～平成27年12月	日本薬学会近畿支部委員
平成25年7月～平成25年8月	日本薬学会 第3回全国学生ワークショップ実行委員
平成26年5月～平成26年8月	日本薬学会 第4回全国学生ワークショップ実行委員
平成26年8月～平成26年11月	日本薬学会 第4回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ実行委員
平成27年4月～平成27年12月	日本薬学会 薬学教育委員会 委員
平成27年5月～平成27年8月	日本薬学会 第5回全国学生ワークショップ実行委員
平成27年5月～平成27年10月	日本薬学会 第1回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ(第5回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ)実行委員
平成27年9月～平成27年12月	文部科学省委託事業 日本薬学会 薬学参照基準作成作業部会委員
平成27年9月～平成27年12月	文部科学省委託事業 日本薬学会 薬学教育の改善・充実に関する調査研究(海外の薬学教育との比較調査)委員会委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 東洋医薬学	職名 教授	氏名 高明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
担当科目 薬学科	2013年度 2009年度～	「初期演習」担当 「自然が生み出す薬用資源」(共担) 「生薬・天然物薬品を取り扱う」(共担)	
健康生命薬学科	2009年度～	「疾病と漢方処方」 「東洋美容学」 「統合医療概論」(共担) 「早期体験学習Ⅱ」(共担) 「薬学基礎実験」(共担) 「天然物化学実験」(共担) 「健康生命薬科学概論」(共担)	
教育方法の工夫		漢方医学は古い学問であるので、理解しにくいところが多い。現代医薬学の知識を借りて漢方医学の内容を説明するのは理解し易くなる。また、補助教材(画像教材など)の作成および実際操作、実物展示などにより理解と記憶を促した。さらに各学生の理解度を把握するため途中に講義の内容に関する小テストを行い、必要に応じて再度補足するなどの対応を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年10月	「薬物飲食の相互作用」医歯薬出版(参考書)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2009年度～	毎年、中国漢方研修旅行の企画、実施、引率	
	2010年度～	本学附属中高のSHHクラスに「漢方医薬学について」実習講義	
	2010年10月23日	本学図書館教養講座：「現代女性と漢方医薬学」	
	2011年4月23日	中部健康栄養士会教育講演「漢方医学と現代人の健康」	
	2011年11月16日	兵庫県卸薬剤師会教育講演「漢方医学と健康」	
	2013年4月30日	夙川福祉講座「漢方医学と現代人の長寿・健康」	
	2014年3月6日	市民対象講座「インターカレッジ西宮」「古い漢方医薬学の知識は現代人の健康に役立つ」	
	2014年6月18日	生涯学習鳴尾大学講演「東洋医学と長寿・健康Ⅰ」	
	2014年9月24日	大阪薫英女学院高等学校模擬授業	
	2015年6月18日	生涯学習鳴尾大学講演「東洋医学と長寿・健康Ⅱ」	
	2015年10月29日	大阪府立 旭 高等学校模擬授業	
	2015年11月13日	中国江蘇大学薬学部 特別講演「疾患動物モデルを用いて天然薬物の開発」	
	2015年11月19日	兵庫県医薬品小売商業組合外部研修会講演「漢方医学の基礎と応用」	
	2015年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
1) 『薬物飲食の相互作用』	共著	平成24年10月	医歯薬出版
2) Tang-Nai-Kang Alleviates Pre-diabetes and Metabolic Disorders and Induces a Gene Expression Switch toward Fatty Acid Oxidation in SHR.Cg-Leprcp/NDmcr Rats.	共著	平成27年4月	PLOS ONE DOI:10.1371/journal.pone.0122024
3) L-Citrulline increases hepatic sensitivity to insulin by reducing the phosphorylation of serine 1101 in insulin receptor substrate-1.	共著	平成27年6月	BMC Complement Altern Med. 3930302531476936
4) Guava leaf extracts inhibit 3T3-L1 adipocyte differentiation via activating AMPK.	共著	平成25年6月	Journal of nutritional therapeutics, 31: 107-113
5) Beneficial effect of Sparassis crispa on stroke through activation of Akt/eNOS pathway in brain of SHRSP.	共著	平成23年1月	J Nat Med. 65(1):135-41. doi: 10.1007/s11418-010-0475-9.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
1. 青錢柳エキスによる肝脂肪蓄積の抑制効果		平成28年3月11日	第30回日本糖尿病肥満動物学会年次学術集会
2. 青錢柳エキスの血糖降下作用およびその作用機序の解析		平成28年3月11日	第30回日本糖尿病肥満動物学会年次学術集会
3. マホリックシンドロームにおけるノニ果実の改善効果		平成28年3月28日	日本薬学会第136年会
4. Effects of Cyclocarya paliurus Leaf butanol extract on the Metabolic Syndrome in SHR/cp Rats		平成28年3月28日	日本薬学会第136年会
5. L-シトルリンの摂食抑制を介した抗肥満効果		平成28年3月28日	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成18年4月～	日本東洋医学会会員		
平成18年4月～	日本薬学会会員、日本薬学会近畿支部会理事		
平成20年4月～22年3月	日本国際代替医療学会会員、評議員		
平成24年4月～	在日本中国人生物学科者協会、理事		
平成25年4月～	日本高血圧関連動物学会会員、評議員		
平成25年4月～	日本中医臨床学会理事		
平成26年4月～27年10月	日本健康回復学会会長		
平成26年9月～30年9月	世界中医薬学会連合会気血專業委員会理事		
平成26年4月～	日本糖尿病・肥胖動物学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬剤学	職名 教授	氏名 高橋 幸一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2010年4月1日 ～現在	<p>薬物の臓器への到達と消失（2年後期、中瀬朋夏講師と共担） 本科目は2年生後期に開講されており、学生が薬物名や薬の作用についてほとんど知らない状態で学ぶことになる。そこで、教科書に記載されている薬物についてはその薬理作用を説明するとともに出来るだけ薬物名を覚えることを避け、理論を中心に講義を行っている。また、教科書内の図や表に常に疑問を持ち、何故そのような現象が得られたかを考え、説明できるような能力を付与することを常に心がけている。授業は前回の簡単な復習から始まり、当日行うところを目標として板書し講義に入っている。授業内容へのモチベーションを高めるために、実際の臨床現場での考え方なども授業内に取り入れ、将来の職業の業務内容と関連づけている。開講期の中間（授業開始から8回目ぐらい）に小括として講義内容の確認と整理（具体的には小テスト）を行うようにしている。定期試験は選択式、虫食いと記述式で行っている。選択式にも正解が1つの選択と複数の正解を選択するものを併用している。記述式では個々の現象について説明できる能力を有したか否かを評価している。</p> <p>薬物動態の解析（3年生前期、中瀬朋夏講師と共担） 本学の学生の多くは式や計算に弱く、微分・積分の学習も不十分であり、薬物動態の式の誘導が行えないのが現状である。そこで講義では、まず微分方程式が意味するところ述べ、その後、それを積分した式を示し、その式によりどのようなことが行えるのかを講義している。投与計画においては特に将来の職業（病院薬剤師）の業務と関連づけることにより、授業内容へのモチベーションを高める工夫を行っている。授業は前回の簡単な復習から始まり、当日行うところを目標として板書し講義に入っている。演習を行う時間が無いことから、前期の間に3～4回練習問題を出し、レポートとして提出させ、解答内容を点検後学生に返却している。正解と一般的な解答例を授業の中で示し、学生の理解を深めるように工夫をしている。</p> <p>製剤化のサイエンスIII（4年生前期、吉田 都講師と共担） 私の担当は、DDSの必要性、ターゲティング、プロドラッグであり、各項目に入るところではモデルコアカリキュラムの到達目標を板書することにより、各項目の目指すところを明確に示している。授業は前回の簡単な復習から始まり、当日行うところを目標として板書し講義に入っている。内容をより理解しやすいように模式図を多用している。</p> <p>薬物を製剤化し体内動態を調べる（薬学科4年生前期、中瀬朋夏講師と共担） 本科目は実習科目であり、グループ実習がメインであることから、多くの学生が実習に参加できるようにサンプル数や器具などを多くした。薬物の臓器への到達と消失ならびに薬物動態の解析では、学生が武庫川女子大学実験動物委員会の研修を受けておらず動物を扱えないことから、デモ実験やポンプを用いた流体力学的モデルを用いて理解を深めるように工夫をした。また、製剤材料の性質ならびに剤形をつくるでは、一連の技能を修得できるようにまとめるとともにグループ内である程度完結できるように工夫をした。実習帳では、実習結果や解析結果を書く項目以外に、基礎的知識を問うための設問、薬物や製剤の特徴などを調べるような項目も設けた。</p>	

2 作成した教科書、教材、参考書	2013年3月 2012年4月	薬物の生体内運命（第5版） 標準薬剤学（第3版）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2008年～2014年	薬剤学会教育分科会シンポジウム	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称
乳癌細胞の悪性化進展における亜鉛トランスポーターの役割	共著	2014年	別冊・医学のあゆみ 医歯薬出版 株式会社 64-8.
トランスポーターと疾患研究の最前線 乳がん細胞の悪性化進展における亜鉛トランスポーターの役割	共著	2013年	医学のあゆみ 第245巻1号 64- 68
Curdione Plays an Important Role in the Inhibitory Effect of Curcuma aromatica on CYP3A4 in Caco-2 Cells.	共著	2011年	Evid Based Complement Alternat Med. ;e913898
Transcutaneous immunization system using a hydrotropic formulation induces a potent antigen-specific antibody response.	共著	2012年	PLoS One. 7, e47980
Novel in vivo model to address oral baicalin pharmacokinetics: CYP3A4-induced Caco-2 cell monolayers combined with rat intestinal rinse fluids	共著	2013年	J. Pharmacy Pharmacol,65,1526- 1535
High Glucose Level Promotes Migration Behavior of Breast Cancer Cells through Zinc and Its Transporters.	共著	2014年	PLoS One 9 (2014) e90136.
Leptin suppresses non-apoptotic cell death in ischemic rat cardiomyocytes by reduction of iPLA(2) activity.	共著	2015年	Biochem Biophys Res Commun 463, 13-17
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
漢方製剤の機能向上—精油成分を高含量含む漢方製剤の調製—		2016年3月	日本薬学会136年会
ヒト乳がん細胞の運命を支配する亜鉛トランスポーターと亜鉛イオン		2016年3月	日本薬学会136年会
多孔性ケイ酸カルシウムを利用したクルクミン速放性顆粒の調製		2015年5月	日本薬剤学会30年会
多孔性ケイ酸カルシウムを用いたニフェジピン固体分散体制剤の光安定性評価		2015年5月	日本薬剤学会30年会
III 学会および社会における主な活動			
1999年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員		
2000年4月～現在	日本動態学会評議員		
2000年8月	薬と医療シンポジウム オーガーナイザー		
2001年4月～現在	日本薬剤学会評議員		
2002年4月～現在	日本薬学会代議員		
2003年10月～2011年10月	なるお大学講師		
2007年4月～2009年3月	大学コンソーシアムひょうご神戸教育連携委員会委員		
2009年10月～2010年1月	宮水学園講師		
2010年4月～2011年3月	兵庫県薬剤師会薬局実務実習対策特別委員会委員		
2010年4月～2011年3月	兵庫県薬剤師会編集委員会委員		
2010年4月～2011年3月	兵庫県薬剤師会研修委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 免疫生物学	職名 教授	氏名 高橋悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			<ul style="list-style-type: none"> ・担当科目 2年次「身体をまもる免疫系」 2年次「生体成分と免疫を調べる(実習)」 3年次「細胞の仕組み」 6年次「生体防御機構」 ・授業評価 「身体をまもる免疫系」 25年度 3.6/5.0 26年度 3.8/5.0 「細胞の仕組み」 25年度 3.6/5.0 26年度 3.8/5.0 「生体防御機構」 25年度 4.2/5.0 26年度 4.0/5.0 ・工夫 図表を多用し、DVDを活用している。同じ内容を異なる表現で尋ねると答えられないことが多く、さまざまな用語や表現による繰り返し説明を行っている。資料は渡しすぎないようにし、重要な事項はすべて板書し、ノートをとらせるようにしている。授業理解の確認のため、自習用オリジナル問題集を作成し、配布している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年6月28日 2013年8月1日 2015年3月20日	スタンダード薬学シリーズ4「生物系薬学IV演習編」 (東京化学同人) 編集 薬学領域の生化学【第2版】(廣川書店) 第11章 新細胞生物学(廣川書店) 第4章および編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2006年～2010年 2007年～2010年 2008年～2010年 2011年～2012年 2015年12月9日	薬学共用試験CBT実施委員会・大学委員および実施責任者 薬学共用試験CBT問題精選委員 日本薬学会・薬学教育改革大学人会議「新薬学教育制度での研究と教育のあり方委員会」委員 日本薬学会・薬学教育委員会協力委員 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Orally administered mucolytic drug L-carbocysteine inhibits angiogenesis and tumor growth in mice	共著	2015年、9月	J. Pharmacol. Exp. Ther. 354, 269-278
Inhibition of the proliferation and acceleration of migration of vascular endothelial cells by increased cysteine-rich motor neuron 1	共著	2015年、7月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 462, 215-220

Induction of cyteine-rich motor neuron 1 mRNA expression in vascular endothelial cells	共著	2014年、8月	Biocheml. Biophys. Res. Commun. 451, 235-238
Repeated and long-term treatment with physiological concentrations of resveratrol promotes NO production in vascular endothelial cells	共著	2012年、3月	Br. J. Nutr. 107, 774-780
Vascular endothelial growth factor (VEGF), VEGF receptors and their inhibitors for antiangiogenic tumor therapy	共著	2011年、3月	Biol. Pharm. Bull. 34, 1785-1788
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
CRIM1細胞内ドメイン結合タンパク質の探索		2015年、12月	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会
内因性血管新生抑制因子AngiostatinによるJNKリン酸化抑制機構の解析		2015年、12月	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会
血管内皮細胞の管腔状の形態変化におけるCRIM1の機能		2016年、3月	日本薬学会第136年会
マウス骨髄由来培養マスト細胞の分化過程におけるIgEの機能の解析		2016年、3月	日本薬学会第136年会
腎がん細胞におけるCRIM1膜タンパク質の機能解析		2016年、3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2007年～2010年	薬学共用試験CBT問題精選委員		
2008年～2010年	日本薬学会・薬学教育改革大学人会議「新薬学教育制度での研究と教育のあり方委員会」委員		
2010年	日本薬学会・年会問題検討委員会委員		
2011年～2012年	日本薬学会・薬学教育委員会協力委員		
2015年～	日本生化学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 生化学 1	職名 教授	氏名 中林 利克
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年4月1日	講義は重要な語句等を除いたプリントを配布し、不足部分を見つけで書かせ理解力を深めた。復習のため学生同士で話し合いをするSGDを取り入れ、授業アンケートで理解しやすい授業との評価を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年4月1日	薬学科の講義である基礎生物、生化学などの4科目については重要な語句等を除いたパワーポイントのプリント教材作成、薬学科の実習である生体成分と免疫を調べるなど3実習では実習書を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成27年3月28日	平成26年4月に設立された薬学教育推進センターの5名の教員は1～3年次の薬学基礎科目について習熟度別授業を実施し、その成果を日本薬学会第135年会で5演題を発表し多くの聴衆から質問を受けた。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年4月1日 平成27年12月9日	基礎生物など3科目は習熟度別授業を実施し上位クラス担当であるが、下位クラス担当者と常に打合せし同一の授業内容としている。下位クラスの確認テストもネットで公開し両クラスで共有している。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
21世紀の考える薬学微生物学(第3版)	共著	平成23年8月	廣川書店
スタンダード薬学シリーズ4 生物系薬学 IV. 演習編	共著	平成23年6月	東京化学同人
キャンベル・ファーレルの生化学(第6版)	共著	平成22年12月	廣川書店
St. John's Wort Promotes Adipocyte Differentiation and Modulates NF- κ B Activation in 3T3-L1 Cells.	共著	平成26年7月	Biol Pharm Bull. Vol37, No. 7
Enzymatic and structural characterization of an archaeal thi amin phosphate synthase.	共著	平成26年3月	Biochim. Biophys. Acta, Vol. 1844, No4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
低分子量Gタンパク質 Rhes 発現に影響を及ぼす化合物の探索		平成28年3月	日本薬学会第136年会
下級開講科目成績に基づいた成績予測式による習熟度別クラス判定法の評価		平成28年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成9年4月1日～現在	日本薬学会近畿支部委員		
平成24年4月1日～平成26年3月31日	兵庫県薬剤師会理事		
平成27年4月1日～現在	薬学教育評価機構評価実施委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬理学 I 講座	職名 教授	氏名 中村 一基
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年5月～ 2012年3月	要点項目をまとめたプリントを作成しこれを中心に、理解し易い授業を心がけた。教科書は参考書として毎回使用し、学生の集中力を持続させるために板書を多用したが、概ね当初の目的は達成されたものとする。
1. 講義方法		2012年4月～ 2015年5月1日	授業内容をまとめたプリントを全員に配付し、重要項目については板書を多用した。教科書は毎回使用し、特に薬物の構造式に視覚から馴染めるように心掛けた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
1. スタンダード薬学シリーズ6 薬と疾病Ⅱ. 薬物治療 (1) (第2版)		2012年12月10日	東京化学同人、共著
2. 医療薬学最新薬理学第9版		2013年9月20日	廣川書店、共著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2010年12月12日 2011年12月18日 2012年12月9日 2012年12月16日 2013年12月8日 2013年12月15日 2014年12月21日 2014年12月23日 2015年12月13日 2015年12月20日 2015年12月9日	神戸薬科大学OSCE評価者 武庫川女子大学薬学部OSCE評価者 神戸薬科大学OSCE評価者 武庫川女子大学薬学部OSCE評価者 神戸薬科大学OSCE評価者 武庫川女子大学薬学部OSCE評価者 武庫川女子大学薬学部OSCE評価者 神戸学院大学薬学部OSCE評価者 神戸薬科大学OSCE評価者 武庫川女子大学薬学部OSCE評価者 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Inhibitory effect of Cordyceps sinensis on experimental hepatic metastasis of melanoma by suppressing tumor cell invasion	共著	2010年9月	Anticancer Res, 30, 3429-3434
Effect of Cordyceps sinensis on TIMP-1 secretion from mouse melanoma cell	共著	2012年1月	Gent Eur J Biol, 7 (1), 167-171
Inhibitory effect of cordycepin on experimental hepatic metastasis of B16-F0 mouse melanoma cells	共著	2013年12月	In Vivo, 27 (6): 729-732
Methyl Vinyl Ketone, a Toxic Ingredient in Cigarette Smoke Extract, Modifies Glutathione in Mouse Melanoma Cells	共著	2014年8月	Chem Pharm Bull, 62 (8): 772-778
Anticancer and antimetastatic effect of cordycepin, an active component of <i>Cordyceps sinensis</i>	共著	2015年1月	J Pharmacol Sci, 127 (1): 53-56

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
マウス大腸癌（Colon-26）細胞を用いた経脾肝転移モデルに対するニコチン・タール除去タバコ煙水抽出物（CSE）の影響	2015年3月	日本薬学会第135年会
質量分析法を用いたタバコ煙中の有害物質 α , β -不飽和カルボニル化合物に暴露された細胞のグルタチオンによる解毒機構の解明	2015年3月	日本薬学会第135年会
がん抑制遺伝子 Pcd4 の Matrix metalloproteinase-2 に対する影響	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
マウスメラノーマ細胞の転移能とがん抑制遺伝子 Pcd4 発現量の関係	2016年3月	日本薬学会第136年会
血小板凝集抑制薬クロピドグレルのがん転移抑制薬としての可能性について	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成22年4月～現在	日本薬理学会学術評議員	
平成22年10月～現在	高血圧関連疾患モデル学会評議員	
平成22年10月～平成24年9月	日本薬理学会代議員	
平成22年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員	
平成22年7月～平成26年7月	日本薬理学会 Journal of Pharmacological Sciences 誌 Editorial Advisor	
平成23年2月～平成25年1月	日本薬学会代議員	
平成23年4月～平成27年3月	薬剤師試験委員	
平成24年4月～平成27年3月	日本薬学会学術誌編集委員	
平成26年12月～現在	科学研究費委員会専門委員	
平成26年9月～現在	日本薬理学会代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 西川 淳一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 「疾病予防と疫学」における授業方法の工夫		平成27年度後期	パワーポイントを用いて視覚的に分かり易い講義を行うとともに、全講義のスライド印刷物を配布して復習しやすいようにしている。また、項目ごとに演習問題を行い、知識として知っておくべきポイントを明示している。
2 作成した教科書、教材、参考書 食品衛生学 共著 南江堂 衛生薬学-健康と環境 共著 丸善出版		平成23年4月 平成25年3月	第9章「食品を汚染する人為的有害物質と健康被害」を執筆した。 第7章「生態系と地球環境」を執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 第1回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ 薬学実務実習FD FD推進委員会委員		平成23年12月 平成27年12月 平成25年4月～平成28年3月	日本薬学会主催のワークショップに参加し、学習成果基盤型教育について議論した。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD 大学全体のFD推進委員会にメンバーとして参画し、教育方法の向上について議論した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Identification of retinoic acid receptor agonists in sewage treatment plants.	共著	平成21年9月	Environ. Sci. Technol., vol. 43, p6611-6616
Inositol phosphate kinase Vip1p interacts with histone chaperone Asfp1 in <i>Saccharomyces cerevisiae</i> .	共著	平成24年4月	Mol. Biol. Rep., vol. 39, p4989-4996
Effect of lipopolysaccharide on the xenobiotic-induced expression and activity of hepatic cytochrome P450 in mice.	共著	平成24年4月	Biol. Pharm. Bull., vol. 35, p473-480
Different expression patterns of hepatic cytochrome P450s during anaphylactic or LPS-induced inflammation.	共著	平成26年2月	Pharmazie, vol. 69, p142-147
A mollusk retinoic acid receptor (RAR) ortholog sheds light on the evolution of ligand binding.	共著	平成26年11月	Endocrinology, vol. 155, p4275-4286
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
PM2.5の水溶性成分が免疫細胞に及ぼす影響		平成27年3月	日本薬学会第135年会
Niemann-Pick病TypeCの病態モデルNpc1欠損細胞における6-O- α -maltosyl- β -cyclodextrinの取込みとエンドサイトーシス経路の解析		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～平成27年3月	日本内分泌攪乱化学物質学会評議員		
平成23年4月～平成26年3月	日本薬学会BPP誌編集委員		
平成25年4月～平成27年3月	日本薬学会近畿支部幹事		
平成27年4月～	日本化学工業協会LRI学術諮問会議委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬化学 I	職名 教授	氏名 西出 喜代治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年～	1. 双方向型の授業実施 小テストを実施し学生の理解度を確認するとともに、医薬品の構造、名称、薬効に関するレポートを提出させ、さらに添削して返却することで、双方向型の授業を実施した。また、実習終了時に毎回全学生対象に口頭試問をし、必要に応じて説明を追加するなど、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した。
		2014年～	2. マルチメディアを利用した授業実施 パワーポイント、液晶プロジェクター等を積極的に活用して、薬学への招待において、医薬品開発の歴史に関する講義を実践し、理解の助けとした
2 作成した教科書、教材、参考書			
① 『基礎有機化学問題集』		2014年	化学結合と分子構造について著作・解説し、全体の編集を行った。作成した演習問題、練習問題を通して、学生自らが、考え理解することを目的とした問題集を作成した。
② 『パートナー医薬品化学』改訂第2版		2012年	脂肪族関連医薬品について、著作・解説した。
③ 『有機医薬品合成化学』-ターゲット 分子の合成-		2011年	有機化学反応の中の重要な反応である転位反応について、代表的な反応例を解説した。また、「薬剤師と有機合成化学」と題した章で、2010年度ノーベル化学賞のクロスカップリング反応、および生体分子と化学反応について解説した。本書の全体を編集した。
④ 『化学構造と薬理作用』-医薬品を化学的に読む-		2010年	医薬品に含まれる複素環の構造と反応性、医薬品のコンポーネント、生体内で機能する複素環 を解説し、全体を編集した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
A novel one-step synthesis of benzo[b]furo[3,2-b]pyridines having an amino group at the 4-position from benzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazine	共著	平成25年1月	Heterocycles, 87 (1), 177-191 (2013).
Preparation of benzo[b]furans having five-membered heterocycles at the 2-position and 2-(4-alkylcarbamoylbuta-1,3-dienyl)benzo[b]furans, and their cysteinyl leukotriene receptor (cysLT1, cysLT2) inhibitory activity	共著	平成24年11月	Chem. Pharm. Bull. 60, 1461-1467 (2012).

Preparation of novel (Z)-4-ylidenebenzo[b]furo[3,2-d][1,3]oxazines and their biological activity	共著	平成21年	Bioorg. Med. Chem. 17, 3959-3967 (2009).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Studies on a novel 4-aminopyridines formation reaction via the ring transformation of oxazine derivatives		平成26年9月	24th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry (FJS 2014), Lyon, France
イミダゾリウム構造を持つ新規キラルリガンドに関する研究		平成26年3月	日本薬学会第134年会、熊本
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～	日本薬学会近畿支部委員		
平成23年4月～平成26年3月	Chem. Pharm. Bull. & Biol. Pharm. Bull. & 薬学雑誌 編集委員 (日本薬学会)		
平成24年4月～平成26年3月	日本学術振興会科学研究費審査会 委員 (第二部会医師薬学 I 小委員会)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬品分析学	職名 教授	氏名 松永 久美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 双方向解説・演習問題の配布		～現在	各ポイント毎に復習をしたうえで、学生に質問をし理解度を深めてもらえるように工夫している。問題を与えて机間循環のうえ解説をしている。重要なポイントは、プリントを作り、講義中にその場で注意を促し説明するようにしている。演習問題を配布し問題を解かせることにより、理解度が深められるように考慮している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年4月	日本薬局方の中で薬品分析法に関する項目についてまとめた。日本薬局方改正に伴い、5年毎に教科書の改正を行う。
化学物質の検出と定量		2011年4月	「薬学化学」で使用する内容をまとめた。
薬学の基礎としての化学(薬学化学Ⅰ)		～現在	3年で行う分析化学実習(液体クロマトグラフィ、固相抽出、定量法の基礎)方法をまとめた。
「物質を解析する」 実習書		～現在	3年で行う当実験方法をまとめた。
「分析化学実験」 実習書		～現在	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記すべき事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2012年～2015年	定性分析(系統分析)実験で「試料溶液中のイオンを調べてみよう。」をテーマに実習指導した。
SSH科学演習実験Ⅲ(武庫川女大付属高3年対象)		2015年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
薬学実務実習FD			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
パートナー 分析化学Ⅰ 改訂第2版	共著	2012年3月	南江堂
Interaction of cepharanthine with immobilized heat shock protein 90 α (Hsp90 α) and screening of Hsp90 α inhibitors.	共著	2013年1月	<i>Anal. Biochem.</i> , 434, 202-206
Preparation of monodisperse curcumin-imprinted polymer by precipitation polymerization and its application for the extraction of curcuminoids from <i>Curcuma longa</i> L.	共著	2013年5月	<i>Anal. Bioanal. Chem.</i> 405, 6555-6561
Separation of enantiomers on chiral stationary phase based on chicken α_1 -acid glycoprotein: effect of silica particle diameters on column performance.	共著	2014年7月	<i>J. Chromatogr. A</i> 1363, p96-100
薬学分析化学	共著	2015年1月	廣川書店
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ニワトリ α_1 -酸性糖タンパク質を固定化した充填剤による光学分割: シリカ粒子とコアシェルシリカ粒子の比較	共著	2015年3月	日本薬学会第135年会
安息香酸およびその塩置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価	共著	2015年9月	日本分析化学会第64年会
ヒト血清アルブミンを固定化した充填剤による光学分割: 固定化法の光学認識能に対する影響	共著	2016年3月	日本薬学会第136年会
カフェイン酸フェネチルエステルに対する分子インプリントポリマーの調製と応用	共著	2016年3月	日本薬学会第136年会
安息香酸およびその置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価: 置換基が分子認識能に与える影響	共著	2016年3月	日本薬学会第136年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
日本薬学会 会員	1979年～
日本生化学会 会員	1980年 ～ 2014年
日本農芸化学会 会員	1985年～
日本分析化学会 会員	1996年～
クロマトグラフィー科学会議 会員	1998年～

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
「やさしい臨床医学テキスト」第3版	共著	2014年3月	薬事日報社 p321-334
「ベーシック薬学教科書シリーズ19 薬物治療学」	共著	2009年6月	化学同人 p237-263, p264-289, p317-329
Factors related to prevalence of hallux valgus in female university students: a cross-sectional study	共著	2014年4月	J. Epidemiol. 24, 200-208
Caffeic acid phenethyl ester suppresses oxidative stress in 3T3-L1 adipocytes	共著	2013年11月	J. Asian Nat. Prod. Res., 1189-1196.
Effects of Long-Term Oral Administration of Arachidonic Acid and Docosahexaenoic Acid on the Immune Functions of Young Rats	共著	2013年5月	Nutrients, 5, 1949-1961
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ラット脳アストログリア細胞を用いた脳卒中発症因子の探索ー硫化水素の関与ー		2015年3月	日本薬学会 第135年会
脳卒中易発症ラット（SHRSP/1zm）における脳内硫化水素産生酵素（cystathionine β -synthase（CBS））の生理機能に関する研究		2015年10月	第51回高血圧関連疾患モデル学会
III 学会および社会における主な活動			
2007年～現在	島根大学医学部非常勤講師		
2007年～現在	高血圧関連疾患モデル学会 評議員		
2008年～現在	兵庫県立大学大学院非常勤講師（看護学部）		
2010年～2011年	医道審議会薬剤師分科会 薬剤師国家試験出題基準改訂部会委員		
2011年～2012年	公益社団法人 日本薬学会代議員		
2013年4月～現在	薬剤師国家試験出題委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 森山研究室	職名 教授	氏名 森山 賢治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年5月1日	立体的な体組織、器官の構築の理解がなされるようにパワーポイント、ビデオ、レジメ資料を利用して理解を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書 common diseaseの病態生理と薬物治療、オーム社 新しい機能形態学、廣川書店 内分泌薬学 改訂版、エルゼビア・ジャパン 最新内分泌代謝学 診断と治療社 薬害・副作用学、南山堂		印刷中 2015年8月31日 2013年3月30日 2013年3月27日 2013年8月5日	common diseaseの病態生理と薬物治療を概説 解剖生理学について薬学部生向けに詳述した。 内分泌領域の疾患の病態と治療を概説した。 内分泌領域の病態生理を概説した。 内分泌領域に要する薬剤の副作用を概説した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 薬学実務実習FD 招待講演「糖尿病治療の現状とこれから」 食の博覧会in大阪食育アカデミー「医食同源」		2015年12月9日 2014年10月26日 2013年5月6日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD 糖尿病の病態と治療を概説した。 食事内容が健康と病態に及ぼす影響を概説した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・ 号数) 等の名称
(田上哲也編) 甲状腺疾患診療マニュアル	共著	2014年1月	改訂第2版、診断と治療社
成長ホルモン/インスリン様成長因子-1のエネルギー代謝 制御における分子基盤の解明	共著	2014年8月	成長科学協会 37号
Molecular characterization of human thyroid hormone receptor β isoform 4	共著	2015年10月	Endocr Res. 29:1-9.
Cinnamaldehyde represses insulin resistance through activation of PPAR δ , PPAR γ and RXR	共著	2015年7月	Am J Chin Med. 43(5)
Factors associated with outcome after combined steroid and orbital radiotherapy on Graves'	共著	2013年7月	Endocrinology Studies, 3:e6.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
合成活性型ビタミンD3の薬効に関する基礎的検討.		2015年4月	日本内分泌学会学術総会
エネルギー代謝における活性型ビタミンD3の作用機序の検討		2015年4月	日本内分泌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～平成27年5月	日本内分泌学会評議員		
平成15年4月～平成27年5月	日本甲状腺学会評議員		
平成15年4月～平成27年5月	京滋臨床甲状腺懇話会世話人		
平成5年4月～平成27年5月	日本糖尿病学会学会員、日本分子生物学学会学会員、日本東洋医学会学会員、日本神経内分泌学会学会員、日本肥満学会学会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名	職名：教授	氏名：谷本 敏子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		～現在	できるだけ教科書に沿った授業を行い、各章が終わる毎に確認のための演習問題を行い、学生のモチベーションを高めている。演習には国家試験の過去問題も多く取り入れるようにしている。私語は皆無の状態にし、学生の講義への集中力を高めている。また、氷はなぜ水に浮くのか(水素結合)、酸性硫黄泉に長湯をしてはいけないのか(H ₂ S)、錆はどうしてできるのか(溶解度積)、乾燥剤のシリカゲルの青粒は何か(CoCl ₂)、石けんでどうして汚れが落ちるのか(疎水性相互作用)等、折に触れて生活の科学、すなわち日常生活を科学の目で見て欲しいと思いを話している。
2 作成した教科書、教材、参考書		～現在	物質の特性を調べる
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		～現在	物理化学実験
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
		2014. 12. 21	武庫川女子大学薬学部OSCE評価者
		2014. 8	オープンキャンパス(ラボツアー)
		2015. 12. 9	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Preparation, characterization, and biological evaluation of 6I, 6IV-di-O-[α -L-fucopyranosyl-(1-6)-2-acetamido-2-deoxy- β -D-glucopyranosyl]-cyclomaltoheptaose and 6-O-[α -L-fucopyranosyl-(1-6)-2-acetamido-2-deoxy- β -D-glucopyranosyl]-cyclomaltoheptaose	共著	平成23年	Carbohydr. Res., 346 (2011) 1792-1800.
Preparation of branched cyclomaltoheptaose with 3-O- α -L-fucopyranosyl- α -D-mannopyranose and changes in fucosylation of HCT116 cells treated with the fucose-modified cyclomaltoheptaose	共著	平成25年	Carbohydr. Res., 374 (2013) 49-58.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
リン脂質蓄積による薬物の毒性低下効果の評価とHPLC-MS/MSの適用		2015年3月	日本薬学会 第135年会
III 学会および社会における主な活動			
～現在	日本糖質学会評議員		
～現在	日本応用糖質科学会近畿支部幹事		
～現在	シクロデキストリン学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 病態生理学研究室	職名 准教授	氏名 奥田 浩人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	平成21年5月 ～	「疾病と薬物治療Ⅲ・Ⅴ」 講義型授業を主体とするが、問題演習やまとめ については質疑を行う双方向授業を取り入れた。 授業アンケート結果等も参考にして、疾病全体 について総合的な理解を深められるように毎年 改良を加えた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 （著書）ベーシック薬学教科書シリーズ19 薬物治療学 第5刷	平成26年3月	薬学生が身につけておかなければならない知識 および臨床能力を高めるために分担執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年4月 ～ 平成26年5月 平成27年12月	武庫川女子大学附属高校SSH生徒研究の指導 兵庫県生きがい創造協会 阪神シニアカレッジ講師 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
ベーシック薬学 教科書シリーズ19	共著	平成26年 3月	(株) 化学同人
動眼および滑車神経麻痺をきたした 帯状疱疹の1例	共著	平成21年10月	皮膚科の臨床 51巻10号
Caffeic acid phenethyl ester inhibits differentiation to adipocytes in 3T3-L1 mouse fibroblasts.	共著	平成22年 9月	Biol. Pharm. Bull. vol.33 No.9
Caffeic acid phenethyl ester suppresses the production of adipocytokines, leptin, tumor necrosis factor -alpha and resistin, during differentiation to adipocytes in 3T3-L1 cells.	共著	平成23年 4月	Biol. Pharm. Bull. vol.34 No.4
Factors Related to Prevalence of Hallux Valgus in Female University Students: A Cross-Sectional Study	共著	平成26年 4月	J. Epidemiol. vol.24 No.3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
炎症性抗がん剤漏出による皮膚壊死の1例 （炎症性抗がん剤漏出時の対応の検討）		平成28年 2月	日本皮膚科学会 第453回大阪地方会
III 学会および社会における主な活動		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬理学 2	職名 准教授	氏名 籠田 智美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年4月～現在	[ヒトの成り立ちと機能調節] 講義の始めに、前回講義の内容を復習し知識定着を図り、導入として今回の講義内容を学ぶ意味を説明することで学習目的を意識させた。講義には、教科書、まとめプリントや教科書及びプリントに基づく視聴覚教材を使用し、講義のポイントを理解できるよう心がけた。配布プリントには演習問題を掲載し、復習に利用し知識確認するよう指導した。評価は、試験期間中の試験により行ったが、2012年度から講義中に実施する小テストも加味して行った。	
	2010年9月～現在	[生体の機能調節と情報伝達] 講義始めに解剖学(関連科目)の復習を取り入れ、スムーズに講義に入れるよう心がけた。病態や薬物治療に結びつく生理現象の具体例をあげて説明し、個別の知識の暗記ではなく流れ全体を把握して理解することを意識させるよう心がけた。講義は、教科書、プリントおよび視聴覚教材を使用し、ポイントが理解できるよう工夫した。また、確認問題を配布し、復習するよう指導した。練習問題を学生間で討論させ確認し合う演習講義を実施した。評価は、試験期間中の試験により行ったが、2012年度から講義中に実施する小テストも加味して行った。	
	2010年4月～現在	[実習] 自分の言葉で説明できる能力の習得を目指し、実習はできる限り少人数の班単位で実施し、始めに知識確認を学生相互に行わせ、次いで教員による口頭試問を実施した。成績評価に口頭試問を取り入れることにより、学生の主体性を引き出すよう努めた。また、実習レポートを提出させ、不十分な場合は再提出させ、正確な知識の習得に繋がるよう努めた。評価は、実習に取り組む姿勢や手技の修得度、口頭試問、実習レポートを総合的に判断して行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年4月～現在	[教材]講義「ヒトの成り立ちと機能調節」に使用(25頁)	
	2010年4月～現在	[教材]講義「生体の機能調節伝達」に使用(45頁)	
	2010年4月～現在	[教科書]実習「基礎薬学実験」に使用(8頁)	
	2010年4月～現在	[教科書]解剖生理学関連の実習に使用(66頁)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年3月	解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響(日本薬学会第135年会、共同演者)	
	2016年3月	薬理学領域理解度に対する解剖生理学教育の影響(日本薬学会第136年会、共同演者)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Telmisartan provides protection against development of impaired vasodilation independently of metabolic effects in SHRSP.Z- <i>Lepr^{fa}</i> /IzmDmcr rats with metabolic syndrome	共著	2011年5月	Canadian Journal of Physiology and Pharmacology. 2011; 89: 355-64.
Preserved arterial vasodilation via endothelial protease-activated receptor-2 in obese type 2 diabetic mice	共著	2011年7月	British Journal of Pharmacology. 2011; 164: 358-71.
Abnormal amount of intracellular calcium regulatory proteins in SHRSP.Z- <i>Lepr^{fa}</i> /IzmDmcr rats with metabolic syndrome and cardiac dysfunction	共著	2013年2月	Canadian Journal of Physiology and Pharmacology. 2013; 91: 124-33.
Chronic oxidative-nitrosative stress impairs coronary vasodilation in metabolic syndrome model rats	共著	2013年7月	Microvascular Research. 2013; 88: 70-8.
Disturbance of vasodilation via protease-activated receptor 2 in SHRSP.Z- <i>Lepr^{fa}</i> /IzmDmcr rats with metabolic syndrome	共著	2014年10月	Vascular Pharmacology. 2014; 63: 46-54.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
プロテアーゼ活性化型受容体2（PAR2）とメタボリックシンドローム		2015年3月	第88回日本薬理学会年会
メタボリックシンドロームにおける動脈と血管周囲脂肪組織との機能関連		2015年3月	日本薬学会第135年会
A Maternal High Salt Diet During Pregnancy and Lactation Affects Offspring Cardiac Function		2015年9月	Council on Hypertension 2015 Scientific Sessions
メタボリックシンドロームの血管周囲脂肪組織が動脈拡張能に及ぼす影響-週齢差及び部位特異性-		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会
メタボリックシンドロームラットにおける加齢に伴う酸化ストレスの増加：プロテアーゼ活性化型受容体-2を介した血管弛緩反応への影響		2016年3月	第89回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2004年～現在	日本薬理学会 評議委員		
2014年～現在	アスピオファーマ株式会社 ヒト由来試料研究倫理審査委員会委員		
2014年～現在	兵庫医科大学病院 臨床研究審査委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬品物理化学	職名 准教授	氏名 黒田 幸弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 「溶液の性質」(薬学科2年 後期 1.5単位 必須) 「生体の状態」(薬学科3年 後期 1.5単位 選択)	平成27年後期 平成27年後期	eラーニング教材(スライド, テスト)の提供 毎講義前の論述式ミニテストの実施	
2 作成した教科書、教材、参考書 医薬品分析化学	平成25年9月	共著, 京都廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 電子教材を用いた基礎化学熱力学の授業設計 電子教材を用いた繰返し学習の効果ー基礎化学領域における計算能力についてー	平成23年12月 平成22年12月	武庫川女子大学情報教育研究センター年報2010 武庫川女子大学情報教育研究センター年報2009	
4 その他教育活動上特記すべき事項 第80回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿タスクフォース 薬学実務実習FD	平成27年10月 平成27年12月	P会場責任タスクフォースとして参加 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Putative biomarker for phospholipid accumulation in cultured cells treated with phospholipidosis-inducing drugs: Alteration of the phosphatidylinositol composition detected using high-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry	共著	平成26年9月	J. Chromatogr. B, 967
Phospholipid-Modified ODS Monolithic Column for Affinity Prediction of Hydrophobic Basic Drugs to Phospholipids	共著	平成26年2月	Chromatographia, 77
Maintenance of luminal pH and protease activity in lysosomes/late endosomes by vacuolar ATPase in chlorpromazine-treated RAW263 cells accumulating phospholipids	共著	平成26年2月	Cell Biol. Toxicol., 30
Improved capillary electrophoresis method for the analysis of carbohydrate-deficient transferrin in human serum, avoiding interference by complement C3	共著	平成25年1月	J. Pharm. Biomed. Anal., 76
Role of bis(monoacylglycero)phosphate in propranolol binding to phospholipid membranes under acidic conditions as measured by high-performance frontal analysis/capillary electrophoresis	共著	平成24年10月	Electrophoresis, 33
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
LC-MS/MSを用いたホスホリピドーシス誘発能新規スクリーニング法の開発		平成28年3月	日本薬学会 第136年会
リン脂質による塩基性両親媒性薬物の毒性減弱効果と、バイオマーカーによるその効果の検出		平成27年5月	第22回クロマトグラフィーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
平成24年11月～	第32回キャピラリー電気泳動シンポジウム実行委員		
平成24年11月～	日本分析化学会電気泳動研究懇談会委員		
平成25年11月～	クロマトグラフィー科学会議評議員		
平成25年11月～	Chromatography誌編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床薬学教育センター	職名 准教授	氏名 栗原 晶子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について ・授業方法の工夫	平成21～26年度 平成21年度 ～現在に至る	・薬剤師の活躍分野をみるⅠ(1年次) ・病院・薬局へ行く前に(4年次) ・医薬品情報の活用(4年次) ・コミュニケーション論(4年次) ・プレファーマシー実習Ⅰ(4年次) ・プレファーマシー実習Ⅱ(4年次) (講義科目) ・補足説明用補助プリントを作成した。 ・実例や自身の体験事例を折込み、医療現場を知らない学生がイメージしやすいよう意識した。 ・授業アンケートでは、補助プリントや実例を交えた解説が好評であった。 (実習科目) ・写真や図を用い、手技のポイントを詳細に解説した実習書を作成した。 ・少人数グループ制で指導した。 ・毎回の実習終了時に学生同士の相互チェックや教員による個別チェックを行い、改善点等をフィードバックし、個々の理解・習得度を確認した。 ・実習終了時に実技試験を行い、改善点等を個々にフィードバックした。 ・学生同士・教員による個別チェックによって自らの習得度を確認できたと、学生の満足度を得ることができた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 (1)実務実習事前学習のための調剤学計算ドリル(柴崎正勝、赤池昭紀、橋田充監修、栄田敏之編集)廣川書店 (2)医薬品情報学(柴崎正勝、赤池昭紀、橋田充監修、栄田敏之、橋詰勉編集)廣川書店 (3)ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション(日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会監修、後藤恵子、井手口直子編)南山堂	平成22年3月 平成23年1月 平成26年4月	計数調剤、計量調剤、注射剤調剤における調剤量計算力を身につける演習用ドリルを分担執筆した。 薬学教育モデル・コアカリキュラムC15(薬物治療に役立つ情報)に関する教科書を分担執筆した。 新薬学教育モデル・コアカリキュラム(2015年度施行)の内容を含む書籍を分担執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1)実務実習事前学習の実施方法の評価及び教育効果～学生に対するアンケート調査を基に～(日本薬学会第130年会) (2)実務実習事前学習の支援を目的とした動画配信システムの構築とその効果(日本薬学会第130年会) (3)武庫川女子大学における長期実務実習に関するアンケート調査(日本薬学会第131年会) (4)注射剤無菌調製の実務実習直前講習による教育効果(日本薬学会第131年会) (5)平成22年度武庫川女子大学長期実務実習に関するアンケート調査(第21回日本医療薬学会年会) (6)薬学部6年制実務実習・本学における薬学教育(第55回ファーマシューティカル・ケア研究会)	平成22年3月 平成22年3月 平成23年3月 平成23年3月 平成23年10月 平成23年10月	本学の実務実習事前学習について、教育効果を検討した。 本学の実務実習事前学習の支援を目的として作成した動画配信システムについて、教育効果を検討した。 本学の実務実習について、教育効果および問題点を検討した。 注射剤無菌調製の手技修得を目的とした直前講習の教育効果を検討した。 本学の実務実習について、教育効果および問題点を検討した。 本学の実務実習事前学習の実施状況を報告した。	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年1月～現在に至る 平成22年12月～現在に至る 平成26年5月 平成26年5月 平成26年8月 平成26年9月 平成26年11月 平成27年12月	一般社団法人日本医療薬学会認定薬剤師 (第13-08-0025号) 一般社団法人日本医療薬学会指導薬剤師 (第13-10-2016号) FDワークショップ「私たちが養成すべき薬剤師とは? - outcomeからカリキュラムを考える -」 (学内; 参加) 第99回薬剤師国家試験問題検討委員会実務部会 (出席) 第73回薬剤師のためのワークショップin近畿 (事務局として参加) 第74回薬剤師のためのワークショップin近畿 (タスクフォースとして参加) 文部科学省平成26年度大学における医療人養成推進等委託事業「医療人養成としての薬学教育に係る教材や教育方法の開発に関する調査研究」教育者ワークショップ(参加) 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Advances in Medicine and Biology	共著	平成25年	Nova science publishers volume 63; 83-106 (2013)
Replacement of cisplatin with nedaplatin in a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma.	共著	平成21年6月	Int. J. Med. Sci 6(6):305-311 (2009)
Effect of dose-escalation of 5-fluorouracil on circadian variability of its pharmacokinetics in Japanese patients with Stage III/IVa esophageal squamous cell carcinoma.	共著	平成22年1月	J. Med. Sci. 7(1):48-54 (2010)
TNFRSF1B A1466G genotype is predictive of clinical efficacy after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma.	共著	平成22年	J. Exp. Clin. Cancer Res. 29: 100 (2010)
Effects of plasma concentrations of 5-fluorouracil on long-term survival after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma.	共著	平成23年	J. Exp. Clin. Cancer Res. 30: 94 (2011)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
全自動錠剤ハーフカッターカセット導入効果に関する検討		平成27年3月	日本薬学会第135年会
抗精神病薬の脂質生成に関与する転写因子への影響		平成27年3月	日本薬学会第135年会
簡易懸濁法における経腸栄養剤併用時の医薬品の安定性		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～現在に至る	日本アブライド・セラピューティクス学会評議員		
平成25年度～現在に至る	一般社団法人日本医療薬学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床薬学教育センター	職名 准教授	氏名 豊原 朋子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年4月～	担当科目の授業では、教科書以外に理解を助けるためにプリントを配布。また、実習科目では授業の中に小グループ討論、発表会を設け、相互理解を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年4月～	担当する実務実習科目の実習書の作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年7月8日 平成26年7月10日 平成27年12月9日	担当科目の「薬剤師の活躍分野をみるⅠ」の全体発表会はFD対象授業とされ、学生相互・学生と教員間での質疑応答形式とし相互理解を深めた。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 抗精神病薬の脂質生成に関与する転写因子への影響		平成27年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
～現在	日本病院薬剤師会会員		
～現在	日本医療薬学会会員		
～現在	日本薬学会会員		
平成23年5月～	日本糖尿病学会会員		
平成25年4月～	兵庫県立こども病院治験審査委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬剤学	職名 准教授	氏名 中瀬 朋夏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 双方向型の授業実施 コンピューターを利用した授業実施	平成22年4月～現在 平成22年5月～現在	授業において小テストを実施し、解答については学生に発表する機会を与え、双方向対話形式で行った。 グラフの作成と統計解析の理解を深めるために、表計算ソフトエクセルを用いた講義を実践した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 統計学教材	平成22年4月～現在	統計学の知識を数学嫌いでも身につけることができるよう、本学学生のニーズにあったオリジナルの練習問題を含むプリントおよび資料を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 高校への模擬授業の実施 薬剤師のためのワークショップin近畿 薬学実務実習FD	平成22年4月～現在 平成22年4月～現在 2015年12月9日	薬学への招待とのテーマで、学部学科別模擬授業を担当した。 タスクフォースとして活動した。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
乳がん細胞の悪性化進展における亜鉛トランスポーターの役割	共著	2013年4月	医学のあゆみ 医歯薬出版株式 会社 第245巻1号 (2013) 64-8
Migration behavior of breast cancer cells in the environment of high glucose level and the role of zinc and its transporter	単著	2013年11月	Yakugaku Zasshi 133 (2013) 1195-9.
High Glucose Level Promotes Migration Behavior of Breast Cancer Cells through Zinc and Its Transporters	共著	2014年2月	PLoS One 9 (2014) e90136.
CXCR4 stimulates macropinocytosis: implications for cellular uptake of arginine-rich cellpenetrating peptides and HIV	共著	2012年11月	Chemistry & Biology 19 (2012) 437-46.
Transcutaneous immunization system using a hydrotropic formulation induces a potent antigen-specific antibody response	共著	2012年10月	PLoS One 7 (2012) e47980.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
亜鉛トランスポーターと乳がんの悪性化進展		2015年8月	第11回近畿亜鉛栄養治療研究会
既存医薬品を用いたトリプルネガティブ乳がんの新規治療戦略		2016年3月	日本薬学会第136年会
ヒト乳がん細胞の運命を支配する亜鉛トランスポーターと亜鉛イオン		2016年3月	日本薬学会第136年会
トリプルネガティブ乳がんの低酸素環境適応性とNa ⁺ /H ⁺ 交換輸送体NHE1の役割		2016年3月	日本薬学会第136年会
漢方製剤の機能向上-精油成分を高含量含む漢方製剤の調製-		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年6月～現在	日本薬学会医療薬科学部会 若手世話人		
平成26年4月～現在	文部科学省科学技術政策研究所 専門調査員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 衛生化学	職名 准教授	氏名 山下 沢
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義の工夫		平成27年4月1日	スライドを用いた講義と、各回の内容に準じた国家試験の過去問を選出し、解説を行った。また毎回の最初には前回までのすべての復習を入れ、反復学習の重要性を意識させた。さらに、3~4回に1回の頻度で学生にアンケートを実施し、修正すべき内容などをそれ以降の講義へと反映させ、学生の理解度向上に努めるよう工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書 教材の作成		平成27年4月1日	講義内容を15回に分け、各回に該当する内容をプリントおよびスライドのファイルとして配布した。さらに、該当する内容に関する過去の国家試験問題を過去10年分まで網羅的に抽出し、最近の出題傾向なども分かるように、出題範囲毎にまとめて、教材であるプリントの最後に付記した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学実務実習FD		平成27年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Membrane anchor of cytochrome P450 reductase suppresses the uncoupling of cytochrome P450	共著	平成27年4月	Chem. Pharm. Bull., 63, 286-294
Dynamics of the heme-binding bacterial gas sensing dissimilative nitrate respiration regulator (DNR)	共著	平成26年7月	J. Biol. Chem., 289, 26514-26524
Ferric human neuroglobin scavenges superoxide to form oxy adduct	共著	平成26年6月	Chem. Pharm. Bull., 62, 613-615
Disulfide bonds regulate binding of exogenous ligand to human cytoglobin	共著	平成26年3月	J. Inorg. Biochem., 135
Effect of cytochrome P450 2C19 and 2C9 amino acid residues 72 and 241 on metabolism of tricyclic	共著	平成26年2月	Chem. Pharm. Bull., 62, 176-181
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
サイトグロビンの配位子結合性に対する両末端領域の役割		平成28年3月	日本薬学会 第136年会
Roles of N- and C-terminal domains in the ligand binding properties of cytoglobin		平成27年12月	Pacificchem 2015
サイトグロビンの配位子結合性に対する両末端アミノ酸残基の役割		平成27年9月	第65回 錯体化学討論会
Spectroscopic analyses of drug-drug interaction in cytochrome P450 3A4		平成27年5月	第25回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム
Complex formation of cytochrome P450 and lipid bilayer nanodiscs for evaluation of drug metabolism		平成27年5月	第25回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
各種学会会員	日本薬学会、日本生物物理学会、蛋白質科学会、The Society of Biological Inorganic Chemistry		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 山本研究室	職名 准教授	氏名 山本いづみ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
いずれの科目でも、わかりやすい言葉で説明し、練習問題の配布等により「自分で解く」ことを主としている			
・初期演習(前後期):1年担任として初年次教育	平成26年度		レポート課題や発表を通じ自ら学ぶ、互いに教え合う環境を作る。今後の継続が課題
・物質の変化[物理化学Ⅰ](1年後期):反応速度論	平成18年度～		手を動かして学ぶこと、基礎科目の重要性を認識させる。評価(平均 3.63/5)
・薬学基礎演習Ⅱ(1年後期:共担)	平成27年度～		「自分で解く・教え合う」ことを目標。大多数の学生の評価は良好。意識の低い学生の対応が課題
・溶液の性質(2年後期:共担):相図・束一性	平成19年度～		平衡の概念を理解させ、身体機能との関連を理解させる。評価(平均 3.59/5)
・物質の特性を調べる(2年後期)	平成19年度～		物理化学的考え方の実践を重視。また実験研究の基礎スキルの習得を目指す。
・生体の状態(3年後期:共担)	平成20年度～		物理化学と医療系科目の橋渡しを目指す。少人数だが好評。評価(平均 4.60/5)
・薬剤師に関する法律と制度(4年前期)	平成17年度～		条文を理解し使えることを目指す。問題の解説は与えず、教科書を読むことを目指す。評価(平均 3.82/5)
・総合演習Ⅰ及びⅡ(共担)	平成21年度～		CBT及び国家試験対策講義のうち、「物理系」、「薬事関係法」を担当
・基礎物理化学(1年後期)	平成18年度～		評価(平均 3.70/5)
・物理化学実験(2年後期共担)	平成19年度～		
・薬学基礎演習(1年後期:共担)	平成22年度～		
・薬事関係法規(4年前期)	平成21年度～		評価(平均 4.00/5)
2 作成した教科書、教材、参考書			
コアカリ対応薬剤学:第3版丸善出版(共著)	平成23年10月15日		薬剤学を一貫した物理化学的手法で説明した教科書
実証薬事関係法規・第2版:京都廣川書店(単著)	平成24年3月2日		薬剤師に必要な法規を、条文の理解とその運用の関連性に主眼をおいて解説した教科書
パザパ薬学演習シリーズ「薬事関係法規」 :京都廣川書店(単著)	平成24年4月1日		薬事関係法規に関する国家試験対策用の問題集
実証薬事関係法規・第3版:京都廣川書店(単著)	平成27年3月23日		薬剤師に必要な法規に関する教科書で旧薬事法の改正に伴い2版の大幅な改訂を行った。
物質の特性を調べる、物理化学実験	平成19年度～		物理系、2年次実習の手順書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成23～ 27年年度	CBT対策及び薬剤師国家試験対策委員として
・附属中高薬学入学予定者に対し入学前教育を担当	平成20年度～		4年～6年生における対策講義等の運営と学生対応
・京都大学大学院薬学研究科非常勤講師	平成21年度～		高校化学から大学講義への橋渡しの講義を実施
・共用試験OSCEへの参加	平成21年度～		4年次生に対し薬事関係法規の講義
・第98回薬剤師国家試験問題検討委員会 法規・制度倫理部会を主催	平成25年5月18日		当学及び兵庫県下の大学におけるOSCE評価者
・学内FDのための話題提供	平成26年5月		「法規・制度・倫理」教科担当者として毎年会議に参加とともに、会議を開催
			「学生の学力と国家試験結果」に関する分析

・高校模擬講義 ・薬学共用試験CBTモニター委員 ・薬学実務実習FD	平成23・24・27年 平成27年度 平成27年12月9日	高校化学から大学講義への橋渡しの講義を実施 大阪薬科大学のCBTのモニター 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成2年～	日本薬学会一般会員		
平成17年5月～	日本化学会一般会員		
平成17年12月～平成19年12月	兵庫県薬事審議委員		
平成21年4月～	日本教育工学会一般会員		
平成21年5月～	日本医学教育学会一般会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
昭和60年4月～現在に至る	日本薬学会会員	
平成4年4月～現在に至る	日本薬剤師会会員、日本病院薬剤師会会員	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床薬学教育センター	職名 准教授	氏名 政田啓子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目および授業方法の工夫等について	2012年4月～ 現在に至る	4年次科目「プレファーマシー実習Ⅰ及びⅡ」を担当 調剤、服薬指導、疑義照会等について基本的知識、技能、態度を習得できるよう、教員一人当たりの学生数を少なくし、修得度は1対1チェックにより確認し、個別にフィードバックしている	
	2012年4月～ 現在に至る	5年次科目「地域で活動する薬剤師」を担当 ・パワーポイントの使用と同時にその印刷物の配布 ・現場の薬剤師の活動を視覚的に感じ取れるようビデオ、DVD教材の導入	
	2013年4月～ 2015年3月	1年次科目「医療の担い手」を担当 教科書に沿った授業内容としたが、毎回補助プリントを作成して配布	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義用のパワーポイント資料	2012年4月～ 現在に至る	「地域で活動する薬剤師」教科書等の教材を使用しないためすべて作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・第62回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿 ・薬学実務実習FD	2012年8月	実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップに参加	
	2012年8月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
改訂総合版 疾患別設問式 薬剤師に必要な患者ケアの知識	共著	2010年4月	じほう
薬効別 服薬指導マニュアル 第7版	共著	2011年7月	じほう
薬効別 服薬指導マニュアル 第8版	共著	2015年3月	じほう
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
高齢者の服薬アドヒアランス向上と維持のための工夫 ～薬局薬剤師の立場から～		2014年9月	第24回日本医療薬学会
うつ病における薬薬連携 薬剤師の役割と貢献 -薬局薬剤師の取り組み-		2015年11月	大阪府薬剤師会 平成27年度薬薬連携の ための研修会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成20年4月～現在に至る	大阪府薬剤師会学術委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 衛生化学	職名 講師	氏名 岡田安代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成19年9月～ 現在	「健康と環境への影響を調べる」 「予防薬学実験」 毎回、実習項目ごとに、実習講義で知識の確認を行った後に実習を実施している。実習内容は、CBTや薬剤師国家試験で出題頻度の高い内容を多く取り入れ、薬学士および薬剤師として基礎的スキルを修得できるよう工夫している。実習最終日には、衛生薬学に関連した重要な問題についてグループ発表を行うことによって、コミュニケーション、資料作成方法、プレゼンテーション、質疑応答など積極的に討論を行う双方向授業を行っている。	
	平成23年4月～ 現在	「実務実習」 大学での指導、訪問指導、メールならびにweb版実習記録、研究発表会参加などで実施。	
	平成24年1月～ 現在	「放射線の吸収の実験」 放射性化合物の取り扱い、RI施設内での注意点などを実習前に、パワーポイントを使用して、実習内容を理解しやすいように工夫している。密封線源の管理、学生の外部被ばくの管理など、法令上必要な管理を行っている。	
	平成24年4月～ 現在	「栄養と健康」 モデルコアカリキュラムC11(1)に基づいて、講義資料と演習問題を作成し、パワーポイントを使って、講義型授業で行っているが、CBTおよび国家試験において出題頻度の高い項目については、演習問題で学生の理解度を確認するとともに、問題解決に取り組むために質疑応答を行っている。また、講義内容に関連した最近のトピックスなどを紹介し、衛生薬学に興味を抱かせる工夫を行っている。	
	平成27年4月～ 現在	「栄養と予防薬学」 パワーポイントを用いて、視覚的にも解り易いように心掛けている。スライド印刷物と演習問題を配布し、復習しやすいように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成19年9月～ 平成19年9月～	「健康と環境への影響を調べる」実習テキスト 「予防薬学実験」(実習テキスト) 前年度の実習テキストに改良を加え、使いやすい実習テキストの作成を心掛けている。図、表などを多く取り入れ、視覚的にも理解し易いようにしている。	
	平成24年1月～	「放射線の吸収の実験」実習テキスト 毎年、前年度の実習テキストに改良を加え、図、表などを多く取り入れ、視覚的にも理解し易いように心掛けている。特に、RI施設内に入室する前に、RI施設内の様子をパワーポイントで説明し、外部被ばくの軽減に務めている。	

	平成24年4月～ 平成27年4月～	「栄養と健康」講義用資料、演習問題 「栄養と予防薬学」講義用資料、演習問題 毎年、講義に使用する資料は改良し、法改正に対応した最新データを使用している。講義に使用するパワーポイントは、講義室の最後列からでも見えるように、字体、色などに工夫を加えている。スライド印刷物と演習プリントとは別に配布している。演習プリントの内容は、過去にOSCE、国家試験に出題された問題を中心に集め、試験対策を行っている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年～ 平成24年～ 平成27年～ 平成27年～ 平成27年8月14日 平成27年12月	薬学共用試験OSCE評価者、補助(本学、他大学) 放射薬学教科担当委員会議に出席 早期体験学習(薬局、企業見学引率) クラス担任(学生指導) オープンキャンパスにて体験実習実施 テーマ「室内環境について考える」 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Negative and Positive Ion Mode LC/MS/MS for Simple, Sensitive Analysis of Sorbic Acid	共著	平成22年	Chem. Pharm. Bull., 58, 106-109 (2010)
Induction of integrin $\beta 3$ in PGE2-stimulated adhesion of mastocytoma P-815 cells to the Arg-Gly-Asp-enriched fragment of fibronectin	共著	平成23年	Biochem. Pharmacol., 81, 866-872 (2011)
Physicochemical and biological properties of 2-O- α -D-galactosyl-cyclomaltohexaose (α -cyclodextrin) and β -cyclomaltoheptaose (β -cyclodextrin)	共著	平成23年	Carbohydr. Res., 346, 1018-1022 (2011)
Effect of 6-O- α -maltosyl- β -cyclodextrin and its cholesterol inclusion complex on cellular cholesterol levels and ABCA1 and ABCG1 expression in mouse mastocytoma P-815 cells	共著	平成24年	Carbohydr. Res., 357, 68-74 (2012)
Role of lipid raft components and actin cytoskeleton in fibronectin-binding, surface expression, and de novo synthesis of integrin subunits in PGE2- or 8-Br-cAMP-stimulated mastocytoma P-815 cells	共著	平成26年	Biochem. Pharmacol., 88, 364-371 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Niemann-Pick病Type Cの病態モデル、Npc1欠損細胞における6-O- α -maltosyl- β -cyclodextrinの取込みとエンドサイトーシス経路の解析		平成27年3月	日本薬学会
Niemann-Pick病Type Cの病態モデル、Npc1欠損細胞のリソソームへの6-O- α -maltosyl- β -cyclodextrinの取込み		平成27年10月	日本薬学会近畿支部会
Niemann-Pick病C型に対する2-Hydroxypropyl- β -cyclodextrinの作用発現とエンドサイトーシスの関連		平成27年11月	日本薬学会九州支部会
Niemann-Pick病Type Cの病態モデル、Npc1欠損細胞の6-O- α -maltosyl- β -cyclodextrinによるリソソームへの取込みとコレステロールレベルの変化		平成28年3月	日本薬学会
のコレステロール輸送関連遺伝子の発現量変化		平成28年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
昭和51年4月～現在	日本薬学会会員		
昭和55年4月～現在	シクロデキストリン学会会員		
昭和63年4月～現在	日本糖質学会会員		
平成4年4月～現在	日本糖質科学学会会員		
平成18年4月～現在	日本生化学学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床薬学	職名 講師	氏名 山森 元博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 スライドの作成	平成27年5月1日	「病院薬局へ行く前に」の講義をスライドを用いて授業を進めた。また、スライドの印刷物を配布し、重要な部分は書き込みや下線が引けるようにした。そして、最後に復習問題を配付し、知識の定着を図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 授業資料（疾病と薬物治療Ⅳ）	平成27年5月1日	疾病と薬物治療Ⅳの講義に使用する資料を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 OSCE学外評価者 薬学実務実習FD	平成27年12月9日 平成27年12月13日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD 神戸薬科大学においてOSCEの評価者として参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
医薬品開発論	共著	平成22年2月	廣川書店
実務実習事前学習のための調剤学計算ドリル	共著	平成22年3月	廣川書店
VEGF 936C>T is predictive of threshold retinopathy of prematurity in Japanese infants with a 30-week gestational age or less	共著	平成23年3月	Research and Reports in Neonatology 1, 5-11
Pharmacokinetics-based optimal dose prediction of donor source-dependent response to mycophenolate mofetil in unrelated hematopoietic cell transplantation	共著	同 年8月	Int. J. Hematol. 94 (2) :193-202
VEGF -634C/G genotype is predictive of long-term survival after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma.	共著	平成24年10月	Int J Med Sci. 2012;9(10):833-7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Pharmacokinetics of low-dose lenalidomide (LEN) in elderly multiple myeloma		平成27年10月	日本血液学会学術集会
膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果（1）		平成28年3月	日本薬学会
膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果（2）		平成28年3月	日本薬学会
ヒト神経膠芽腫細胞におけるテモゾロミドとバルプロ酸の併用効果		平成28年3月	日本薬学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成24年1月	医療薬学会の投稿論文審査
平成24年5月	医療薬学会の投稿論文審査
平成26年5月	医療薬学会の投稿論文審査
	医療薬学会、TDM学会、IATDMCT

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬理学 I 講座	職名 講師	氏名 吉川 紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1. 担任クラスの指導		2014年4月~現在	学生が充実した大学生活を送れるように、指導や助言を行った。クラス全員に対して、個人面談も行った。
2. 卒業研究の指導		2012年4月~現在	薬理学1研究室に配属された学生に対して卒業研究の指導を行った。
3. SGDの実践		2012年4月~現在	実習形式の授業において、スモールグループディスカッション及び口頭試問等を行い、学生の理解・知識を深めると共に、コミュニケーション能力も取得できるように工夫した。
4. 講義の実践		2012年4月~現在	講義内容をまとめたプリントを全員に配布し、図を多用して理解しやすい講義を心掛けた。また、講義において章ごとに練習問題を解き、知識の定着化を促進した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
1. 実習帳		2012年4月~現在	薬理学実習を行うための実習帳を作成した。
2. 講義プリント		2012年4月~現在	学生の理解度を高めるために、オリジナルの講義プリントを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
1. 薬学部MFWI留学の引率			
第3回薬学部MFWI留学の引率		2013年2月~3月	薬学部学生のアメリカ研修(ワシントン州、スポケーン)を引率し、学生を全面的にサポートした。また、留学前に事前研修(語学研修も含む)を複数回行い、学生にとって充実した留学となるように工夫した。
第4回薬学部MFWI留学の引率		2013年8月	
第5回薬学部MFWI留学の引率		2014年8月~9月	
第6回薬学部MFWI留学の引率		2015年8月	
2. 中国 瀋陽薬科大学からの留学生受け入れ		2012年10月~ 2013年3月 2014年10月~ 2015年3月	中国の瀋陽薬科大学からの留学生を受け入れ、全面的にサポートした。また、本学の学生が留学生と交流できるように努めた。
3. 実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿 タスクフォース		2013年7月~現在	ワークショップにタスクフォースとして参加し、実務実習指導薬剤師の養成に貢献した。

4. 薬学部共用試験 OSCE 評価者	2013年12月 ～現在	武庫川女子大学及び兵庫県内の薬学部共用試験OSCEに評価者として参加した。	
5. 女性研究者支援センター ロールモデルセミナー講演	2014年10月	女性研究者支援センター事業に協力し、ロールモデルとして寄稿及び講演会を行った。	
6. 薬学実務実習FD」	2015年12月9日	「改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Inhibitory effect of cordycepin on hematogenic metastasis of B16-F1 mouse melanoma cells accelerated by adenosine-5'-diphosphate (査読付)	共著	2009年10月	Anticancer Res, 29, 3857-3860
Inhibitory effect of Cordyceps sinensis on experimental hepatic metastasis of melanoma by suppressing tumor cell invasion (査読付)	共著	2010年9月	Anticancer Res, 30, 3429-3434
Cordyceps sinensis acts as an adenosine A3 receptor agonist on mouse melanoma and lung carcinoma cells, and human fibros arcoma and colon carcinoma cells (査読付)	共著	2011年10月	Pharmacology and Pharmacy, 2 : 266-270
Effect of Cordyceps sinensis on TIMP-1 secretion from mouse melanoma cell (査読付)	共著	2012年1月	Cent Eur J Biol, 7 (1), 167-171
Inhibitory effect of cordycepin on experimental hepatic metastasis of B16-F0 mouse melanoma cells (査読付)	共著	2013年12月	In Vivo, 27 (6): 729-732
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
マウス大腸癌（Colon-26）細胞を用いた経脾肝転移モデルに対するニコチン・タール除去タバコ煙水抽出物（CSE）の影響		2015年3月	日本薬学会第135年会
質量分析法を用いたタバコ煙中の有害物質 α 、 β -不飽和カルボニル化合物に暴露された細胞のグルタチオンによる解毒機構の解明		2015年3月	日本薬学会第135年会
がん抑制遺伝子 Pcd4 の Matrix metalloproteinase-2 に対する影響		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
マウスメラノーマ細胞の転移能とがん抑制遺伝子 Pcd4 発現量の関係		2016年3月	日本薬学会第136年会
血小板凝集抑制薬クロピドグレルのがん転移抑制薬としての可能性について		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床製剤学	職名 講師	氏名 吉田 都
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目と授業評価について		2008年4月1日 ～現在に至る	製剤化のサイエンスⅡ(薬学科3年)・Ⅲ(薬学科5年次生) 小テスト(中間試験)と定期試験で評価する
		2009年4月1日 2014年3月31日	創剤科学(健康生命薬科学科3年次生、4年次生) (隔年開講)、定期試験で評価する
		2008年4月1日 2012年3月31日	製剤学(健康生命薬科学科4年次生) 定期試験で評価する
		2013年4月1日 ～現在に至る	物理製剤学・製剤学Ⅱ(健康生命薬科学科3年次生) 定期試験で評価する
		2009年4月1日 ～現在に至る	プレファーマシー実習Ⅰ(薬学科4年次生) 実習態度および実習終了時の実技試験により評価する
		2011年4月1日 ～現在に至る	総合演習Ⅰ(薬学科4年次生) 出席、模擬試験、CBT体験受験の結果を総合的に評価する
		2011年4月1日 ～現在に至る	総合演習Ⅱ(薬学科6年次生) 出席、模擬試験の結果を総合的に評価する
		2012年4月1日 ～現在に至る	医薬品開発の実際と製剤化(薬学科5年次生) SGDや全体発表への積極的な態度について評価する
・講義(製剤化のサイエンスⅡ・製剤学・物理製剤学・製剤学Ⅱ・創剤科学)での工夫		2008年4月1日 ～現在に至る	各講義内容に関連する薬剤師国家試験問題をまとめて配布し、解説を行っている。製剤服用時に用いる医療器具の使い方など、講義中に説明するだけでは理解しにくい内容については、実際に医療現場で用いている医療器具を見せながら使い方を説明することによって、理解を深めるなどの工夫を行っている。黒板の文字の大きさ・間隔に配慮し、一番後ろに座っている学生にも問題なく読める程度の文字の大きさ・間隔となるように心がけている。重要なポイントがわかりやすいように数回繰り返し解説するなど、メリハリをつけた講義を行うよう心がけている。
・講義(医薬品開発の実際と製剤化)での工夫		2012年4月1日 ～現在に至る	PBL(Problem-based learning)形式で行っている。すなわち、医薬品の開発から製剤化に至るまでの過程に関連する課題について少人数のグループ内で調査、考察、討議(スモールグループディスカッション:SGD)を行うことによって情報を共有化した後、全体発表を行っている。学生が、医薬品の開発の実際および製剤化に関する基礎知識を再確認するのみならず、ランダムに作られたグループの中でディスカッションを行うことによって、コミュニケーションスキルを発揮し、各グループに与えられた課題から1つの結論を導く、すなわち問題解決のために、チームワーク力、リーダーシップを発揮することが目標である。
・講義(総合演習Ⅰ)での工夫		2011年4月1日 ～現在に至る	CBT対策用の講義として、総合演習Ⅰを行っている。担当コマ数は2コマである。1コマ分は製剤学の中の重要ポイントに絞って説明し、問題集の問題解説を行う。また、自習用としてオリジナル問題を作成し、学生に提供する。残り1コマについては、DDSの中の重要ポイントに絞って説明し、問題集の問題解説を行う。また、自習用としてオリジナル問題を作成し、学生に提供する。

<p>・ 講義（総合演習Ⅱ）での工夫</p> <p>・ 実習での工夫</p>	<p>2011年4月1日 ～現在に至る</p> <p>2009年4月1日 ～現在に至る</p>	<p>国家試験対策用の講義として、総合演習Ⅱを行う。担当コマ数は2コマである。1コマ分は製剤学の中の重要ポイントに絞って説明し、テスト問題の問題解説を行った。残り1コマについては、DDSの中の重要ポイントに絞って説明し、テスト問題の問題解説を行う。講義後に、質疑応答の時間を設け、個別の質問に対して対応する。</p> <p>実習書作成の際は、実際に病院や薬局でどのような処方箋が出されているかを事前に調査し、参考にした。実習準備については実習が滞ることの無いように十分に配慮した。実習の説明については特に高カロリー輸液に関する説明を行った。手計算によるカロリー計算の仕方、計算ソフトを用いたカロリー計算の仕方など、懇切丁寧に説明した。実習期間中に西宮市近隣の指導薬剤師の先生方に実習見学をして頂き、コメントを頂いた。頂いたコメントを参考に、次年度のプレファーマシー実習について内容を更に充実させていきたいと考えている。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年 2012年	Perspective 薬剤学（分担執筆、京都廣川書店） 臨床製剤学（改訂第3版）（分担執筆、南江堂）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年 ～現在に至る 2013年 ～2014年 2015年12月9日	SSH(Super Science High school) 武庫川女子大学附属高校生 科学演習実験Ⅲ「薬と健康ージェネリック医薬品に関する実験ー」 CBTモニター員 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Biochemical Sensors: Mimicking Gustatory and Olfactory Senses	共著	2013年	PAN STANFORD PUBLISHING, p145-184
薬剤学実験法必携マニュアル Pharmaceutical Scientistのために I 物理薬剤学	共著	2014年	南江堂、p228-237
Evaluation of palatability of 10 commercial amlodipine orally disintegrating tablets by gustatory sensation testing. OD-mate as a new disintegration apparatus and the artificial taste sensor	共著	2013年9月	J Pharm Pharmacol, 65(9), 1312-1320
Bitterness evaluation of acidic pharmaceutical substances (NSAIDs) using a taste sensor	共著	2014年12月	Chem Pharm Bull, 62(12), 1252-1258
Prediction of the stability of meropenem in intravenous mixtures	共著	2015年4月	Chem Pharm Bull, 63(4), 1-7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
電子味覚システムを用いた医薬品の味質分類評価		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
Evaluation the palatability of ebastine orally disintegrating tablets using OD-mate: as new apparatus of detecting disintegration time and electronic tongue system		2015年7月	GRS
フィルグラスチム製剤の輸液器具への吸着に関する検討		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
The role of an impurity in ceftriaxone sodium preparation for injection in determining compatibility with calcium-containing solutions		2015年10月	AAPS annual meeting
味覚センサを用いた複合剤の苦味予測		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成20年10月～現在	日本注射薬臨床情報学会理事		
平成21年4月～平成24年3月	兵庫県薬事審議会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 講師	氏名 河井 伸之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
1. 有機化合物の合成・双方向型の授業実施 (習熟度別少人数講義)		2015年	医薬品を含む有機化合物の合成法を講義した。小テストや課題の提出を介し、理解度の向上を促した。提出課題は添削して返却し、双方向型の授業を努めた。
2. スペクトル構造解析法・双方向型の授業実施 (習熟度別少人数講義)		2015年	医薬品を含む有機化合物の構造決定に必要な分光スペクトルの知識と解析法を講義した。小テストや課題の提出を介し、理解度の向上を促した。提出課題は添削して返却し、双方向型の授業を努めた。
3. 有機化合物の合成・双方向型の授業実施 (習熟度別少人数講義)		2014年	医薬品を含む有機化合物の合成法を講義した。小テストや課題の提出を介し、理解度の向上を促した。提出課題は添削して返却し、双方向型の授業を努めた。
4. スペクトル構造解析法・双方向型の授業実施 (習熟度別少人数講義)		2014年	医薬品を含む有機化合物の構造決定に必要な分光スペクトルの知識と解析法を講義した。小テストや課題の提出を介し、理解度の向上を促した。提出課題は添削して返却し、双方向型の授業を努めた。
5. 有機化学C		2014年	芳香族化合物とカルボニル化合物の特徴と合成法について講義した。課題の提出を介し、理解度の向上を促した。
6. 薬学特別演習・双方向型の授業実施		2014年	研究室の配属学生を対象に、知っておきたい有機反応100の解説・演習をおこなった。また、有機化学に関連した新着文献を卒業論文のテーマとして論文作成を指導した。
7. 有機化学B		2013年	ハロゲン化アルキルに対する求核置換反応と脱離反応について講義した。また、前々年時履修不可の学生に対しては、個別授業を行なった。課題の提出を介し、理解度の向上を促した。
8. 有機化学C		2013年	共役ジエンの付加反応について速度論支配と熱力学支配の違い、Diels-Alder反応の特徴について講義した。
9. 薬学特別演習・双方向型の授業実施		2013年	研究室の配属学生を対象に、知っておきたい有機反応100の解説・演習をおこなった。また、有機化学に関連した新着文献を卒業論文のテーマとして論文作成を指導した。
10. 早期体験学習・双方向型の授業実施		2013年	救命応急手当の実演を行い、心肺蘇生法やAEDの使用法や気道異物の除去法の習得を促した。また、薬局見学の引率、体験談のポスター作成の指導と評価を行なった。
11. 先端有機化学概論		2013年	歴代のノーベル化学賞受賞者の研究を題材として講義した。応用例として最先端の論文を加えて、その内容を解説した。
12. 有機化学C		2012年	共役ジエンの付加反応について速度論支配と熱力学支配の違い、Diels-Alder反応の特徴について講義した。
13. 有機化学B		2012年	ハロゲン化アルキルに対する求核置換反応と脱離反応、有機金属化合物の性質と反応について講義した。毎回の講義後の課題の提出を介し、理解度の向上を促した。
14. 先端有機化学概論		2012年	歴代のノーベル化学賞受賞者の研究を題材として講義した。応用例として最先端の論文を加えて、その内容を解説した。
15. 薬学特別演習・双方向型の授業実施		2012年	研究室の配属学生を対象に、知っておきたい有機反応100の解説・演習をおこなった。また、有機化学に関連した新着文献を卒業論文のテーマとして論文作成を指導した。

16. 早期体験学習・双方向型の授業実施	2012年	救命応急手当の実演を行い、心肺蘇生法やAEDの使用法や気道異物の除去法の習得を促した。また、薬局見学の引率、体験談のポスター作成の指導と評価を行なった。
17. 専門基礎演習D	2012年	炭素炭素結合形成反応に関する問題を演習の題材として、解説を行った。
18. 先端有機化学概論	2012年	歴代のノーベル化学賞受賞者の研究を題材として講義した。応用例として最先端の論文を加えて、その内容を解説した。
19. 先端有機化学概論	2011年	歴代のノーベル化学賞受賞者の研究を題材として講義した。応用例として最先端の論文を加えて、その内容を解説した。
20. 薬学特別演習・双方向型の授業実施	2011年	研究室の配属学生を対象に、知っておきたい有機反応100の解説・演習をおこなった。
21. 早期体験学習・双方向型の授業実施	2011年	救命応急手当の実演を行い、心肺蘇生法やAEDの使用法や気道異物の除去法の習得を促した。
22. 薬学特別演習・双方向型の授業実施	2010年	研究室の配属学生を対象に、知っておきたい有機反応100の解説・演習をおこなった。
23. 早期体験学習・双方向型の授業実施	2010年	救命応急手当の実演を行い、心肺蘇生法やAEDの使用法や気道異物の除去法の習得を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書		
1. 有機化合物の合成 講義用資料	2015年	毎回の講義で関連する有機化学の重要事項の復習と、有機反応の知識に基づいた有機合成化学を体系的に理解を促すための資料を作成した。演習問題の解説書を作成した。
2. スペクトル構造解析法 講義用資料	2015年	各章ごとにその重要事項の再確認、復習を促すための資料を作成した。演習問題の解説書を作成した。
3. 化学構造と薬理作用	2015年3月30日 第2版発行	西出喜代治, 佐々木茂貴, 栄田敏之, 編著) (廣川書店) 消化性潰瘍治療薬、胃・腸機能改善薬を解説した。
4. 有機化合物の合成 講義用資料	2014年	毎回の講義で関連する有機化学の重要事項の復習と、有機反応の知識に基づいた有機合成化学を体系的に理解を促すための資料を作成した。
5. スペクトル構造解析法 講義用資料	2014年	各章ごとにその重要事項の再確認、復習を促すための資料を作成した。演習問題の解説書を作成した。
6. 有機化学C 講義用資料	2014年	毎回の講義で関連する有機化学の重要事項の復習と、有機反応の知識に基づいた有機合成化学を体系的に理解を促すための資料を作成した。演習問題の解説書を作成した。
7. 有機化学C 講義用資料	2013年	アリルカチオンの共鳴安定化、共役ジエンの付加反応、Diels-Alder反応の特徴をまとめた資料を作成した。
8. 有機化学C 講義用資料	2012年	求核置換反応、有機金属化合物をまとめた資料を復習用の教材として作成した。
9. 専門基礎演習D 講義用教材	2012年	炭素炭素結合形成反応に関する演習問題18題とその解説の資料を教材として作成した。
10. 先端有機化学概論講義用教材	2011年	ノーベル化学賞受賞者の研究成果をまとめた資料を教材として作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1. 薬剤師ワークショップを受講	2010年5月	厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップを受講し、実務実習の指導方法を学んだ。
4 その他教育活動上特記すべき事項		
1. 平成27年度武庫川女子大学FD研修会を受講	2015年12月	平成27年度武庫川女子大学FD研修会「大学で教える人のためのルーブリック評価入門」を受講し、教育効果の方法を学んだ。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
PdII触媒を用いる分子内不斉転写反応の立体化学と合成的応用	共著	平成25年10月	有機合成化学協会誌, (71, 9), 912-925.
Synthesis of the Core Tricyclic Ring Domain of (-)-Schulzeine B.	共著	平成27年7月	The Journal of Organic Chemistry, (80, 15), 7790-7796.
Stereoselective synthesis of contiguous THF-THF and THF-THP units via PdII-catalyzed tandem reaction with 1,3-chirality transfer.	共著	平成25年12月	Tetrahedron, (69, 51), 11017-11024.
Synthesis of the 1-Phenethyltetrahydroisoquinoline alkaloids (+)-Dysoxylone, (+)-Colchieth anamine, and (+)-Colchiethine.	共著	平成24年4月	The Journal of Organic Chemistry, (77, 11), 11101-11108.
Synthesis of chiral 1-substituted tetrahydroisoquinolines by the intramolecular 1,3-chirality transfer reaction catalyzed by Bi(OTf) ₃ .	共著	平成23年2月	The Journal of Organic Chemistry, (76, 7), 2102-2114.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
三年次生への有機合成化学領域における習熟度別少人数講義の効果		平成28年3月	日本薬学会第136年会
生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価		平成27年3月	日本薬学会第135年会
解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響		平成27年3月	日本薬学会第135年会
薬学部初年次教育（有機化学）における習熟度別授業の効果		平成27年3月	日本薬学会第135年会
有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価		平成27年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年3月	日本薬学会第131年会 座長		
平成23年10月	第61回 日本薬学会近畿支部総会・大会 座長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 講師	氏名 北山 友也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月1日 から現在	低習熟度学生を対象とし、少人数クラスを編成し、毎回授業冒頭に確認テストを実施、学生の理解度を把握すると共に、その理解度に応じた授業をおこなった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月1日 から現在	教科書だけでは、理解が困難と思われる部分について、補足プリントを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2015年3月26日	第135回薬学会年會において、演題名 生理解剖学分野における強化教育法による成績への影響 薬学部初年次教育（有機化学）における習熟度別授業の効果 薬理学分野における強化教育に対する予備的評価 生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価 有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価 を発表
4 その他教育活動上特記すべき事項		2015年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Phospholipase C-related but catalytically inactive protein modulates pain behavior in a neuropathic pain model in mice.	共著	2013年5月	Molecular pain, 9, 23.
Pain-releasing action of platelet-activating factor (PAF) antagonists in neuropathic pain animal models and the mechanisms of action.	共著	2013年9月	European Journal of pain, 17,8: 1156-1167.
Palliation of bone cancer pain by antagonists of platelet-activating factor receptors.	共著	2014年3月	PLoS One. 9, 3. e91746.
Phospholipase C-related catalytically inactive protein (PRIP) controls KIF5B-mediated insulin secretion.	共著	2014年5月	Biology Open. 3, 6, 463-474.
Relief cancer pain by glycine transporter inhibitors.	共著	2014年10月	Anesthesia & analgesia. 119, 4: 988-995.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
細胞内亜鉛濃度変化に伴う神経障害性疼痛発症機序		2015年11月	第128回日本薬理学会近畿部会
下級学年成績に基づいた成績予測式による習熟度別クラス判定法の評価		2016年3月	第136回日本薬学会年會
薬理学領域理解度に対する解剖生理学教育の影響		2016年3月	第136回日本薬学会年會
生化学（生体成分領域）における学力強化対象者に対する教育の運用と評価		2016年3月	第136回日本薬学会年會
2015年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎的学力強化教育の運用と評価		2016年3月	第136回日本薬学会年會
三年次生への有機合成化学領域における習熟度別少人数講義の効果		2016年3月	第136回日本薬学会年會
III 学会および社会における主な活動			
1997年から現在	日本薬理学会会員		
1998年から現在	日本神経化学学会会員		
1999年から現在	日本神経科学学会会員		
1999年から現在	日本神経精神薬理学会会員		
2014年から現在	日本薬理学会会員		
2007年から現在	日本薬理学会学術評議員		
2011年から現在	日本神経精神薬理学会学術評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬学教育推進センター	職名：講師	氏名：西村 奏咲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
1. 薬学基礎演習	2015年4月～	同時期に開講されている「基礎数学・物理、基礎化学および有機化学」について演習を行い、実際に練習問題、応用問題に解答することで理解度をアップさせる。	
2. 「有機化学A」、「有機化学B」における習熟度別授業	2014年4月～	少人数、双方向型の講義。毎回確認試験を実施し、結果が芳しくない学生や課題を提出しない学生に対しては、面談などの個別指導を行う。	
3. 有機化学実習	2014年4月～	2年次生を対象とした実習。毎回の口頭試問や最終日の演習を通して、学生の問題解決能力を養う。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
薬学部初年次教育（有機化学）における習熟度別授業の効果	2015年・3月	日本薬学会 135年会	
解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響	2015年・3月	日本薬学会 135年会	
薬理学分野における強化教育に対する予備的評価	2015年・3月	日本薬学会 135年会	
生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価	2015年・3月	日本薬学会 135年会	
有機化学系科目における習熟度別講義の3年次生への運用とその評価	2015年・3月	日本薬学会 135年会	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2015年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
2015年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎学力強化教育の運用と評価		2016年・3月	日本薬学会 136年会
下級学年成績に基づいた成績予測式による習熟度別クラス判定法の評価		2016年・3月	日本薬学会 136年会
薬理学領域理解度に対する解剖生理学教育の影響		2016年・3月	日本薬学会 136年会
生化学（生体成分領域）における学力強化対象者に対する教育の運用と評価		2016年・3月	日本薬学会 136年会
3年次生への有機合成化学領域における習熟度別少人数講義の効果		2016年・3月	日本薬学会 136年会
III 学会および社会における主な活動			
2015年12月20日	薬学共用試験OSCE評価者（武庫川女子大学）		
2015年12月	2015年度後期授業公開 薬学部担当 (FD推進委員会主催)		
2015年12月6日	薬学共用試験OSCE評価者（姫路獨協大学）		
2015年5月3日～5月4日	第77回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in近畿（近畿大学）へのタスクフォースとしての参加		
2014年12月21日	薬学共用試験OSCE評価者（武庫川女子大学）		
2014年12月	2014年度後期授業公開 薬学部担当 (FD推進委員会主催)		
2014年12月14日	薬学共用試験OSCE評価者（神戸薬科大学）		
2014年4月～	公益社団法人 日本薬学会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	薬学教育推進センター	講師	三浦 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
薬の作用II	平成26年～	末梢神経に作用する薬物の薬理学に関する3年生を対象とした講義。学生を習熟度によって分類し、少人数制による講義を行う。	
生命活動を担うタンパク質	平成26年～	生命活動を担うタンパク質とその構成成分であるアミノ酸に関する1年生を対象とした講義。学生を習熟度によって分類し、少人数制による講義を行う。	
体の成り立ちと働きを調べる・解剖生理学実験	平成26年～	げっ歯類の解剖と循環器薬理学に関する3年生を対象とした実習。口頭試問を担当する。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬の作用II 講義補助資料	平成26年～	学生の理解を促進するための自習用教材や補習資料等の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Structure-activity relationship of flavonoids as potent inhibitors of carbonyl reductase 1(CBR1)	共著	平成27年3月	Fitoterapia vol. 101
Regulation of human carbonyl reductase 1(CBR1, SDR21C1) gene by transcription factor Nrf2	共著	平成25年2月	Chemico-Biological Interactions vol. 202 No. 1-3
Reduction of cytotoxic p-quinone metabolism of tert-butylhydroquinone by human Aldo-keto-reductase (AKR) 1B10.	共著	平成24年10月	Drug Metabolism and Pharmacokinetics vol. 27 No. 5
Regulation of Aldo-keto reductase AKR1B10 gene expression: involvement of transcription factor Nrf2.	共著	平成23年5月	Chemico-Biological Interactions vol. 191 No. 1-3
Importance of the substrate-binding loop region of human monomeric carbonyl reductases in catalysis and coenzyme binding.	共著	平成21年8月	Life Sciences vol. 85 No. 7-8
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アルドーケト還元酵素AKR1B10遺伝子の転写調節領域上の機能性Antioxidant Response Elementの同定		平成27年・10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
虚血再灌流による急性腎障害に対するアドレナリン α 2c受容体遮断薬JP-1302の影響		平成27年・10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
ホルボールエステルによるアルドーケト還元酵素AKR1B10遺伝子の発現抑制はERK-c-Jun経路を介する		平成27年・3月	第135回 日本薬学会年会
アドレナリン α 2C受容体阻害薬(JP-1302)の虚血再灌流による急性腎障害に対する影響		平成27年・3月	第135回 日本薬学会年会

解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響	平成27年・3月	第135回 日本薬学会年会
薬学部初年次教育(有機化学)における習熟度別授業の効果	平成27年・3月	第135回 日本薬学会年会
薬理学分野における強化教育に対する予備的評価	平成27年・3月	第135回 日本薬学会年会
有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価	平成27年・3月	第135回 日本薬学会年会
生化学(代謝領域)における学力強化教育の運用と評価	平成27年・3月	第135回 日本薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成27年10月17日	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪大谷大学) ポスター審査委員	
平成27年2月21, 22日	第76回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in近畿 (大阪大谷大学) へのタスクフォースとしての参加	
平成26年12月23日	OSCE評価者(神戸学院大学)	
平成26年12月21日	OSCE評価者(武庫川女子大学)	
平成24年10月20日	第62回 日本薬学会近畿支部総会・大会(武庫川女子大学) ポスター審査委員	
平成21年～	学術論文のad-hoc reviewer (Chemico-Biological Interactions, Internal Medicine, BBA-molecular cell research, Clinical Interventions in Ageing, Toxins, Hematology Reviews)	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬学教育推進センター	職名 講師	氏名 安井 菜穂美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月1日～ 2015年8月31日	薬学科2年前期に開講される「生体エネルギー」では、生体内のエネルギー産生、代謝について学ぶ。国家試験の基礎的事項としても重要であり、少人数制、双方向型習熟度別講義を実施した。平常点20点、期末試験80点、授業内小テスト20点により評価した。
		2014年9月1日～ 2015年3月31日	薬学科1年後期に開講される「生命体の基本単位」では、生化学の基礎となる糖・脂質の基礎的事項を修得した。生体反応の理解を深める為、生化学の基礎知識の定着を目標に、少人数制、双方向型授業を実施する。平常点20点、期末試験80点、授業内小テスト20点により評価した。
		2014年4月1日～ 2015年8月31日	薬学科2年生を対象にした「生体成分と免疫を調べる」では、生化学をより深く理解するために、その構成成分である糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質の分離や定性・定量法、免疫反応の基本について理解し、実技を通して修得することを目標とした。全時間出席した者のみを対象に、実習試験点50点、レポート50点で評価した。
		2009年9月1日～ 2013年3月31日	薬学科1年生後期に開講される「薬剤師の活躍分野をみるII」では高学年の実習に必要な知識・技能を紹介、体験、薬剤師の基礎となる知識、考え方を育成することを目標としている。バイトルサインを自分の体で確認することを知り、動物実験の必要性、有用性について実習を通して考える。平常50点とレポート50点により評価した。
2 作成した教科書、教材、参考書	実習プリント	2011年9月1日～ 現在	新薬1回生対象薬剤師の活躍分野をみるII、大康1回生対象早期体験実習IIの実習内容の理解を助ける資料(図表・写真等)を挿入し、作業上の注意を明記するなど、内容に興味をもち、またスムーズに作業を行えるよう構成を工夫した。
	基礎項目確認プリント	2014年4月1日～ 現在	新薬1, 2年対照に実施している習熟度別講義において、知識定着のためのまとめプリントを作成した。
	代謝マップ	2014年4月1日～ 現在	新薬2年で修得する代謝生化学では、さまざまな代謝経路が登場する。それぞれについて、基質、生成物、酵素、反応の役割などについて、各自代謝経路を作成する教材を作成した。
	まとめ・復習プリント	2014年4月1日～ 現在	授業で学習した内容について、問題・まとめ内容をμCamでアップし、学生の自主学習を促すよう教材を準備した。内容は授業資料で答えが確認できる文章の穴埋め、国家試験問題の一部を取り入れた演習問題を総合したものである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	低学年教育における少人数制授業の取組	2015年3月 2016年3月	生化学(代謝領域)における学力強化教育の運用と評価(日本薬学会第135回年会) 生化学(代謝領域)における学力強化教育の運用と評価(日本薬学会第136回年会)
4 その他教育活動上特記すべき事項		2010年10月～ 2013年3月 2014年8月 2014年8月 2014年11月 2015年12月	中国留学生指導 薬剤師のためのワークショップ参加 薬剤師のためのワークショップ、タスクフォース 高校模擬講義(兵庫県立八鹿高校) 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
メタボリックシンドローム関連モデル動物	共著	2011年12月	日本臨牀 69(1): 358-363
茶の機能「血圧上昇抑制作用」	共著	2013年11月	農文協 p.111-117
Caffeic acid phenethyl ester suppresses the production of pro-inflammatory cytokines in hypertrophic adipocytes through lipopolysaccharide-stimulated macrophages.	共著	2012年8月	Biol Pharm Bull. 35(11):1941-6
Development of novel rat model for high-fat and high-cholesterol diet-induced steatohepatitis and severe fibrosis progression in SHRSP5/Dmcr.	共著	2012年5月	Environ Health Prev Med. 17(3):173-82
Caffeic acid phenethyl ester suppresses oxidative stress in 3T3-L1 adipocytes.	共著	2012年11月	J Asian Nat Prod Res.15(11):1189-96
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価		2015年3月	日本薬学会第135年会
薬学部初年次教育（有機化学）における習熟度別授業の効果		2015年3月	日本薬学会第135年会
解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響		2015年3月	日本薬学会第135年会
有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価		2015年3月	日本薬学会第135年会
生化学（生体成分）における学力強化教育の運用と評価		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
1999年～現在	高血圧関連疾患モデル学会、会員		
1999年～現在	日本高血圧学会、会員		
2013年～現在	日本薬学会、会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 生薬学	職名 助教	氏名 奥 尚枝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
(1) マルチメディア機器を使用する授業・実習		2008年4月～現在	講義「薬となる植物」「かゆいところに手がとどく話」および実習「生薬・天然物を取り扱う」において、動画、写真、図解を主体としたスライドを作成し、視覚化することで、講義への理解、実習での操作、注意をわかり易く、印象的に伝えるよう工夫した。講義アンケートより達成できたと考え。
(2) 学生が積極的に参加する授業・実習		2008年4月～現在	講義「薬となる植物」「かゆいところに手がとどく話」において、講義中に生薬や薬用植物の回覧や味見、薬用植物園への引率などの体験・体感型の講義を行った他、身近な植物やかゆみに関するマメ知識を話すことで、興味や学習への動機付けをはかると同時に、書き込み式のプリントにより積極的な講義への参加、記憶の助けとなるよう工夫した。実習「生薬・天然物を取り扱う」では、SGD形式の口頭試問を繰り返し、実習への積極的な参加を促した。講義アンケートより達成できたと考え。
(3) 理解や自己学習意欲を高める授業・実習		2008年4月～現在	講義「薬となる植物」において、毎回の講義の開始時と終了時に講義のポイントを提示した。講義中はプリントの穴埋めなどで注意力を喚起した。講義の最後に復習や学習到達度の確認に利用できる課題を提示し、次の講義の開始時に小テストを行うことで、毎回の自己学習の習慣を促した。実習「生薬・天然物を取り扱う」では、2-3人のグループ毎に口頭試問を頻繁に繰り返し、理解を高めるよう工夫した。講義アンケートより達成できたと考え。
2 作成した教科書、教材、参考書			
(1) 生薬・天然物を取り扱うの実習帳		2008年4月～現在	主担当教授と共に、天然物化学の実習に用いる実習帳および提出用ノートを作成した。各項ごとに、予習、操作や注意、結果や考察、生薬などの観察のポイントを示し、自己学習や理解の助けとなるよう工夫した。また構造解析の項ではSGD形式で学生同士が疑問を解決し、教えあえるような設問形式に工夫した。
(2) 「かゆいところに手がとどく話」の教材		2011年2月, 2012年2月	特別学期および公開講座の教材を作成した。蚊に刺される、花粉症、アトピー性皮膚炎、治りかけの傷口など、「掻いても、掻いてもまだ痒い、掻けば掻くほど痒みが広がる」痒みの仕組みや治療、最近のトピックスを親しみやすく講義するための視覚教材を作成した。
(3) 「薬となる植物」の講義プリント		2012年9月～現在	理解や自己学習の補助となるプリントを作成した。毎時 間の講義の要点の他、重要度や出題頻度の表示、講義中にスライドや教科書を参考に記入してもらうための空欄をもうけた図解を多数盛り込んだ。さらに、復習や学習 到達度の自己確認に利用できる練習問題を加えた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年1月 2015年4月～現在 2015年12月9日	平成23年度長期実務実習に関する学内FDに参加 CBT・国試対策教育企画委員 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
「薬用食品の開発II」ホウセンカの多様な生物活性と成分—抗かゆみ作用、抗アレルギー作用、抗リウマチ作用、駆瘀血作用—	共著	2012/4/1	ジーエムシー出版, 193-204.
Allergy-preventive effects of the flowers of <i>Impatiens texture</i>	共著	2010年4月	Biol. Pharm. Bull., vol. 33, 714-716.
Allergy-preventive effects of chlorogenic acid iridoid derivatives from flower buds of <i>Lonicera japonica</i>	共著	2011年8月	Biol. Pharm. Bull., vol. 34, 1330-1333.
Development of environmental control method for rapid production of high quality <i>Hedyotis diffuse</i>	共著	2013年3月	Preprints of the 2013 IFAC Bio-Robotics Conference, B11, 1-5.
Mechanism of the purgative action of multiflorin A	共著	2014年9月	Planta Medica, vol. 80, 2055-2056.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
「女性薬命の母ホワイト」の精神 神経症状に対する効果		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
マルチフロリンAの瀉下活性発現メカニズム解明—機能性タンパク質の解析—		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会総会
Development of an assay method to search for natural products inhibiting stress-enhanced allergy		2015年12月	環太平洋国際化学会議2015
花色変化メカニズムに関する研究(第4報)—スイフヨウ—		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
1985年4月～現在	日本薬学会会員		
2004年4月～現在	日本N0学会会員		
2009年4月～2013年3月	日本薬剤師研修センター 漢方認定薬剤師 薬用植物園実習およびビデオ研修の補助		
2009年4月～現在	日本生薬学会会員		
2009年4月～現在	植物化学研究会会員		
2011年4月～現在	植物生理学会会員		
2013年10月～現在	日本薬剤師研修センター 漢方認定薬剤師 薬用植物園実習および講義の講師		
2014年4月～現在	日本薬学会誌ファルマシア トピックス専門小委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 衛生化学	職名 助教	氏名 片岡 裕美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		1996年～現在 2011年2月 2012年～現在	実習：学生の近くに歩み寄り、学生とコミュニケーションを取りながらの双方向教育を実践している。さらに、社会問題、身近な事象を多く取り入れて解説している。 特別学期講義：パワーポイントでイラストや写真を多く示して学校薬剤師業務の一端を解説するように工夫した。 講義：パワーポイントを用いて視覚的に解説している。また、講義に興味を持ってもらうために社会問題となった話題、身近な事象を多く取り入れて解説し、レジメも配布する。また、基礎、背景、原理を解説し丸暗記にならないように工夫している。さらに、薬剤師国家試験の過去問、CBT予想問題、独自に編集した確認問題などを配布し必ず解答を示して解説している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年～現在 2008年～現在 2012年～現在	「健康と環境への影響を調べる」実習テキスト：実験結果を順次、挿入することにより実習内容が理解できるように工夫している。また、学校薬剤師業務に関連づけたテキストにするように工夫し、毎年、改訂版を作成している。 「予防薬学実験」実習テキスト：実験結果を順次、挿入することにより実習内容が理解できるように工夫している。さらに、毎年、改訂版を作成している。 「栄養と健康」講義プリント：講義で使用したパワーポイントの原稿、および薬剤師国家試験の過去問をベースとした独自の復習問題をまとめている。さらに常に最新の情報になるように、毎年、改訂している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特にない。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2008年～現在 2015年12月	「健康と環境への影響を調べる」の実習において、学校薬剤師の経験を活かした教育活動をおこなっている。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Bacteriological and chemical evaluation of overseas mineral waters	共著	2011	Food Hyg. Saf. Sci. (Shokuhin Eiseigaku Zasshi), 52, 354-362.
Effect of lipopolysaccharide on the xenobiotic-induced expression and activity of hepatic cytochrome P450 in mice	共著	2012	Biol. Pharm. Bull., 35, 473-480.
Changes in quality of PET bottle natural mineral water and identification of separated crystals under hot day conditions (37° C)	共著	2012	Jpn. J. Food Chem. Safety, 19, 49-53.
Study of long-term water quality of stocked drinking water	共著	2013	Food Hyg. Saf. Sci. (Shokuhin Eiseigaku Zasshi), 54, 326-330.
Different expression patterns of hepatic cytochrome P450s during anaphylactic or lipopolysaccharide-induced inflammation	共著	2014	Pharmazie, 69, 142-147.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
PM2.5の水溶性成分が免疫細胞に及ぼす影響	平成27年3月	日本薬学会135年会
PM2.5の水溶性成分がマスト細胞株に及ぼす影響	平成27年3月	日本薬学会135年会
PM2.5の水溶性抽出液がマスト細胞株に及ぼす影響	平成27年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会
PM2.5水溶性抽出液のイオン成分分析	平成27年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会
PM2.5の水溶性成分がマスト細胞株に及ぼす影響（第3報）	平成28年3月	日本薬学会136年会
PM2.5の水溶性成分がマスト細胞株に及ぼす影響（第4報）	平成28年3月	日本薬学会136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
1980年～現在	日本薬学会 会員	
1996年～現在	日本食品化学会 会員	
2002年～現在	学校薬剤師：高校、中学校、幼稚園の学校環境衛生検査を中心とした学校薬剤師業務を行っている。	
2009年～現在	日本薬剤師会 会員	
2011年～現在	日本食品衛生学会 会員	
2015年～現在	大気環境学会 会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 分析センター	職名 助教	氏名 本田 千恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年4月～ 現在	薬学基礎科目関連の演習を担当し、疑問を持った学生に挙手させ個別に指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年4月～ 現在	化学、数学、有機化学、物理化学等の基礎科目についての演習を行う問題を作成し、学生に配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Preparation, characterization, and biological evaluation of 6 ^I , 6 ^{IV} -di-O-[α -L-fucopyranosyl-(1-6)-2-acetamido-2-deoxy- β -D-glucopyranosyl]-cyclomaltoheptaose and 6-O-[α -L-fucopyranosyl-(1-6)-2-acetamido-2-deoxy- β -D-glucopyranosyl]-cyclomaltoheptaose.	共著	2011年9月	Carbohydr. Res., 346, 1792-1800
Preparation of branched cyclomalto-heptaose with 3-O- α -L-fucopyranosyl- α -D-mannopyranose and changes in fucosylation of HCT116 cells treated with the fucose-modified cyclomaltoheptaose.	共著	2013年6月	Carbohydr. Res., 374, 49-58
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
高分解能質量分析法を用いたタバコ煙中の種々の α 、 β -不飽和カルボニル化合物の構造解析		2016年3月	日本薬学会第136年会
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
～現在	日本薬学会		
～2003年	日本生薬学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬化学 I 講座	職名 助教	氏名 有光 健治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 担当科目 ・医薬品をつくる（薬学科 2 年後期） 応用有機化学実験（健康生命薬学科 2 年後期） ・薬学基礎演習 I（健康生命薬学科 1 年前期） 薬学基礎演習 II（健康生命薬学科 1 年後期） 薬学の基礎としての化学（薬学科 1 年前期） 薬学の基礎としての数学（薬学科 1 年前期）		2013年9月～現在 2013年4月～現在	有機化学実習において、内容及び操作の説明を担当した。また、毎回実習終了時に全学生対象に個別に質疑応答を行い、学生の理解度に合わせた双方向型の授業を実施した。 演習問題に取り組む学生からの個別の質問に対して個々に応じた説明を行い理解を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） ・薬学部共用試験OSCE ・朝小サマースクール in 武庫川女子大学（朝日小学生新聞主催） ・認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ ・高校生体験化学実習 ・薬学実務実習FD		2014年12月21日 2013年12月15日 2014年12月23日 2013年12月23日 2014年8月6日 2014年8月30, 31日 2013年11月16, 17日 2013年7月19日 2015年12月9日	武庫川女子大学OSCE の運営補助を担当。 神戸学院大学薬学部のOSCEの外部評価者。 「朝小サマースクールin武庫川女子大学」の薬教育ワークショップにて、小学生に薬の基本知識や適正使用について学んでもらう講義を担当。 武庫川女子大学にて、第73回 薬剤師のためのワークショップ in 近畿の運営事務局を担当。 大阪大谷大学にて、第70回薬剤師のためのワークショップ in 近畿に参加。 大阪 清教学園高等学校 大学体験プログラムにおいて体験化学実習の講師を担当。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Novel design and synthesis of a radioiodinated glycolipid analog as an acceptor substrate for <i>N</i> -acetylglucosaminyltransferase V	共著	2013年	J. Label. Compd. Radiopharm., 2013, 56, 562-572.
Synthesis of (±)-8-deisopropyladunctin B	共著	2012年	Chem. Pharm. Bull., 2012, 60, 94-103.
First total synthesis of (±)-adunctin B	共著	2011年	Tetrahedron Lett., 2011, 52, 7046-7048.
Alternative synthesis of radioiodinated trisaccharide derivatives, 2-(4- ¹²⁵ I-iodophenyl)ethyl 2-acetamido-2-deoxy-β-D-glucopyranosyl-(1→2)-α-D-mannopyranosyl-(1→6)-β-D-glucopyranoside, and preparation of its analogs having different lengths of alkyl chains instead of ethyl group: Acceptor substrates of <i>N</i> -acetylglucosaminyltransferase V for in vivo imaging	共著	2011年	Heterocycles, 2011, 83, 2779-2802.
Glycosylation from the non-reducing end using a combination of thioglycoside and glycosyl sulfoxide as the glycosyl donor and the acceptor	共著	2010年	Chem. Pharm. Bull., 2010, 58, 758-764.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
新規キラルリガンドの開発とそのリサイクル使用による触媒的不斉水素移動型還元反応	2015年11月	45回複素環化学討論会
A mechanistic investigation for anti-elimination of (Z)-1,2-bis(arylseleno)-1-alkenes and their sulfur analogs	2015年11月	The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry
⁷⁷ Se NMR実験を用いた1,2-ビスセレンアルカンの脱離反応の研究	2015年10月	65回日本薬学会近畿支部大会
新規イオン性キラルリガンドの合成とそれを用いる触媒的不斉水素移動型還元反応	2015年10月	65回日本薬学会近畿支部大会
1,2-ビスセレン化合物を用いた(E)-アリルセレンニルアルケンへの脱離反応	2015年3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成20年2月～現在	日本薬学会 会員	
平成25年4月～現在	有機合成化学協会 会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 病態生理学	職名 助教	氏名 十万 佐知子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
「疾病と薬物治療Ⅰ」分担		2014年4月～	循環器・呼吸器・腎疾患についての講義を行っているが、そのうち呼吸器について分担して講義をおこなっている。スライドを使い、図を見せながら説明するが、すべてのスライドは配布せず要点だけを配布し、学生自身が講義を聴きながら加えていくようにしている。またまず最初に前回のスライドを見せながら復習をし、その際には学生に質問をして答えさせるなどの時間を設けている。
「プレファーマシー実習Ⅲ」 分担		2013年4月～	臨床実習に出ていく前の学生に、OSCEに受かるためではなく実際に臨床現場で役に立つ技術や態度を学ばせることを目的として、病棟での初回面談や服薬指導での説明の仕方や態度について、またインスリン自己注射や血糖測定器の使用方法、説明方法、ピークフロー値の測定を講義し、実際に使用したり説明をする練習をしている。またバイタルサインについて講義し、フィジカルアセスメントモデルを用いて聴診を行ったり、学生同士で血圧を測定する実習も行っている。さらに実際に臨床でよくみる疾病について症例検討を行い、それについて調べ、発表を行う実習を設けている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
「やさしい臨床医学テキスト」第3版		2014年3月	担当部分 p321-334：内分泌疾患の章を共同担当し、甲状腺、副甲状腺、副腎などのホルモンの分泌機能とそれらのホルモンが増加する疾患、減少する疾患について薬学生が知っておくべき疾患について述べた。 担当者：三木知博、十万佐知子
「プレファーマシー実習Ⅲ」 実習書		2014年9月～	実務実習に必要な態度、技能、知識を身につけるために様々な角度からプレファーマシー実習を行っているが、その実習書として作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2015/12/9	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
「やさしい臨床医学テキスト」第3版	共著	2014年3月	薬事日報社 p321-334
Factors related to prevalence of hallux valgus in female university students: a cross-sectional study	共著	2014年4月	J. Epidemiol. 24, 200-208
Caffeic acid phenethyl ester suppresses oxidative stress in 3T3-L1 adipocytes	共著	2013年8月	J. Asian Nat. Prod. Res., 1189-1196.
Effects of Long-Term Oral Administration of Arachidonic Acid and Docosahexaenoic Acid on the Immune Functions of Young Rats	共著	2013年5月	Nutrients, 5, 1949-1961

Caffeic acid phenethyl ester suppresses the production of pro-inflammatory cytokines in hypertrophic adipocytes through lipopolysaccharide-stimulated macrophages	共著	2012年11月	Biol. Pharm. Bull., 35, 1941-1946
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ラット脳アストログリア細胞を用いた脳卒中発症因子の探索－硫化水素の関与－		2015年3月	日本薬学会 第135年会
脳卒中易発症ラット（SHRSP/Izm）における脳内硫化水素産生酵素（cystathionine β -synthase（CBS））の生理機能に関する研究		2015年10月	第51回高血圧関連疾患モデル学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2002年～現在	日本薬学会 会員		
2010年～現在	高血圧関連疾患モデル学会 会員		
2013年4月～現在	認定スポーツファーマシスト		
2014年4月～現在	大阪医療技術学園専門学校非常勤講師		
2014年4月～現在	学校薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 濱口 良平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
物質の特性を調べる (薬学科2年 後期 1単位 必修)	平成27年後期	学生全員が実習に参加できるような指導と双方向の質疑応答を心がけている。	
物理化学実験 (健康生命薬化学科2年 後期 1単位 必修)	平成27年後期	学生全員が実習に参加できるような指導と双方向の質疑応答を心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
「物質の特性を調べる」「物理化学実験」実習書	平成22年9月～現在	二年生後期の実習に用いる実習帳を、担当教員と共に作成し、毎年、改訂を行っている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
第80回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 近畿	平成27年9月	神戸薬科大学で開催されたワークショップに参加した。	
大阪府立今宮高等学校 非常勤講師	平成27年11月～12月	大阪府立今宮高等学校にて、医薬学入門の講義を行った。	
神戸学院大学薬学部薬学共用試験OSCE評価者	平成27年12月	神戸学院大学薬学部薬学共用試験OSCEにおいて評価を行った。	
薬学実務実習FD	平成27年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Role of bis(monoacylglycerol)phosphate in propranolol binding to phospholipid membranes under acidic conditions as measured by high-performance frontal analysis/capillary electrophoresis	共著	平成24年10月	Electrophoresis, 33
Improved capillary electrophoresis method for the analysis of carbohydrate-deficient transferrin in human serum, avoiding interference by complement C3	共著	平成25年1月	J. Pharm. Biomed. Anal., 76
Maintenance of luminal pH and protease activity in lysosomes/late endosomes by vacuolar ATPase in chlorpromazinetreated RAW263 cells accumulating phospholipids	共著	平成26年2月	Cell Biol. Toxicol., 30
Phospholipid-Modified ODS Monolithic Column for Affinity Prediction of Hydrophobic Basic Drugs to Phospholipids	共著	平成26年2月	Chromatographia, 77
Putative biomarker for phospholipid accumulation in cultured cells treated with phospholipidosis-inducing drugs: Alteration of the phosphatidylinositol composition detected using high-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry	共著	平成26年9月	J. Chromatogr. B, 967
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
リン脂質による塩基性両親媒性薬物の毒性減弱効果と、バイオマーカーによるその効果の検出		平成27年5月	第22回クロマトグラフィーシンポジウム
薬剤誘発性ホスホリピドーシスのリン脂質バイオマーカーの比較検討		平成27年11月	第26回クロマトグラフィー科学会議
LC-MS/MSを用いたホスホリピドーシス誘発能新規スクリーニング法の開発		平成28年 3月	日本薬学会 第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床製剤学	職名 助教	氏名 原口 珠実
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) プレファーマシー実習Ⅰ(薬学科4年次生)		2014年4月1日～ 現在	薬剤師としての職務を実践するための長期実務実習の事前学習として、調剤、注射剤調製等の実習を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 医薬品情報・評価学(改訂第3版)		2011年4月	p112-123 ジェネリック薬と情報(内田享弘, 原口珠実, 立花禮子) p126-130 キット製剤と使用方法(内田享弘, 江嶋章子, 原口珠実)
薬物-飲食物 相互作用 的確な栄養療法のために (医歯薬出版株式会社)		2012年	P10-13 薬物と飲食物の相互作用(内田享弘, 原口珠実)
フレイル超高齢者社会における最重要課題と予防戦略 (医歯薬出版株式会社)		2014年	p106-109 フレイルと薬剤(内田享弘, 原口珠実)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
SSH(Super Science High school)武庫川女子大学附属高校生科学演習実験Ⅱ&Ⅲ補助		2010年10月 2011年11月 2012年11月 2013年11月 2014年11月	インターネットによる医薬品情報検索方法の演習、スモールグループディスカッションによるグループ発表の補助、後発医薬品の品質評価として溶出試験や崩壊試験の実験補助を行った。
OSCE外部評価者		2010年12月 2011年12月 2012年12月 2013年12月 2014年12月	神戸薬科大学 神戸学院大学 兵庫医療大学 神戸薬科大学 神戸学院大学
薬学実務実習FD		2015年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
人工唾液を用いた市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性評価Ⅱ	共著	2014年3月	医学と薬学, 71(3), 437-447
Evaluation of ebastine-loaded orally disintegrating tablets using new apparatus of detecting disintegration time and e-tongue system	共著	2014年6月	J Drug Del Sci Tech, 24(6), 684-688
Bitterness evaluation of acidic pharmaceutical substances (NSAIDs) using a taste sensor	共著	2014年12月	Chem Pharm Bull., 62(12), 1252-1258
Evaluation of the palatability in 10 different famotidine orally disintegrating tablets by combination of disintegration device and taste sensor	共著	2015年8月	Drug. Dev. Ind. Pharm., 41(8), 1387-1392
Multiple linear regression analysis indicates association of P-glycoprotein substrate or inhibitor character with bitterness intensity, measured with a sensor	共著	2015年9月	J. Pharm. Sci. 104(9), 2789-2794

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
医薬品-苦味マスキング剤間の分子間相互作用解析	2015年5月	日本薬剤学会第30年会
電子味覚システムを用いた医薬品の味質分類評価	2015年5月	日本薬剤学会第30年会
医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸由来物質（カフェ酸、キナ酸）の効果	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
Interaction analysis between drug and taste masking agent by surface plasmon resonance (SPR)	2015年10月	AAPS annual meeting
味覚センサを用いた複合剤の苦味予測	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2009年～現在	日本薬学会 会員	
2009年～現在	日本薬剤学会 会員	
2009年～現在	日本医療薬学会 会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 臨床薬学講座	職名 助教	氏名 川上(藤田) 恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について プレファーマシー実習Ⅱ ・工夫など		平成22年～現在	4回生の薬局・病院実習に行く前の実習。調剤、鑑査、注射、TDM、遺伝子多型の検出、コミュニケーションなどを指導する。少人数制のSGDなども含む。 実習内容・準備において、最新の情報を取り入れるとともに、基本的な知識や技能がつくようにマンツーマンでチェックを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・プレファーマシー実習 実習帳 ・プレファーマシー実習Ⅱ 課題帳		平成22年～現在 平成22年～現在	薬剤情報・薬物療法の変更や、新薬の承認に伴い、いずれも毎年更新している。また、わかりやすいように図表や写真を取り入れて作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・朝小サマースクール(朝日小学生新聞主催)の薬学部ワークショップ ・認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 近畿 ・薬学実務実習FD		平成24年～現在 平成25年8月	小学生を対象に、薬を正しく使用してもらうためにワークショップを行った。科学実験・薬剤の調製・作製などを計画し、視覚的に理解を得られるように工夫した。 実務実習における指導薬剤師の養成を目的とした研修プログラムに参加した。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Treatment schedule-dependent effect of 5-fluorouracil and platinum derivatives in colorectal cancer cells	共著	2012年	Eur J Pharm Sci, 45: 272-281
Involvement of the mevalonate pathway in the antiproliferative effect of zoledronate on ACHN renal cell carcinoma cells	共著	2012年	Oncol Rep, 7: 1371-1376
Cytotoxicity of 15-deoxy- Δ 12,14-prostaglandin J2 through PPAR γ -independent pathway and the involvement of the JNK and Akt pathway in renal cell carcinoma	共著	2012年	Int J Med Sci, 9: 555-566
15-Deoxy- Δ 12,14-prostaglandin J2 enhanced the anti-tumor activity of camptothecin against renal cell carcinoma independently of topoisomerase-II and PPAR γ pathways	共著	2011年	Biochem Biophys Res Commun, 410: 563-567
Cytotoxicity of troglitazone through PPAR γ -independent pathway and p38 MAPK pathway in renal cell carcinoma	共著	2011年	Cancer Lett, 312: 219-227

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ヒト神経膠芽腫細胞におけるテモゾロミドとバルプロ酸の併用効果	H28年3月	日本薬学会
膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果（1）	H28年3月	日本薬学会
膵臓がん細胞におけるトログリタゾンの抗腫瘍効果（2）	H28年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
～現在	日本薬学会会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 東洋医薬学	職名 助教	氏名 吉富 久恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
天然物化学実験		2007年4月～	健康生命薬科学科3年 前期 1単位 必須準備、指導、レポート評価を行う
生薬・天然物医薬品を取り扱う		2007年4月～	薬学科3年 前期 1単位 必須準備、指導、レポート評価を行う
早期体験実習Ⅱ		2010年9月～	健康生命薬科学科1年 後期 1単位 必須準備、指導、レポート評価を行う
薬学基礎実験		2012年9月～	健康生命薬科学科1年 後期 1単位 必須準備、指導、レポート評価を行う
2 作成した教科書、教材、参考書			
実習テキスト		2007年4月～	学生のレベルや知識に対応した実習帳の作成を行った
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
		2009年4月～ 2015年12月	武庫川女子大学附属高等学校SSHの学生への講義改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Guava leaf extracts alleviate fatty liver via expression of adiponectin receptors in SHRSP.Z-Leprfa/lzm rats	共著	2012年2月	Nutr Metab (Lond).13
Guava Leaf extracts inhibit 3T3-L1 adipocyte differentiation via activating AMPK	共著	2013年12月	Journal of nutritional therapeutics, 31: 107-113
L-Citrulline increases hepatic sensitivity to insulin by reducing the phosphorylation of serine 1101 in insulin receptor substrate-1	共著	2015年6月	BMC Complement Altern Med. :15:188
Tang-Nai-Kang Alleviates Pre-diabetes and Metabolic Disorders and Induces a Gene Expression Switch toward Fatty Acid Oxidation in SHR.Cg-Leprcp/NDmcr Rats	共著	2015年4月	PLoS One. 13:10(4)
Qiwei granules alleviates podocyte lesion in kidney of diabetic KK-Ay mice	共著	2015年3月	BMC Complement Altern Med. 31:15:97
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
青錢柳エキスの血糖降下作用およびその作用機序の解析		2016年3月	第30回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会
青錢柳エキスによる肝脂肪蓄積の抑制効果		2016年3月	第30回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会
メタボリックシンドロームにおけるノニ果実の改善効果		2016年3月	第136回日本日本薬学会
L-シトルリンの摂食抑制を介した抗肥満効果		2016年3月	第136回日本日本薬学会
Effects of Cyclocarya paliurus Leaf butanol extract on the Metabolic Syndrome in SHR/cp Rats		2016年3月	第136回日本日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2007年4月～	日本薬学会 会員		
2009年4月～	日本生薬学会 会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	職名教授	氏名 池田克巳	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	~現在	講義の最後には小テストを行い講義の要約について確認させるようにしている。またパワーポイントを使用し、理解を深めるようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	~現在	実習及び講義にあたっては実習用の教材を作成し、それに基づいて実施している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FD)	2015/12/9	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
新版茶の機能・血圧上昇抑制作用	共著	2013年9月	農文協 p111-117
メタボリックシンドローム関連モデル動物	共著	2011年1月	日本臨床 1 p358-363
緑茶カテキンの血圧上昇抑制作用	共著	2014年6月	Functional Food. Vol18 No1. 21-25
Caffeic Acid Phenethyl Ester Suppresses the Production of Adipocytokines, Leptin, Tumor Necrosis 因子 Factor -Alpha and Resistin, during Differentiation to Adipocytes in 3T3-L1 Cells	共著	2011年1月	Biol. Pharm. Bull., 34(4), 490-494
Effect of Berberine on Adipose Tissues and Kidney Function in 3T3-L1 and Spontaneously Hypertensive rat	共著	2015年6月	Natural Product Commu. 10, 1543-1546
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Berberine投与による高血圧自然発症ラットの内臓脂肪および腎臓への影響		2015年10月	第38回日本高血圧学会
肥満・高血圧ラット (SHRSP, Z-Leprfa/1zmDmcr) の腎障害におけるGLP-1の影響		2015年10月	第38回日本高血圧学会
3T3-L1培養細胞と高血圧ラットSHRにおけるベルベリンの脂肪細胞組織の影響		2015年10月	第51回高血圧関連疾患モデル学会
SHR, SHRSP及びWKYの24時間血圧概日リズムの基礎的検討		2015年10月	第51回高血圧関連疾患モデル学会
III 学会および社会における主な活動			
平成13年4月~現在	日本高血圧学会評議員		
平成13年4月~現在	SHR学会理事		
平成13年4月~現在	SHR共同利用研究会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名	学部長、教授	市川 厚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			授業の科目の節目において、小テストを実施し、学生の理解力を確認。パワーポイントを用いて理解を高める工夫をした。授業評価のアンケートを実施し、回答に対して必要に応じてフィードバックした。
2 作成した教科書、教材、参考書 日本薬学会編スタンダード薬学シリーズ 日本薬学会編スタンダード薬学シリーズII マッキー生化学一分子から解き明かす生命一		2012年2月10日 ～2014/12/10 2015年4月1日 ～2016/3/26 2012年3月10日	モデルコアカリの全中項目のSBOについて、標準的教科書(化学同人出版)の総監修を行った。 2013年改定コアカリ対応の教材として、全中項目SBOの標準的教科書(化学同人出版)の総監修。 欧米で評価の高い生化学参考書の翻訳、監修(福岡伸一と共訳、化学同人出版)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年8月 平成26年10月	薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂の経緯と検討体制、日病薬、50(10)、1210-1216
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成27年～ 平成27年12月9日	薬学教育学会の設立準備委員会委員 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Molecular biology of histidine decarboxylase and prostaglandin receptors	共著	平成22年8月	Proc Jpa. Acad. Ser B. Phys. Biol. S. 86(8):848-866
Induction of integrin beta3 in PGE2-stimulated adhesion of mastocytoma P-815 cells to the Arg-Gly-Asp-enriched fragment of fibronectin	共著	平成23年4月	Biochemical Pharmacology, 81(7)8688-8672
Histamine synthesis is required for granule maturation in murine mast cells	共著	平成26年1月	Eur J Immunol., 44(1) 204-214
Role of lipid raft components and actin cytoskeleton in fibronectin-binding, surface expression, and de novo synthesis of integrin subunits in PGE2- or 8-Br-cAMP-stimulated mastocytoma P-815 cells binding, surface expression and de novo synthesis	共著	平成26年4月	Biochem Pharmacol. 88, (3) 364-371
Comparative gene expression profiles in pancreatic islets associated with agouti yellow mutation and PACAP overexpression in mice	共著	平成27年1月	Biochem. Biophys. Reports, 2, 179-183
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
6-O- α -Maltosyl- β cyclodextrinによるNiemann-Pick 病Type Cの病態モデル、Npc1欠損細胞のコレステロール輸送関連遺伝子の発現量変化+J34+B33+F31		平成28年3月	日本薬学会136年会
6-O- α -maltosyl- β cyclodextrinによるNiemann-Pick 病Type Cの病態モデル、NPC1欠損細胞のリソソームへの取り込みとコレステロールレベルの変化		平成28年3月	日本薬学会136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年6月～平成27年12月	全国薬科大学長・学部長会議会長		
平成22年6月～平成27年12月	文部科学省薬学教育モデルコアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会座長		
平成22年6月～平成27年12月	文部科学省薬学系人材養成のあり方に関する検討会副会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 ゲノム機能解析学講座	職名 教授	氏名 木下健司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2012年4月～	大学生以上を対象にアルコール体質遺伝子検査を実施して、その結果を体質カードとして返却し、未成年者飲酒防止と適正飲酒教育を行っている。初等教育用にはアルコールパッチ法で体質チェックする。 実施校：武庫川女子大学、九州大学、佐賀大学、鹿児島大学、宮崎大学、別府大学、神戸学院大学、武蔵野大学、清教学園中高、小豆島池田小学校、尼崎市小園小学校など
1) 初期演習：未成年者飲酒防止講義(健康飲酒教育)			
2) 他大学：未成年者飲酒防止講義(健康飲酒教育)			
3) 未成年者飲酒防止講義(小中高生対象)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
1) 紙芝居：ねこの見た夢		2014年7月	未成年者飲酒防止教育教材(紙芝居)を作成した。
2) アルコールパッチテストとアルコール体質缶バッジ		2012年4月	アルコールパッチテスト結果を缶バッジにして配布
3) 飲酒と健康テキスト		2012年4月	アルコール健康教育セミナー用冊子
4) アルコール体質カード(A～E型)		2012年4月	アルコール体質をA～E型の5タイプに分類
5) アルコール体質遺伝子検査キット		2011年4月	未成年者飲酒防止教育ツールを開発した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
1) 徳島文理大学香川薬学部セミナー		2016年1月	香川県魅力ある大学づくり支援事業
2) 香川県薬剤師会生涯教育研修会		2014年9月	個別化医療の実現に向けた薬物代謝酵素遺伝子多型解析
3) 武庫川女子大学教育講演会		2014年10月	飲酒の功罪とアルコール体質、そして個別化医療は実現するか?
4) 日本薬学会第133年会(横浜)教育フォーラム		2013年3月	臨床薬学教育における米国臨床研修の現状と展望
5) 第35回日本臨床栄養学会総会		2013年10月	招待講演：遺伝情報とチーム医療
4 その他教育活動上特記すべき事項			
1) 徳島文理大学香川薬学部 特任教授		2014年9月～	薬物代謝関連遺伝子多型解析に関する共同研究実施のため
2) 浜甲子園団地・大学交流プロジェクト		2011年7月～	UR浜甲子園団地の活性化推進事業において健康相談を実施
3) NHK「高校講座・科学と人間生活」		2015年6月18日	武庫川女子大学における遺伝子教育を紹介
4) NHKテレビ出演：サイエンスZERO		2013年8月11日	「あなたの運命が変わる!? 遺伝子解読がもたらす医療革命」
5) NHKテレビ出演：NHKスペシャル		2013年7月7日	あなたは未来をどこまで知りたいですか? 運命の遺伝子」
6) 薬学実務実習FD		2015年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
East Asian Variant of Aldehyde Dehydrogenase 2 (ALDH2*2) is Associated with Coronary Spastic Angina -Possible roles of reactive aldehydes and implications of alcohol flushing syndrome-	共著	2015年5月	Circulation 131,1665-1673
Verification and Validation on Single Nucleotide Polymorphism Analysis of Alcohol Metabolism-Related Genes ADH1B and ALD H2, Using Dried-Saliva Samples	共著	2015年11月	臨床病理 63巻11号
女子大学生におけるエタノールパッチテストの反応性とALDH2およびADH1B遺伝子多型との関連	共著	2015年5月	日本衛生学会誌70巻2号
Genetic Alcohol Sensitivity Regulated by ALDH2 and ADH1B Polymorphisms as Indicator of Mental Disorders in Japanese Empl oyees	共著	2015年1月	Alcohol and Alcoholism, Vol. 50, No. 1
Functional combination analysis of drug metabolizing enzymes CYP1A2, CYP2C9, CYP2C19, CYP2D6 and CYP3A5 in the Japanese population	共著	2015年1月	Int. J. Med. Sci. Vol. 12, No. 1

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
該当なし		
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2011年7月～現在	浜甲子園団地・大学交流プロジェクトのサブリーダー	
2006年8月～現在	日本薬学会、日本分子生物学会	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬化学II	職名 教授	氏名 来海徹太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
授業後の復習教材のWeb利用による配布		平成22年～	大康1年生、新薬1年生を対象に必修科目の薬学化学IIおよび有機化学IIの授業数日後に復習用教材、問題集をWeb上に掲載した。また、解説、解答例も掲載し自主学習を促した。
授業に付随する演習科目における自主学習推進授業		平成22年～	薬学部1年次生対象の必修科目に付随した演習科目において、演習解答後に学生相互で答え合わせ、修正を行い理解を深める試みを行った。併せてTA(チューター)による質問対策を実施した。
配属学生に対する医薬品情報検索指導		平成22年～	研究室独自の活動として、5年次配属学生に対して医薬品の必要な情報の収集方法を解説し、実践させた。成果について相互の発表を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬学基礎演習IおよびII各回演習問題		平成22年～	毎回の授業進路に合わせた内容の問題作成。30分程度で解答し、演習授業時間内に自己添削、修正、未解決問題の解決を行う。
薬学化学II復習教材(問題付)、解答例		平成22年～	薬学化学IIおよび薬学基礎演習Iでは、より深い科目内容の理解を求めて、練習問題を中心とした復習教材を作成し、Webにより配信した。
有機化学II復習教材(問題付)、解答例		平成22年～	有機化学IIおよび薬学基礎演習IIでは、科目へのより深い理解を求めて、練習問題を中心とした復習教材をWeb配信した。
有機化学系実験(実験操作書)		平成22年～	薬学部2年次学生の有機化学系実験を円滑に行うため、基本操作、注意、禁止事項を記載した詳細な実習帳を独自に作成し、実習を実施した。
総合演習I(CBT支援)授業配布プリント		平成22年～	薬学科4年次学生を対象としたCBT支援科目である該当科目の化学系の知識をまとめるための補助資料を作成して、科目目標の達成を補助した。
総合演習II(薬剤師国家試験対策)授業配布プリント		平成22年～	薬剤師国家試験用の対策講義である本科目で、薬学科6年次生の化学領域の総括学習の補助資料を作成して、知識の総括のサポートを行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学共用試験CBT実施担当の活動		平成17年～	薬学科4年次学生が受験する薬学共用試験CBTの実施担当として、薬学共用試験センター主催の説明会に参加し、実施概要をまとめる。当該大学においては、学生、教員を対象とした説明会をそれぞれ開催し、CBTの円滑な実施をはかる。さらには、実施責任者として実施に携わる。
薬学実務実習FD		平成27年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
化学構造と薬理作用(医薬品を化学的に読む)	共著	平成27年3月30日	廣川書店
The first enantioselective total synthesis of lantalucratin C and determination of its absolute configuration	共著	平成27年7月	Tetrahedron vol. 71

Unusual O-alkylation of 2-hydroxy-1,4-naphthoquinone utilizing alkoxymethyl chlorides	共著	平成27年4月	Chem. Pharm. Bull., 63
A diversity-oriented synthesis of carverine derivatives via TEMPO-promoted aerobic oxidative C-N bond formation	共著	平成26年3月	Tetrahedron Lett., 55 (22)
Highly enantioselective (-)-sparteine-mediated lateral metalation-functionalization of remote silyl protected ortho-ethyl N,N-dialkyl aryl O-carbamates	共著	平成26年12月	J. Org. Chem., 80 (7)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ロジウム触媒を用いた2-エチルアニリン誘導体閉環によるインドール-3-カルボキサミド類の合成		平成28年3月	日本薬学会第136年会 (横浜)
抗腫瘍活性天然化合物Rhinacanthins O, P 側鎖の合成研究		平成28年3月	日本薬学会第136年会 (横浜)
銅触媒を用いた分子内C-Hアミノ化による新規キサンチン骨格構築法の開発		平成28年3月	日本薬学会第136年会 (横浜)
アルコキシメチルクロリドを用いた2-hydroxy-1,4-naphthoquinone類の特異な化学選択的エーテル化反応		平成27年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム (近畿大学)
オルトナフトキノン骨格を有する抗腫瘍天然化合物Lantalucratin Cの合成研究		平成27年3月	日本薬学会第135年会 (神戸)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成17年～	日本化学会代議員		
平成17年～	薬学共用試験CBT実施担当委員 (薬学共用試験センター)		
平成14年～	有機合成化学協会会員		
昭和62年～	日本化学会会員		
昭和61年～	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬理学Ⅱ	職名 教授	氏名 篠塚 和正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月1日～現在	習熟度別授業による低学力学生の学習習慣の定着
		2010年4月1日～現在	双方向授業の実施、質疑応答による評価
		2008年4月1日～現在	先端機器を用いた研究体感型の実習と発表への評価
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年2月	NR・サプリメントアドバイザー必携 (第一出版)
		2015年10月	最新薬理学 第8版 (廣川書店)
		2007年3月	新しい機能形態学(ヒトの成り立ちとその働き) 第2版(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2015年3月	薬理学分野における強化教育に対する予備的評価(日本薬学会年会)
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
		2015年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
NRサプリメントアドバイザー必携	共著	2015年2月	第一出版
生物系薬学Ⅱ人体の成り立ちと生体機能の調節	共著	2015年10月	東京化学同人,
メタボリックシンドロームにおける動脈拡張障害と血管周囲脂肪組織が及ぼす効果.	共著	2015年	日薬理誌, 145, 59-64
A maternal high salt diet disturbs cardiac and vascular function of offspring.	共著	2015年	Life Sci., 136, 42-51
Differential effects of mitogen-activated protein kinase pathway inhibitors on P-glycoprotein activation.	共著	2015年	ADMET & DMPK, 3, 77-83
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
1. ラット膀胱収縮機能に対する食品成分の影響		2015年12月	第8回排尿障害モデル動物研究会
2. A Maternal High Salt Diet During Pregnancy and Lactation Affects Offspring Cardiac Function		2015年9月	Council on Hypertension 2015 Scientific Sessions
3. ラット摘出膀胱におけるノビレチンおよびタンゲレチンの影響		2015年9月	第22回日本排尿機能学会
4. メタボリックシンドロームにおける血管周囲脂肪組織が血管弛緩反応に与える影響.		2015年3月	日本薬学会第135年会
5. メタボリックシンドロームモデル SHRSP, Z-Leprfa/1zmDmcrラットの動脈におけるプロテアーゼ活性化型受容体-2内因性アゴニストTrypsinに対する血管弛緩反応性.		2015年3月	日本薬学会第135年会
6. 薬理学分野における強化教育に対する予備的評価		2015年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～現在	日本臨床栄養協会 理事		
平成17年4月～現在	日本高血圧関連疾患モデル学会評議員		
平成11年4月～現在	日本食品化学会評議員		
平成6年4月～現在	日本薬理学会評議員 その他6学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 生化学Ⅱ	職名 教授	氏名 野坂 和人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・ 担当科目	平成26年4月～現在	薬学生物学 (単独、健康生命薬科学科1年前期)	
	平成26年4月～現在	生命情報を担う遺伝子 (単独、薬学科2年前期)	
	平成26年9月～現在	応用生化学Ⅱ (単独、健康生命薬科学科1年後期)	
	平成26年9月～現在	小さな生命体と遺伝子を調べる (分担、薬学科2年前期)	
	平成27年4月～現在	基礎生物 (分担、薬学科1年前期)	
	平成27年9月～現在	小さな生命体 (分担、薬学科2年後期)	
・ 担当科目における授業評価	平成26年度	薬学生物学 (3.28点/5点) 生命情報を担う遺伝子 (3.51点/5点) 応用生化学Ⅱ (3.17点/5点)	
	平成27年度	薬学生物学 (3.33点/5点) 生命情報を担う遺伝子 (3.52点/5点)	
・ 授業方法の工夫			
1. 講義中の演習問題活用	平成26年4月～現在	講義内容の理解度を深めるため講義毎に演習問題を課し、解答を提出させている。この演習問題は学生が互いに相談して解答することを認めているが、学生の講義に対する取り組みを推し量ることにも役立っている。	
2. インターネットの活用	平成26年4月～現在	講義でスライドを用いたときのハンドアウト、演習問題の解答、定期試験の解答をμCam (学習支援システム) に掲載し、学生の自学学習を促している。	
3. LS-EDIが公開している動画の利用	平成26年4月～現在	LS-EDI (Life Science Educational Digital Image Repository) が公開している動画ファイル (swf形式) をダウンロードし、web作成ソフトでブラウザに組み込み自分のパソコンで視聴できるように加工し、授業で解説した。	
4. 質問アンケートの実施	平成26年9月～現在	受講者が40人程度の講義において、7回目と14回目の授業でアンケートを実施し、理解が不十分と思われる点や疑問点など質問を各自2つずつ書かせ、次回の授業でそれぞれについて解説した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
1. 「生命情報を担う遺伝子」テキスト	平成27年4月	全74ページ。単著。講義で使用するPowerPointのハンドアウトを加工して、講義ノートとしてまとめた。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
1. 薬学部教育FDワークショップ	平成27年3月	「学習効果を高める教育とは」というテーマについてSGDを行い、討論内容を発表した。	
2. 第79回薬学教育者ワークショップ in 近畿	平成27年8月	標記ワークショップに参加し、討論および発言した。	
3. 薬学実務実習FD	平成27年12月	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FDに参加した。	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
チアミンの生合成, 吸収, 代謝	単著	2010年11月	ビタミンの総合事典, p160-165 (日本ビタミン学会編集)朝倉書店
酵母の転写因子Pdc2によるチアミン依存性転写誘導機構	共著	2011年10月	ビタミン 85(10), 538-546
Facilitated recruitment of Pdc2p, a yeast transcriptional activator, in response to thiamin starvation	共著	2012年12月	FEMS Microbiol Lett 330(2), 140-147
Enzymatic and structural characterization of an archaeal thiamin phosphate synthase	共著	2014年4月	Biochim Biophys Acta 1844(4), 803-809
Expanding the clinical and molecular spectrum of thiamine pyrophosphokinase deficiency:A treatable neurological disorder caused by TPK1 mutations	共著	2014年12月	Mol Genet Metabolism 113(4), 301-306
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
古細菌 <i>Pyrobaculum calidifontis</i> のチアミンリン酸キナーゼ ThiL の酵素学的性質		2015年6月	日本ビタミン学会第67会大会
Palladium on spherical carbon (Pd/SC) as a catalyst for chemoselective hydrogenation		2015年12月	The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies
ピロリ菌のチアミン要求性とチアミン輸送系について		2016年1月	第443回ビタミンB研究協議会
酵母におけるチアミン・チアゾール部の嫌気条件下での生合成		2016年3月	日本薬学会第136年会
古細菌 <i>Pyrobaculum calidifontis</i> のチアミンリン酸キナーゼの酵素学的性質と反応機構		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～現在	ビタミンB研究委員会委員		
平成22年4月～現在	日本ビタミン学会誌「ビタミン」トピックス担当委員		
平成25年11月～現在	日本ビタミン学会代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬品分析学	職名 教授	氏名 萩中 淳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 双方向授業・演習問題の実施		2009年5月～ 2015年5月	講義：講義の中の重要なポイントは、プリントを作り、注意を喚起するようにしている。また、問題を解くことにより、理解度を深めるように配慮している。 実習：単独およびグループで行う実習では、個々の学生あるいはグループの実習の進度に合わせて、実習を進められるように、研究室のスタッフが全員で実習に当たっている。
2 作成した教科書、教材、参考書 NEW薬学分析化学 第2版 NEW薬学機器分析 第2版 分析科学 第2版 化学物質の検出と定量Ⅱ 教材 パートナー分析化学Ⅰ 改訂第2版 パートナー分析化学Ⅱ 改訂第2版 物理系薬学Ⅱ. 化学物質の分析 第3版 「物質を解析する」 実習教材 薬学分析化学 薬学機器分析		2011年1月 2011年3月 2011年3月 2011年4月 2012年3月 2012年3月 2012年3月 2012年4月 2015年1月 2015年3月	当該教科書の編集と執筆 当該教科書の編集と執筆 当該教科書の編集と執筆 日本薬局方の中で医薬品分析法に関する項目についてまとめた。日本薬局方改正に伴い、5年毎に教科書の改正を行う。 当該教科書の編集と執筆 当該教科書の執筆 当該教科書の執筆 3年前期で行う分析化学実習（液体クロマトグラフィー、固相抽出、定量法の基礎）の手引き 当該教科書の編集と執筆 当該教科書の編集と執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 アメリカ薬学研修プログラム 武庫川女子大学アメリカ薬学研修プログラム		2012年3月 2013年3月	武庫川女子大学アメリカ分校(MFWI)に滞在して、ワシントン州立大学、スポケーン市の病院・薬局で研修を行うプログラムの薬学会年会での発表 武庫川女子大学アメリカ分校(MFWI)に滞在して、ワシントン州立大学、スポケーン市の病院・薬局で研修を行うプログラムの薬学会年会での招待講演
4 その他教育活動上特記すべき事項		2015/12/9	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Mechanistic aspects of chiral recognition on protein-based stationary phases	単著	2011年1月	CRC Press
Chromatographic Separations and Analysis: Protein and Glycoprotein Stationary Phases	単著	2012年1月	Elsevier
Interaction of cepharanthine with immobilized heat shock protein 90 α (Hsp90 α) and screening of Hsp90 α inhibitors	共著	2013年1月	Anal. Biochem., 434, 202-206
Preparation of monodisperse curcumin-imprinted polymer by precipitation polymerization and its application for the extraction of curcuminoids from <i>Curcuma longa L</i>	共著	2013年5月	Anal. Bioanal. Chem., 405, 6555-6561
Separation of enantiomers on chiral stationary phase based on chicken α 1-acid glycoprotein: effect of silica particle diameters on column performance	共著	2014年7月	J. Chromatogr. A, 1363,96-100

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アフィニティーを利用した分子認識基材の開発と応用	単著	2015年8月	第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム
安息香酸およびその塩素置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価	共著	2015年9月	日本分析化学会第64年会
Molecularly imprinted polymers as affinity media for sample preparation	単著	2015年9月	2nd International Symposium on Pharmaceutical Analysis
ヒト血清アルブミンを固定化した充填剤による光学分割：固定化法の光学認識能に対する影響	共著	2016年3月	日本薬学会第136年会
カフェイン酸フェネチルエステルに対する分子インプリントポリマーの調製と応用	共著	2016年3月	日本薬学会第136年会
安息香酸およびその置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価：置換基が分子認識能に与える影響	共著	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2009年5月～2010年3月	化学連合理事		
2009年5月～2012年1月	日本薬学会代議員		
2009年5月～2010年2月	医道審議会専門委員（薬剤師分科会）		
2009年5月～2009年12月	クロマトグラフィー科学会理事		
2009年5月～2015年5月	分子不斉研究機構（MCRO）理事		
2009年5月～2010年12月	国際薬学連合日本薬学会代議員		
2009年5月～2010年1月	国立大学教育研究評価委員会専門委員		
2009年5月～2015年5月	Chromatography Editorial Board Member		
2009年5月～2015年5月	Current Pharm. Anal. Editorial Board Member		
2009年5月～2015年5月	J. Pharm. Biomed. Anal. 編集長		
2009年9月～2015年5月	LCGC Europe Asia Pacific Editorial Board Member		
2010年1月～2011年12月	クロマトグラフィー科学会会長		
2010年11月	日本薬学会学会賞第2次選考委員		
2010年12月～2011年11月	2011年度日本分析化学会学会賞等審査委員		
2011年1月～2012年12月	科学研究費委員会専門委員（1段）		
2011年1月～2015年5月	Journal of Pharmaceutical Analysis Editorial Board Member		
2011年3月～2012年2月	日本分析化学会近畿支部長		
2011年9月	日本薬学会学会賞幹事		
2012年1月～2015年5月	クロマトグラフィー科学会監事		
2012年11月	日本薬学会学会賞第2次選考委員		
2013年1月～2015年5月	Molecular Imprinting Editorial Board Member		
2013年2月～2015年1月	日本薬学会物理系薬学部会副会長		
2013年12月～2014年11月	2014年度日本分析化学会学会賞等審査委員		
2014年1月～2015年5月	科学研究費委員会専門委員（2段）		
2014年12月～2015年5月	2015年度日本分析化学会学会賞等審査委員		
2015年2月～2015年5月	日本薬学会物理系薬学部会会長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬化学 II	職名 准教授	氏名 稲本 浄文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・「有機合成化学」		2014年04月から	健康生命薬科学科3年次学生対象の本講義において、毎回10分程度の小テストを行うことで、学生の理解度を適宜確かめながら授業を進めた。
・「有機化合物の骨格と性質 II」		2014年04月から	薬学科2年次学生対象の本講義において、毎回10分程度の小テストを行うことで、学生の理解度を適宜確かめながら授業を進めた。
・「応用有機化学 II」		2014年09月から	健康生命薬科学科2年次学生対象の本講義において、毎回10分程度の小テストを行うことで、学生の理解度を適宜確かめながら授業を進めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・「薬学基礎演習 II」における演習問題		2014年09月から	5回分の演習問題を作成した。
・「応用有機化学 II」における小テスト		2014年09月から	授業回数分の小テスト(所要時間10分)を作成した。
・「有機化合物の骨格と性質 II」における小テスト		2015年04月から	授業回数分の小テスト(所要時間10分)を作成した。
・「有機合成化学」における小テスト		2015年04月から	授業回数分の小テスト(所要時間10分)を作成した。
・「有機化学実験(有機化合物をつくる, 基礎有機化学実験)」におけるテキスト		2015年04月から	有機化学に関する学生実習に使用するテキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Cross Coupling and Heck-Type Reactions 2	共著	2013年3月	pp. 395-437 を担当. (Thieme)

Synthesis of Heterocyclic Compounds through Palladium-Catalyzed C-H Cyclization Processes	単著	2013年10月	<i>Chemical & Pharmaceutical Bulletin</i> 2013, 61(10), 987-986 (The Pharmaceutical Society of Japan)
Organocatalytic Functionalization of Heteroaromatic <i>N</i> -Oxides with C-Nucleophiles Using <i>in situ</i> Generated Onium Amide Bases	共著	2013年6月	<i>Organic & Biomolecular Chemistry</i> 2013, 11(27), 4438-4441 (Royal Society of Chemistry)
Ruthenium-Catalyzed Carbonylative C-H Cyclization of 2-Arylphenols: A Novel Synthetic Route to 6H-Dibenzo[b,d]pyran-6-ones	共著	2013年8月	<i>Organic Letters</i> 2013, 15(15), 3962-3965 (American Chemical Society)
Use of Tetramethylammonium Fluoride (TMAF) and Alkali Metal Alkoxides as an Activator for Catalytic Deprotonative Functionalization of Heteroaromatic C(sp ²)-H Bonds	共著	2014年10月	<i>Tetrahedron</i> 2014, 70(43), 7917-7922 (Elsevier)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
不斉アザマイケルーフッ素化連続反応の開発研究		2015年3月	日本薬学会 第135年会（神戸）
含ハロゲンフェネチルアミンの Pd 触媒 C(sp ²)-H 結合選択的アミノカルボニル化		2015年11月	第45回複素環化学 討論会（東京）
抗腫瘍活性天然化合物 Rhinacanthins O, P 側鎖の合成研究		2016年3月	日本薬学会 第136年会（横浜）
銅触媒を用いた分子内 C-H アミノ化による新規キサンチン骨格構築法の開発		2016年3月	日本薬学会 第136年会（横浜）
ロジウム触媒を用いた 2-エチルアニリン誘導体閉環によるインドール-3-カルボキサミド類の合成		2016年3月	日本薬学会 第136年会（横浜）
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
日本薬学会	会員		
有機合成化学協会	会員		
日本化学会	会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 生化学I	職名 准教授	氏名 水野 英哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義「基礎生物」、「生化学」(薬学科1年、必修)		H27年4月～ H28年1月	専門用語の暗記だけではなく、理解させるために、講義では図表を多く用いて説明した。教科書からの転載では不十分な図表については自分で作成をした。説明の時間を多くとるため、黒板ではなくスライドを用いて説明した。予習・復習に役立つように、スライドファイルは講義前にμ Camを利用して、ダウンロードできるようにした。また、講義内容をまとめたプリントを配布した。聞くだけでは覚えられない傾向があるので、重要箇所については空白にしてスライドの内容を転記させ、記憶・理解させるように努めた。プリントには過去の国家試験をベースにした確認問題を付け、応用力を磨けるようにした。さらに、項目ごとに小テストを行い、定期テスト前だけでなく、常に集中して勉強する習慣が身に付くように工夫した。ノートをとるのに追われて書いていないことをメモする時間が無いという意見がアンケートでいくつか見られたこと及び問題演習と解説の時間を多くとりたいことから、スライドだけでなく講義用プリントもあらかじめ配布し、講義前にプリントの空白部分を埋めて予習してくるよう指導した
2 作成した教科書、教材、参考書 新細胞生物学(第2章 細胞と組織)		H25年3月20日	多細胞生物を構成する細胞と、細胞を構成する細胞膜について解説。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学科5年担任 卒業研究の指導 第80回ワークショップin近畿(神戸薬科大学) 地域別懇談会個人懇談 高等学校模擬授業(大阪市立桜宮高等学校) 薬学実務実習FD OSCE評価者(神戸薬科大学) OSCE評価者(武庫川女子大学)		H27年4月～ H27年4月～ H27年9月20、 21日 H27年9月26日 H27年11月9日 H27年12月9日 H27年12月13日 H27年12月20日	薬学科5年生に対する教務指導 卒業研究生(薬学科5年生)への卒業研究指導 指導薬剤師養成のためのワークショップにタスクフォースとして参加 担当クラスの学生の保護者と面談 大学の講義の一部を高校で公開 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD 実務実習に必要なOSCEに評価者として参加 実務実習に必要なOSCEに評価者として参加

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Glucocorticoid attenuates brain-derived neurotrophic factor-dependent upregulation of glutamate receptors via the suppression of microRNA-132 expression	共著	2010年2月	Neuroscience
α -Synuclein Transgenic Drosophila As a Model of Parkinson's Disease and Related Synucleinopathies	共著	2011年1月	Parkinson's Disease 2010
Identification of muscle-specific microRNAs in serum of muscular dystrophy animal models: promising novel blood-based markers for muscular dystrophy.	共著	2011年3月	PLoS One. e18388.
St. John's Wort Promotes Adipocyte Differentiation and Modulates NF- κ B Activation in 3T3-L1 Cells	共著	2014年7月	Biological & Pharmaceutical Bulletin vol.37
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
microRNAが低分子量Gタンパク質RhesとHuntingtinの細胞毒性に与える影響について		H27年3月	日本薬学会第135年会
ヒト尺骨骨膜由来の骨芽細胞の分化・増殖時に発現しているアルカリ性ホスファターゼアイソザイムの判定に関する研究		H27年3月	日本薬学会第135年会
低分子量Gタンパク質Rhes発現に影響を及ぼす化合物の探索		H28年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～	日本分子生物学会会員		
平成22年12月～	日本薬学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 ゲノム機能解析学	職名 准教授	氏名 村田成範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年～ 2013年～	履修学生の調査・発表を主体とした授業の実施 学生主体のデータベース検索による実験科目
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年～ 2015年12月9日	高校での遺伝子検査出前実験および小学校～高校 での遺伝あるいは遺伝子教育講義(年間数件ずつ) 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
遺伝子診断教育のための簡便な毛髪形態(EDAR)及び耳垢型 (ABCC11)遺伝子多型解析法	共著	2010年3月	武庫川女子大学紀要(第58 巻)
Long PCR-based genotyping for deleted CYP2D6 gene without DNA extraction	共著	2013年6月	Drug Metab Pharmacokinet. vol. 29 No. 3
The ACTN3 gene is a potential biomarker for the risk of non-contact sports injury in female athletes	共著	2014年	Journal of Molecular Biomarkers & Diagnosis.
High Performance and Straightforward Genotyping of the Cytochrome P450 2C9 (CYP2C9) and Vitamin K Epoxide Reductase Complex Subunit 1 (VKORC1) Polymorphisms	共著	同 年7月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences. vol. 40 No. 7
乾燥唾液を用いたアルコール代謝関連遺伝子ADH1B及び ALDH2のSNPタイピング解析法の検証実験と妥当性確認	共著	2015年11月	日本臨床(第63巻第11号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
女子大学生におけるエタノールパッチテストの反応性とALDH2およ びADH1B遺伝子多型との関連		2015年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
2001年4月～現在	分子生物学会会員		
2013年4月～現在	分子生物学会主催・講師派遣事業での講師登録		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 免疫生物学	職名 助教	氏名 阪中(横山) 麻利子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年4月～現在	・担当科目 2年次「生体成分と免疫を調べる(実習)」 実習の準備、指導、解説、レポート評価を行い、適切なコメントを書き込んで返却し、作文作成力や報告能力の向上を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年4月～現在	2年次「生体成分と免疫を調べる(実習)」の実習書の内容を検討し毎年進化させた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年10月～ 2012年3月 2011年12月 2015年12月	瀋陽薬科大学からの留学生1名を半年間受け入れ、研究指導、研究発表指導を行った。 神戸学院大学でOSCE評価者を担当した。 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Histamine synthesis is required for granule maturation in murine mast cells.	共著	2014年、1月	Eur J Immunol. 44(1):204-14.
Mast cell maturation is driven via a group III phospholipase A2-prostaglandin D2-DP1 receptor paracrine axis.	共著	2013年、6月	Nat Immunol.14(6):554-63
Caffeic acid phenethyl ester suppresses the production of pro-inflammatory cytokines in hypertrophic adipocytes through lipopolysaccharide-stimulated macrophages.	共著	2012年、11月	Biol Pharm Bull. 35(11):1941-6.
Restriction of mast cell proliferation through hyaluronan synthesis by co-cultured fibroblasts.	共著	2012年、3月	Biol Pharm Bull. 35(3):408-12.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
CRIM1細胞内ドメイン結合タンパク質の探索		2015年、12月	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会
内因性血管新生抑制因子AngiostatinによるJNKリン酸化抑制機構の解析		2015年、12月	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会
血管内皮細胞の管腔状の形態変化におけるCRIM1の機能		2016年、3月	日本薬学会第136年会
マウス骨髄由来培養マスト細胞の分化過程におけるIgEの機能の解析		2016年、3月	日本薬学会第136年会
腎がん細胞におけるCRIM1膜タンパク質の機能解析		2016年、3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
2004年～現在	日本薬学会会員		
2004年～現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬品分析学	職名 助教	氏名 中村 有加里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・ 演習形式の授業 ・ 実習	平成24年～現在	講義内容を深め実践的に応用できるようにするために演習を実施している。演習形式の授業では、与えられた演習問題に学生が自分のペースで取り組み、数名の担当教員が教室を巡回して行き詰まっている学生にその都度アドバイスを行っている。学生が理解できるよう、学生の習熟度に合わせて工夫して説明をするよう心がけている。 実習前の説明では、実際に使う機器・器具を用いて説明し、全員に伝わるよう必要に応じてクラスを数班に分けてデモ実験を行っている。また、台数が少ない機器を使用する際は、実習中に学生全員が機器を操作できるように工夫している。個々の学生あるいはグループの実習の進度に合わせて実習を進められるよう、適宜指導にあたっている。定量実験では正確さが求められるため、学生の実験結果に応じて手技などについてアドバイスするよう心がけている。また、レポートにより実習内容が理解できているか確認し、学生がつまづいている箇所については自分で答えを導き出せるように考え方の手がかりなどを記すなどして、理解を深めることが出来るよう工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 薬学科3年生実習「物質を解析する」、健康生命薬科学科3年生実習「分析化学実験」で使用する実習テキストの作成	平成25年～現在	実習で使用するテキストは、学生が実習内容をより理解して修得できるように毎年改訂している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Possible protection by notoginsenoside R1 against glutamate neurotoxicity mediated by N-methyl-D-aspartate receptors composed of an NR1/NR2B subunit assembly	共著	平成21年7月	J. Neurosci. Res., 87, 9, 2145-2156
Indomethacin Ameliorates Trimethyltin-Induced Neuronal Damage in Vivo by Attenuating Oxidative Stress in the Dentate Gyrus of Mice	共著	平成23年12月	Biol. Pharm. Bull., 34, 12, 1856-1863
Opposing roles of glucocorticoid receptor and mineralocorticoid receptor in trimethyltin-induced cytotoxicity in the mouse hippocampus	共著	平成24年3月	Neurosci. Lett., 511, 116-119
海馬歯状回障害後の神経系再構築に関する研究	単著	同年3月	金沢大学
Transferrin receptor-1 suppresses neurite outgrowth in neuroblastoma Neuro2A cells	共著	同年4月	Neurochem. Int., 60, 448-457
2 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
安息香酸およびその塩素置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価		平成27年9月	日本分析化学会第64年会
安息香酸およびその置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と評価:置換基が分子認識能に与える影響		平成28年3月	日本薬学会第136年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成20年11月～現在	日本薬学会 会員
平成25年5月～平成27年12月	日本分析化学会 会員
平成25年8月～平成27年12月	クロマトグラフィー科学会 会員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 健康機能解析学	職名 助教	氏名 根岸 裕子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ①健康科学 I (3学科連携教育科目3年前期分担) ②メタボリックシンドローム (薬学科5年後期集中分担) ③早期体験実習 II (薬学科・健康生命薬科学科1年後期分担) ④薬学基礎実験 (健康生命薬科学科1年後期分担) ⑤卒業研究への取り組み		①平成27年4月～現在 ②～⑤平成26年4月～現在	①②【講義】写真、図解を多く用い、最新知見を多く取りあげ、学生の興味を引き出せるよう試み、また配布資料とパワーポイントの連動、板書による補足説明を行い、質問を投げかけることで、講義が単調とならないよう工夫を行う。 ③④【実習】最初の講義には、実習を行うにあたり、白衣着用、身だしなみを整えることなど基本的な注意事項を伝えるとともに、なぜそれらを注意すべきか理由を説明し、理解を深めてもらうよう努める。また、レポートの記述方法について、具体例を挙げ説明を行う。実験においては、プリントでの説明だけではなく、実際の実験手技をICT機器により手元を投影し実演し、分かりやすくすることに努める。 ⑤研究背景の説明、データ検討を定期的に行い、主体的に卒業研究に取り組み、研究に興味を持つことができるよう助言する。
2 作成した教科書、教材、参考書 実習帳および講義プリント作成		平成26年4月	理解が深まり、復習できるよう資料を作成し、補助教材として配布した。図解を多く盛り込み、記入できるスペースを設け、直接書き込めるようにした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2015/12/9	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Blood pressure effect of excess NaCl intake in young male normotensive Africans living in Tanzania	共著	平成27年8月	IJCRIIMPH, vol 7.No8.
アグリコン型イソフラボンの体内でのエクオール代謝能の優位性	共著	平成27年6月	医学のあゆみ vol253.No13
Effects of Berberine on Adipose Tissues and Kidney Function in 3T3-L1 Cells and Spontaneously Hypertensive Rats	共著	平成27年9月	Natural Product Communications, vol10.No9
Increased Oxidative Stress in Cultured 3T3-L1 Cells was Attenuated by Berberine Treatment	共著	平成27年6月	Natural Product Communications, vol10.No6
Involvement of orexin-A neurons but not melanin-concentrating hormone neurons in the short-term regulation of food intake in rats.	共著	平成26年3月	J. Physiol. Sci. vol64.No3
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
肥満・高血圧ラット (SHRSP, Z-Leprfa/1zmDmcr) の腎障害におけるGLP-1の影響		平成27年10月	日本高血圧学会
Berberine投与による高血圧自然発症ラットの臓脂肪及び腎臓への影響		平成27年10月	日本高血圧学会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年～現在	高血圧関連疾患モデル学会評議員		
平成27年～現在	日本ポリフェノール学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 武庫川女子大学	講座名 薬理学Ⅱ	職名 助教	氏名 和久田 浩一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
(1) 研究室配属学生の卒業研究促進のための取り組み	平成21年4月 ～現在	学生主導で実験計画を立てさせ、随時、結果についてディスカッションし、学生の研究への理解と取り組みが深まっていくように工夫している。	
(2) 【実習】解剖生理学実験 (健康生命薬科学科3年 前期 1単位 必須)	平成21年4月 ～現在	評価にはペーパー試験を採用せず、レポートと毎日の質疑応答で評価する。従って、レポートでは、内容の正確さに加え、書き方、読みやすさや論理の展開の仕方もチェックする。書き直しをさせる場合もある。質疑応答は実験の種類や内容毎に形態を変えて行なっている。解剖実習の場合は、解剖しながら摘出し観察した臓器名と生理機能をすべて覚えさせ、終了後に正確に把握できるか、解剖生体を前にチェックする。 <i>in vivo</i> や <i>in vitro</i> の生理実験では、実験で得られたデータを前に、その値の変化について質問し、説明させる。できない場合はもう一度準備させてから、再チェックする。	
(3) 【実習】体の成り立ちと働きを調べる (薬学科3年 前期 1単位 必須)	平成21年4月 ～現在	「解剖生理学実験」と同様の創意工夫を基本的に行なっている。質疑応答や実技指導等の密度は高く、効率的な実習教育を実施している。	
(4) 【実習】健康生命薬科学実験 (健康生命薬科学科3年 後期 1単位 必須)	平成21年4月 ～現在	先端の機器を使用して、各研究室で実施したような実験を行なわせるとともに、実習結果を毎日に学会形式で発表させている。	
(5) 【実習】薬学基礎実験 (健康生命薬科学科1年 後期 1単位 必須)	平成23年4月 ～現在	動物実験の基礎として、動物実験の倫理と必要性を学んだ上で、受講生全員に実際に動物の取り扱いを体験させた。基礎的な手技ではあるが、手技が確実に行えたのかを判断できるような実験系にしている。また、怪我などがおこらぬよう、最大限の注意を払って実験指導をしている。	
(6) 【演習】薬学基礎演習Ⅰ (健康生命薬科学科1年 前期 1単位 必須)	平成24年4月 ～現在	演習問題を受講生に解かせ、質問があれば、1人1人に個別に対応する。どこが分からないのかを明らかにし、理解し納得するまで説明する。学力レベルに合わせた説明を心がけている。	
(7) 【演習】薬学の基礎としての数学・化学 (薬学科1年 前期 2単位 必須)	平成24年4月 ～現在	演習問題を受講生に解かせ、質問があれば、1人1人に個別に対応する。どこが分からないのかを明らかにし、理解し納得するまで説明する。学力レベルに合わせた説明を心がけている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
(1) 実習帳	平成23年4月	解剖生理学の実習を行うための実習帳を担当教官とともに作成した。各章ごとに、理解すべきポイント等を記載、また、レポート用シートを挿入し、観察や考察のポイントを解りやすくした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
(1) 非常勤講師	平成26年9月～現在	京都光華女子大学「臨床検査・病理 a, b」 (H26 授業評価 平均評価 a 4.4点/5点満点、 b 4.5点/5点満点)	
(2) 薬学実務実習FD	平成27年12月9日	改訂モデル・コアカリキュラムに基づく薬学実務実習FD	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Highly sensitive measurement of P-glycoprotein-mediated transport activity in Caco-2 cells.	共著	平成22年7月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 33, 1238-1241.
A novel method using confocal laser scanning microscopy for sensitive measurement of P-glycoprotein-mediated transport activity in Caco-2 cells.	共著	平成23年8月	Journal of Pharmacy and Pharmacology, 63, 1015-1021.
Effects of functional food constituents on P-glycoprotein activity in Caco-2 cells determined by a new method using confocal laser scanning microscopy.	共著	平成23年12月	応用薬理, 81, 35-40.
Is hyperuricemia a risk factor for arteriosclerosis? Uric acid and arteriosclerosis in apolipoprotein E-deficient mice.	共著	平成26年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 37, 1866-1871.
Differential effects of mitogen-activated protein kinase pathway inhibitors on P-glycoprotein activation.	共著	平成27年4月	ADMET & DMPK, 3, 77-83.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ラット摘出膀胱におけるノビレチンおよびタンゲレチンの影響		平成27年9月	第22回 日本排尿機能学会
A Maternal High Salt Diet During Pregnancy and Lactation Affects Offspring Cardiac Function		平成27年9月	Council on Hypertension 2015 Scientific Sessions
ラット膀胱収縮機能に対する食品成分の影響		平成27年12月	第8回 排尿障害モデル動物研究会
Otsuka Long-Evans Tokushima Fattyラットの血管周囲脂肪組織は動脈拡張能に影響を及ぼさない		平成28年3月	第89回 日本薬理学会年会
メタボリックシンドロームモデルラットにおける加齢に伴う酸化ストレスの増加: プロテアーゼ活性化型受容体-2を介した血管弛緩反応への影響		平成28年3月	第89回 日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～平成26年3月	浜甲子園団地代議員(浜甲子園団地自治体)		
平成26年1月～平成28年1月	薬事審議会公募委員(兵庫県, 平成26年12月16日～部会委員兼務)		
平成26年4月～現在	食品安全モニター(内閣府食品安全委員会)		
平成27年8月～現在	大阪府立今宮高等学校 特別非常勤講師(科目: 医薬学入門)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

